

大熊町 住民意向調査 報告書

令和4年3月

復興庁
福島県
大熊町

大熊町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 調査結果（主要項目）	5
2-1 回答者の属性・状況	7
2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））	7
2-1-2 世帯人数（問6・問9）	7
2-1-3 現在の居住自治体（問7）	8
2-1-4 震災発生当時の住居形態（問5）	8
2-1-5 現在の住居形態（問8-1）	9
2-2 調査結果	10
2-2-1 大熊町への帰町意向（問10）	10
2-2-2 大熊町に戻ること考えた理由（問11-1）	12
2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること （問11-2）	13
2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問12-2）	14
2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問13-2）	15
2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態 〔戻りたいと考えている方〕（問13-3）	16
2-2-7 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態 〔まだ判断がつかない方〕（問13-3）	16
2-2-8 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問14-1）	17
2-2-9 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への 影響（問14-3）	18
2-2-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住意向（問13-4）	19

2-2-11	特定復興再生拠点区域に希望する住居形態（問 13-5）	21
2-2-12	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に 居住しない理由（問 13-6）	22
2-2-13	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を 判断できない理由（問 13-7）	23
2-2-14	大熊町に戻らないと決めている理由（問 16-1）	24
2-2-15	大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援 （問 16-3）	25
2-2-16	大熊町に帰町しない場合に居住を検討する自治体 （既に居住している場合を含む）（問 16-4）	25
2-2-17	大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する 住居形態（既に居住している場合を含む）（問 16-5）	26
2-2-18	大熊町との「つながり」を保ちたいか（問 15-1）	26
2-2-19	大熊町を訪れたい頻度（問 15-2）	27
2-2-20	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向 （問 17）	28
2-2-21	大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向（問 19-1）	28
2-2-22	大熊町に関する情報の入手経路（問 22-1）	29
2-2-23	大熊町役場からの情報提供の満足度（問 22-2）	29
2-2-24	関心のある情報（問 22-3）	30
III	調査結果（全項目）	31
3-1	回答者の属性	33
3-1-1	性別	33
3-1-2	年齢	33
3-1-3	現在の職業（就業形態）	34
3-1-4	現在の業種	35
3-2	東日本大震災発生時の状況	36
3-2-1	震災発生当時の住まいの区域	36
3-2-2	震災発生当時の住まいの行政区	36
3-2-3	震災発生当時の住居形態	37
3-2-4	震災発生当時の世帯構成・人数	37
3-3	現在の状況	38
3-3-1	現在の居住自治体	38
3-3-2	現在の住居形態	38
3-3-3	居住している災害公営住宅の住み心地や不便だと 感じていること	39
3-3-4	現在の世帯構成・人数	40

3-4	将来の意向	41
3-4-1	大熊町への帰町意向	41
3-4-2	大熊町に戻ること考えた理由	44
3-4-3	大熊町での今後の生活において必要だと感じていること	45
3-4-4	大熊町への帰町時期	47
3-4-5	大熊町へ帰町する場合の家族構成	48
3-4-6	大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数	49
3-4-7	大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設	49
3-4-8	大熊町へ帰町した場合に必要なサービス	50
3-4-9	大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態	51
3-4-10	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居住意向	52
3-4-11	特定復興再生拠点区域に希望する住居形態	53
3-4-12	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に 居住しない理由	54
3-4-13	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を 判断できない理由	54
3-4-14	大熊町への帰町を判断するために必要なこと	55
3-4-15	拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響	56
3-4-16	大熊町との「つながり」を保ちたいか	58
3-4-17	大熊町を訪れたい頻度	59
3-4-18	現時点で戻らないと決めている理由	60
3-4-19	帰町しない場合に今後の生活において必要な支援	62
3-4-20	帰町しない場合に居住を検討する自治体	62
3-4-21	帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	63
3-5	大熊町内での就労意向	64
3-5-1	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向	64
3-6	大川原地区での教育施設の開校	65
3-6-1	大川原地区への通園・通学の意向	65
3-6-2	大川原地区で通園・通学をさせたい校種	65
3-7	不動産の取り扱い意向	66
3-7-1	大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向	66
3-7-2	不動産利活用事業への登録	66
3-7-3	不動産利活用事業に登録していない理由	67
3-8	復興公営住宅	68
3-8-1	福島県営の復興公営住宅への入居意向	68

3-8-2	福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村	68
3-9	全世帯員の意向	69
3-9-1	性別	69
3-9-2	年齢	70
3-9-3	調査回答者との続柄	70
3-9-4	大熊町への帰町意向	71
3-9-5	今後の住まいの意向	72
3-9-6	大熊町に求める支援等	73
3-10	情報入手	74
3-10-1	大熊町に関する情報の入手経路	74
3-10-2	大熊町役場からの情報提供の満足度	74
3-10-3	関心のある情報	75
3-11	持続可能なまちづくりへの取り組み	76
3-11-1	「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度	76
3-11-2	持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見	76
3-12	意見・要望	78
3-12-1	意見に係る記入内容の分類結果	79
3-12-2	生活について	80
3-12-3	震災発生前の居住地について	81
3-12-4	賠償について	82
3-12-5	帰還について	83
3-12-6	避難期間中及び将来の住宅について	85
3-12-7	除染について	87
3-12-8	復旧・復興について	89
3-12-9	原発の安全性について	90
3-12-10	原発事故に対する対応について	91
3-12-11	その他	92
IV	参考資料	93
4-1	使用調査票	95

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされていた大熊町民の「帰町後の生活環境の改善」、「帰町に向けた諸施策の適切な実施に向けた取り組み」を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	大熊町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 5,135世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	令和3年11月1日（月）～令和3年11月15日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、大熊町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 2,185世帯（有効回収率42.6%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・「その他」に内訳を記載している項目に関しては、個別の項目を合算して構成比を改めて算出している。従って、内訳の回答比率の合計が、グラフ記載の「その他」の回答比率と合致しない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。
- ・Ⅱ調査結果（主要項目）の設問ごとのコメントについては、令和3年度について述べている。
（令和2年度の結果は、参考値として掲載）

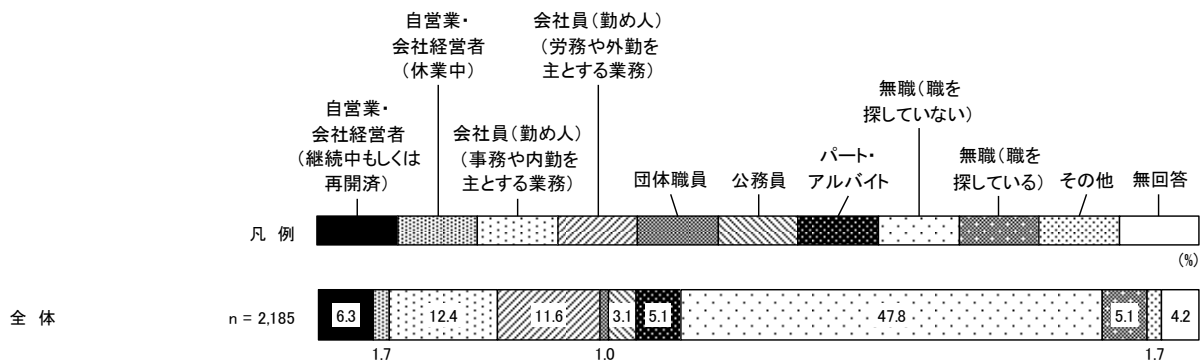
II 調査結果（主要項目）

2-1 回答者の属性・状況

2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が12.4%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.6%となっている。

<図表2-1-1 現在の職業（就業形態）>

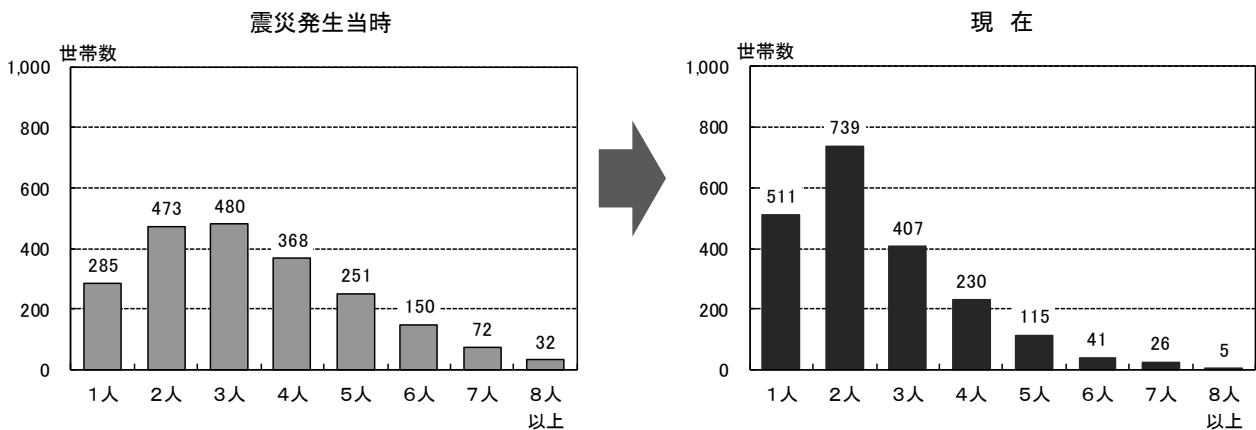


2-1-2 世帯人数（問6・問9）

世帯人数については、震災発生当時は「3人」が480世帯と最も多く、次いで「2人」が473世帯、「4人」が368世帯となっている。

現在の世帯人数は、「2人」が739世帯と最も多く、次いで「1人」が511世帯、「3人」が407世帯となっている。

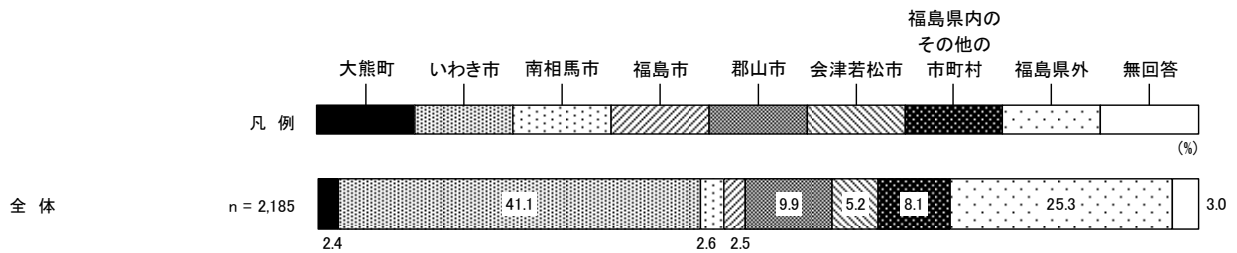
<図表2-1-2 世帯人数>



2-1-3 現在の居住自治体（問7）

現在の居住自治体については、「いわき市」が41.1%と最も高く、次いで「福島県外」が25.3%、「郡山市」が9.9%となっている。

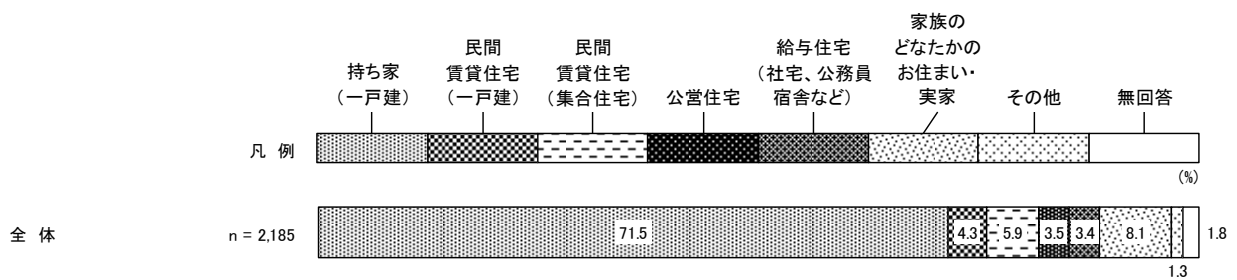
<図表2-1-3 現在の居住自治体>



2-1-4 震災発生当時の住居形態（問5）

震災発生当時の住居形態について、「持ち家（一戸建）」が71.5%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が8.1%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が5.9%となっている。

<図表2-1-4 震災発生当時の住居形態>

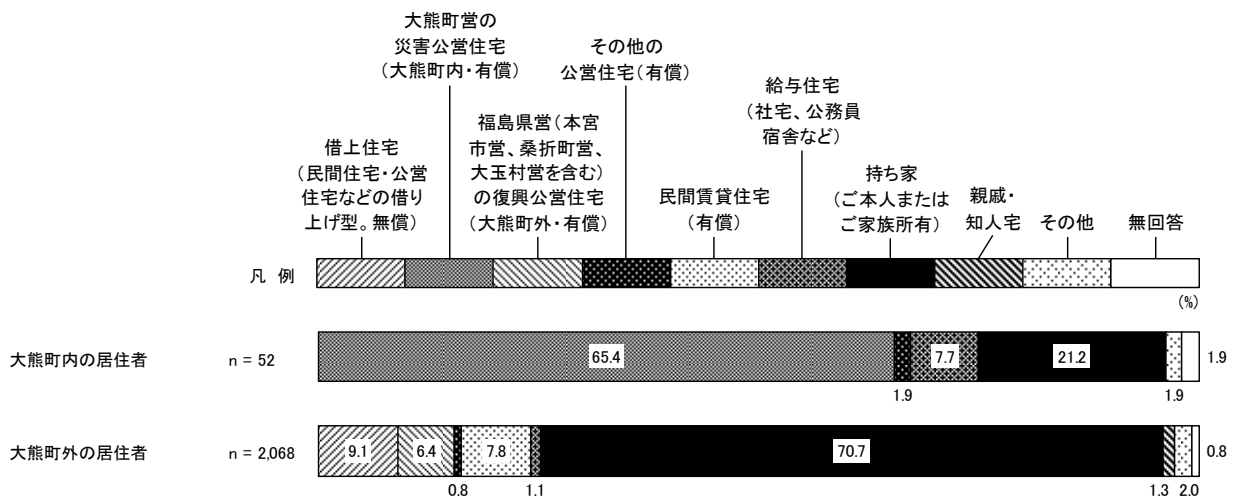


2-1-5 現在の住居形態（問 8-1）

現在の住居形態について、大熊町内の居住者では「大熊町営の災害公営住宅（大熊町内・有償）」が65.4%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が21.2%、「給与住宅（社宅、公務員宿舎など）」が7.7%となっている。

大熊町外の居住者では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が70.7%と最も高く、次いで「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が9.1%、「民間賃貸住宅（有償）」が7.8%となっている。

<図表2-1-5 現在の住居形態（現在の居住地域別）>



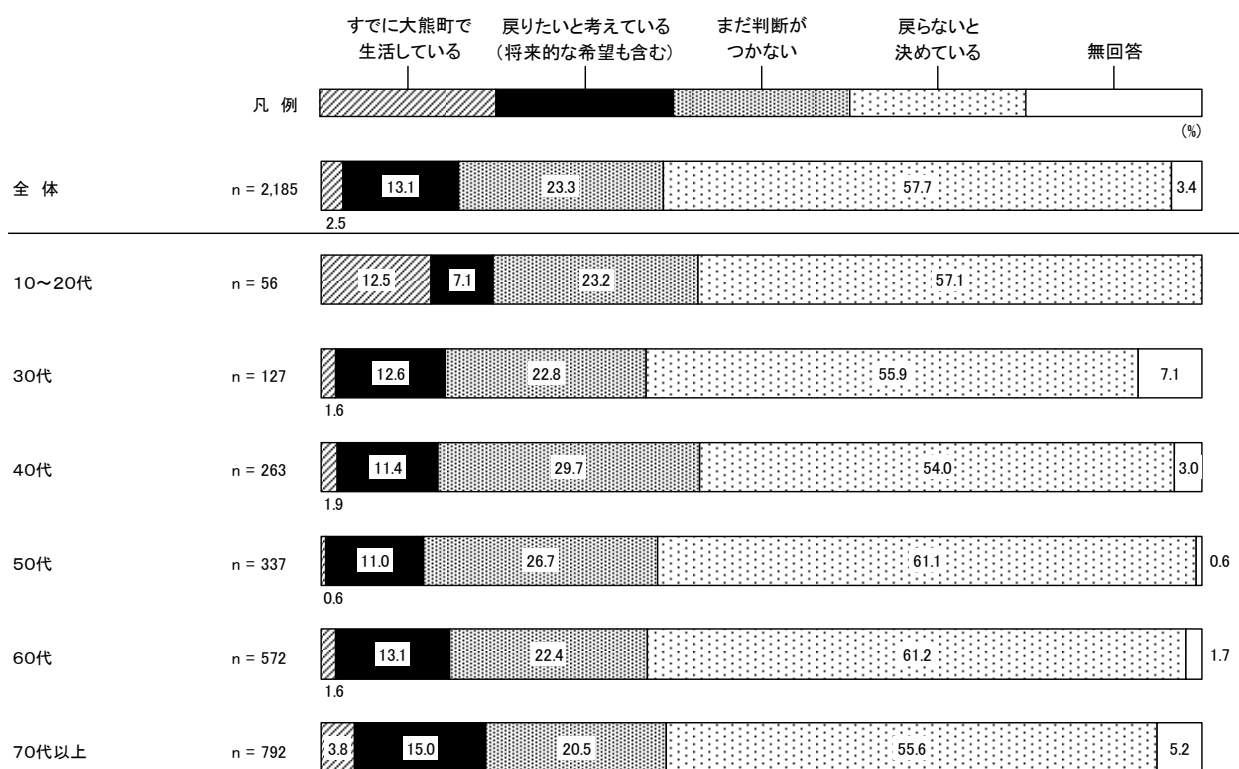
2-2 調査結果

2-2-1 大熊町への帰町意向（問10）

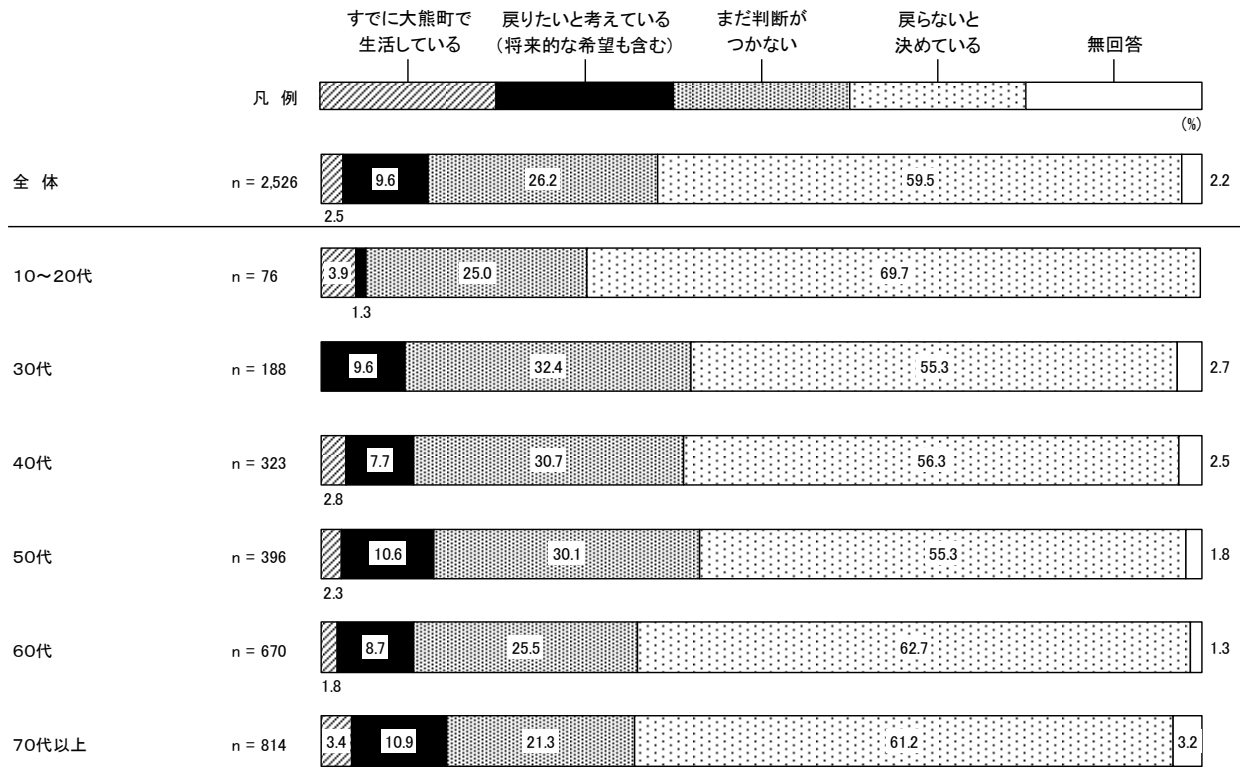
大熊町への帰町意向については、「すでに大熊町で生活している」（2.5%）、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」（13.1%）をあわせると、大熊町への帰町意向のある人は15.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある人は、10～20代で19.6%、70代以上で18.8%と2割に近い。一方、「戻らないと決めている」は50代で61.1%、60代で61.2%と6割を超えている。

<図表2-2-1-1 大熊町への帰町意向：令和3年度（年齢別）>



<図表2-2-1-2 大熊町への帰町意向：令和2年度（年齢別）>



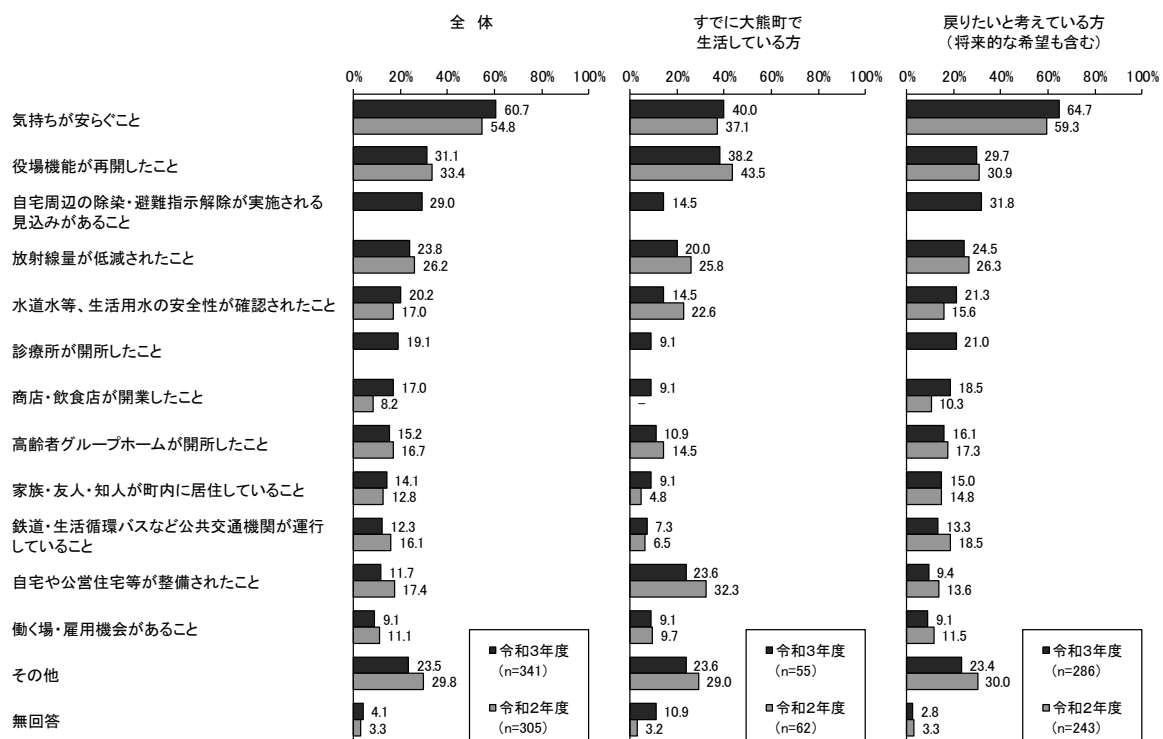
2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（問11-1）

大熊町へ戻ることを考えた理由については、「気持ちが安らぐこと」が60.7%と最も高く、次いで「役場機能が再開したこと」が31.1%、「自宅周辺の除染・避難指示解除が実施される見込みがあること」が29.0%となっている。

帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している方では、「気持ちが安らぐこと」が40.0%と最も高く、次いで「役場機能が再開したこと」が38.2%、「自宅や公営住宅等が整備されたこと」が23.6%となっている。

戻りたいと考えている方では、「気持ちが安らぐこと」が64.7%と最も高く、次いで「自宅周辺の除染・避難指示解除が実施される見込みがあること」が31.8%、「役場機能が再開したこと」が29.7%となっている。

<図表2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（帰町意向別）>



※問10で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ

※複数回答可

※令和3年度からの新規回答項目については、令和3年度結果のみ掲載

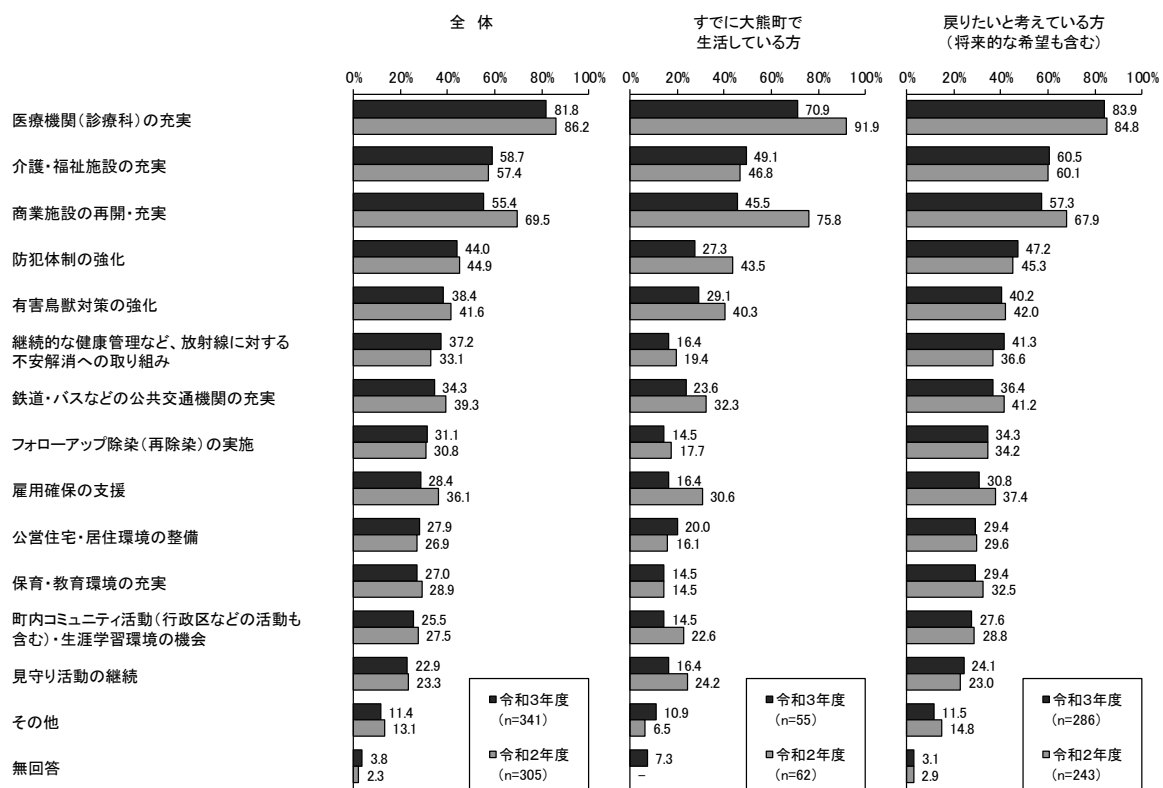
2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（問 11-2）

大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについては、「医療機関（診療科）の充実」が81.8%と最も高く、次いで「介護・福祉施設の充実」が58.7%、「商業施設の再開・充実」が55.4%となっている。

帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している方では、「医療機関（診療科）の充実」が70.9%と最も高く、次いで「介護・福祉施設の充実」が49.1%、「商業施設の再開・充実」が45.5%となっている。

戻りたいと考えている方では、「医療機関（診療科）の充実」が83.9%と最も高く、次いで「介護・福祉施設の充実」が60.5%、「商業施設の再開・充実」が57.3%となっている。

<図表2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（帰町意向別）>

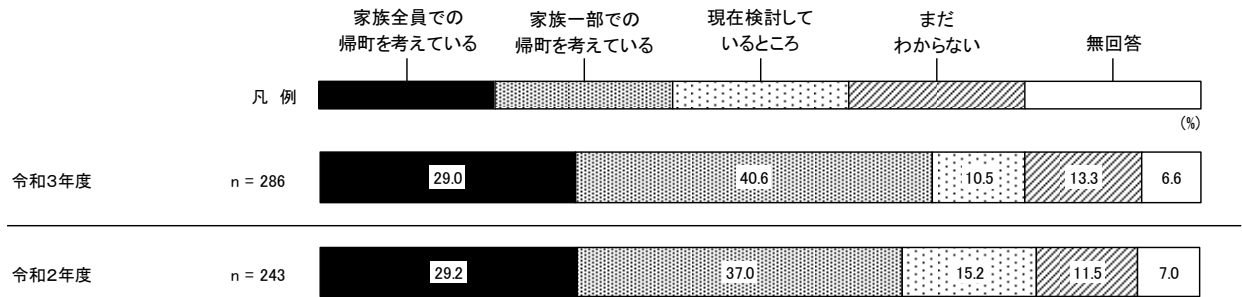


※問 10で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ
※複数回答可

2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問 12-2）

大熊町へ帰町する場合の家族構成については、「家族一部での帰町を考えている」が40.6%と最も高く、次いで「家族全員での帰町を考えている」が29.0%となっている。

<図表2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成>



※問 10 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ

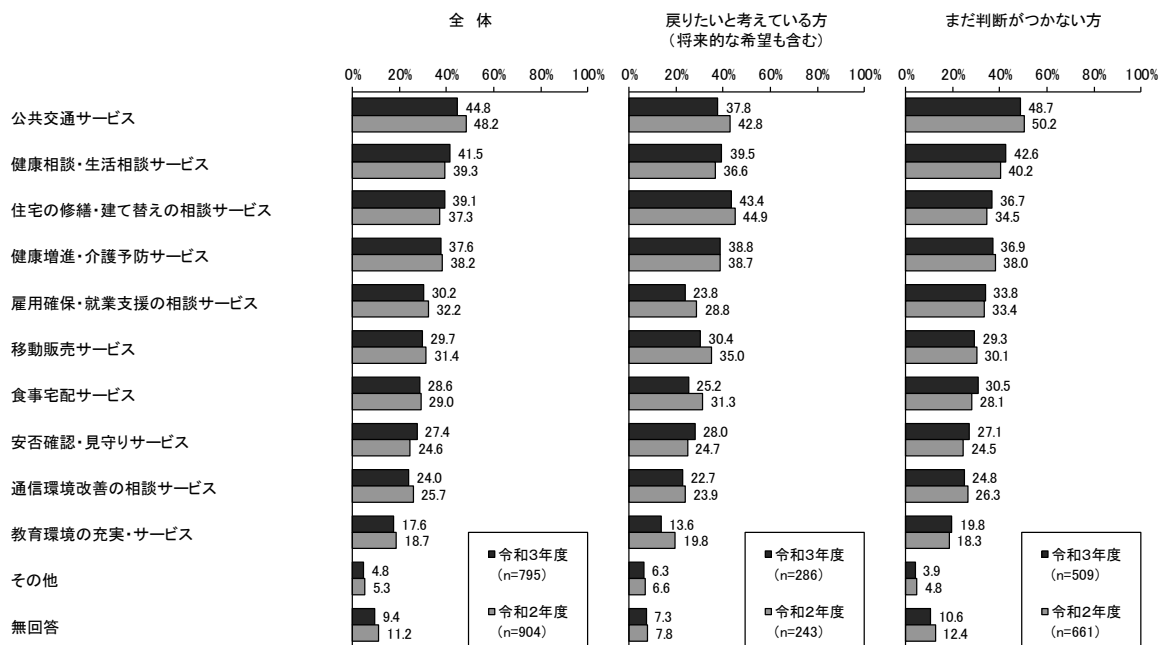
2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問 13-2）

大熊町へ帰町した場合に必要なサービスについては、「公共交通サービス」が44.8%と最も高く、次いで「健康相談・生活相談サービス」が41.5%、「住宅の修繕・建て替えの相談サービス」が39.1%となっている。

戻りたいと考えている方の帰町した場合に必要なサービスについては、「住宅の修繕・建て替えの相談サービス」が43.4%と最も高く、次いで「健康相談・生活相談サービス」が39.5%、「健康増進・介護予防サービス」が38.8%となっている。

まだ判断がつかない方の帰町した場合に必要なサービスについては、「公共交通サービス」が48.7%と最も高く、次いで「健康相談・生活相談サービス」が42.6%、「健康増進・介護予防サービス」が36.9%となっている。

<図表2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（帰町意向別）>

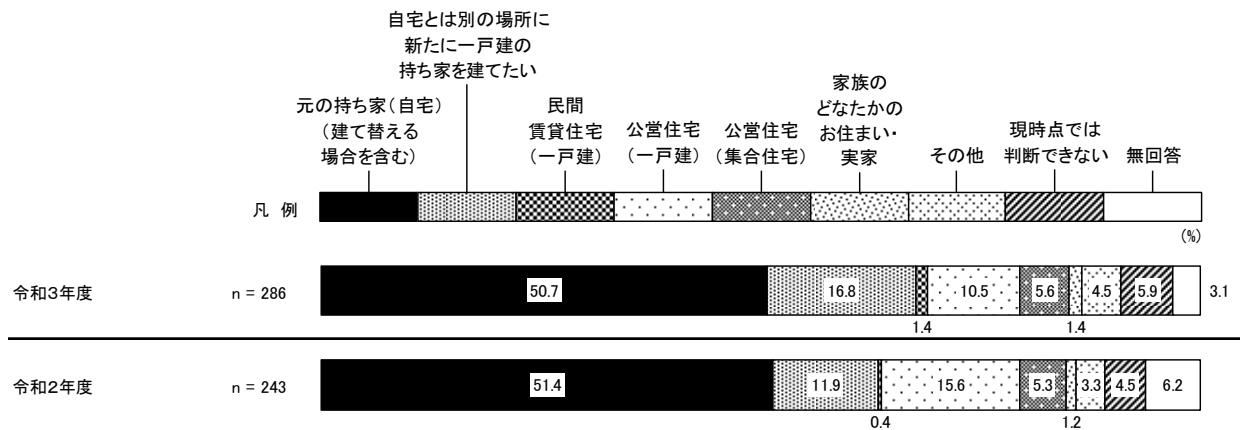


※問 10 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕
（問 13-3）

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が50.7%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が16.8%、「公営住宅（一戸建）」が10.5%となっている。

<図表2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕>

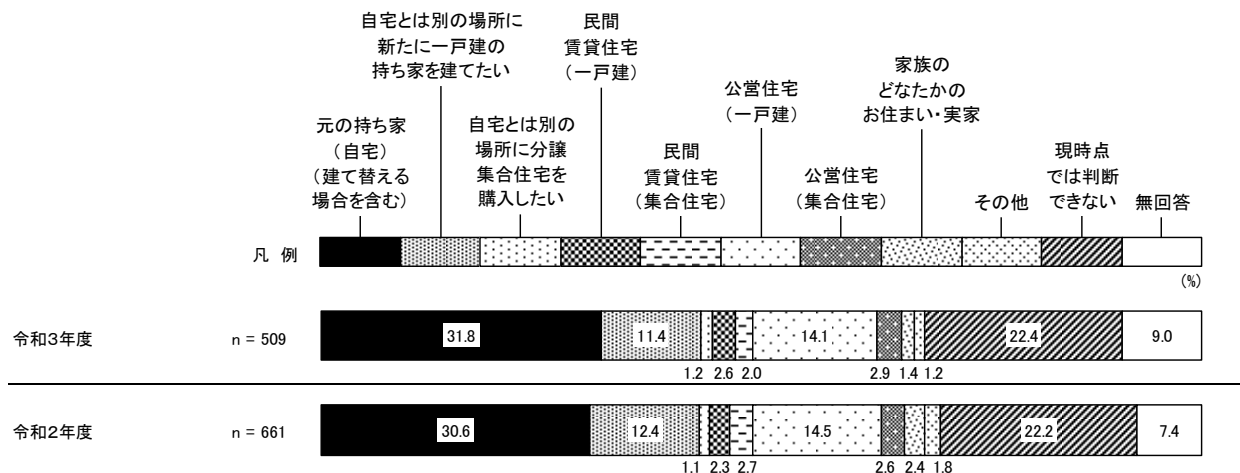


※問 10 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方のみ

2-2-7 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕
（問 13-3）

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が31.8%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が22.4%、「公営住宅（一戸建）」が14.1%となっている。

<図表2-2-7 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔まだ判断がつかない方〕>

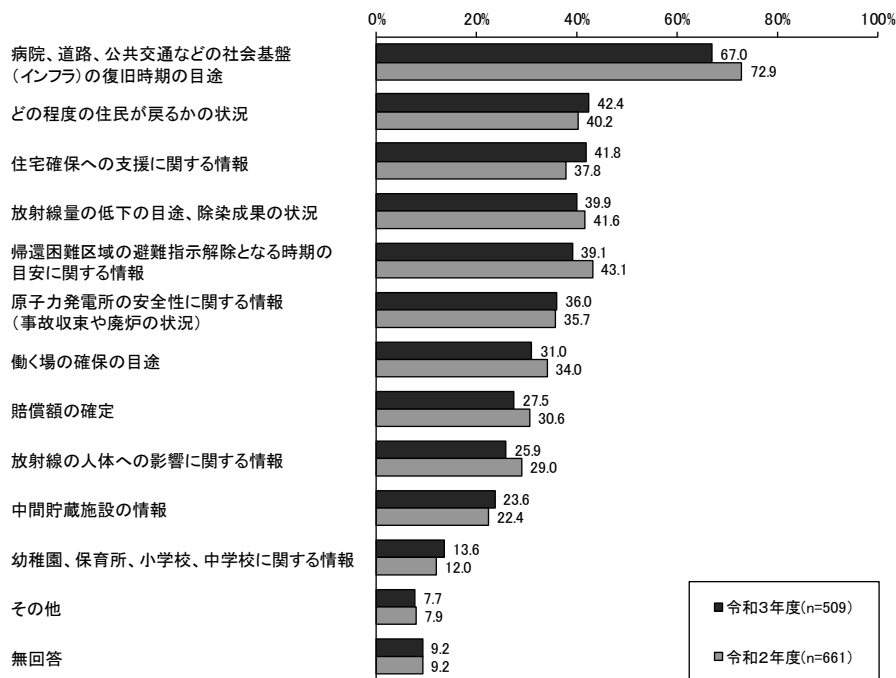


※問 10 で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ

2-2-8 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問 14-1）

大熊町への帰町を判断するために必要なことについては、「病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が67.0%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が42.4%、「住宅確保への支援に関する情報」が41.8%となっている。

<図表2-2-8 大熊町への帰町を判断するために必要なこと>



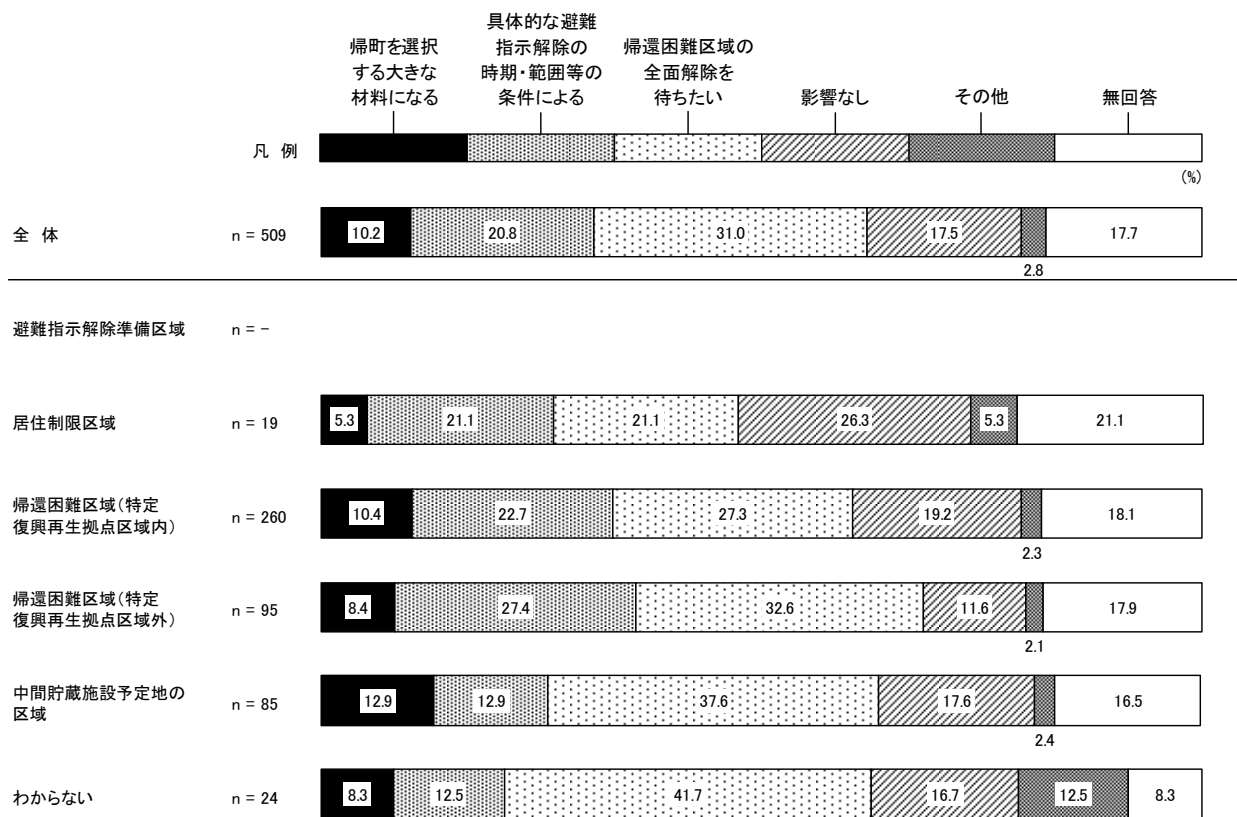
※問 10 で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-9 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響（問 14-3）

拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響については、「帰町を選択する大きな材料になる」が10.2%、「具体的な避難指示解除の時期・範囲等の条件による」が20.8%、「帰還困難区域の全面解除を待ちたい」が31.0%、「影響なし」が17.5%となっている。

避難指示区域別にみると、帰還困難区域（特定復興再生拠点区域内）では、「帰町を選択する大きな材料になる」が10.4%、「具体的な避難指示解除の時期・範囲等の条件による」が22.7%、「帰還困難区域の全面解除を待ちたい」が27.3%となっており、帰還困難区域（特定復興再生拠点区域外）では「帰町を選択する大きな材料になる」が8.4%、「具体的な避難指示解除の時期・範囲等の条件による」が27.4%、「帰還困難区域の全面解除を待ちたい」が32.6%となっている。

<図表2-2-9 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響（避難指示区域別）>



※問 10 で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ
 ※令和3年度からの新規設問

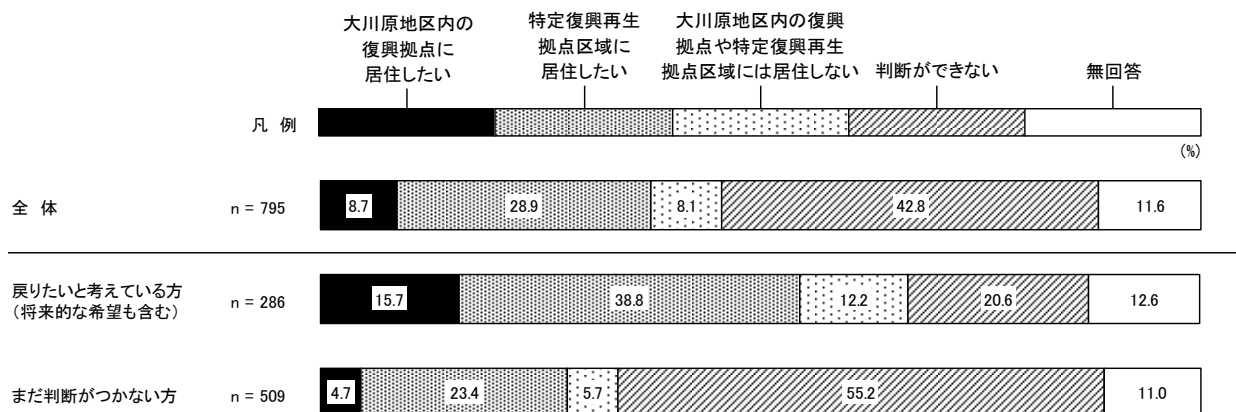
2-2-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（問 13-4）

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向については、「大川原地区内の復興拠点に居住したい」が8.7%、「特定復興再生拠点区域に居住したい」が28.9%となっている。「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」は8.1%、「判断ができない」は42.8%となっている。

帰町意向別にみると、戻りたいと考えている方では、「大川原地区内の復興拠点に居住したい」が15.7%、「特定復興再生拠点区域に居住したい」が38.8%となっており、いずれかに居住意向がある方は54.5%となっている。まだ判断つかない方では、「大川原地区内の復興拠点に居住したい」が4.7%、「特定復興再生拠点区域に居住したい」が23.4%となっており、いずれかに居住意向がある方は28.1%となっている。

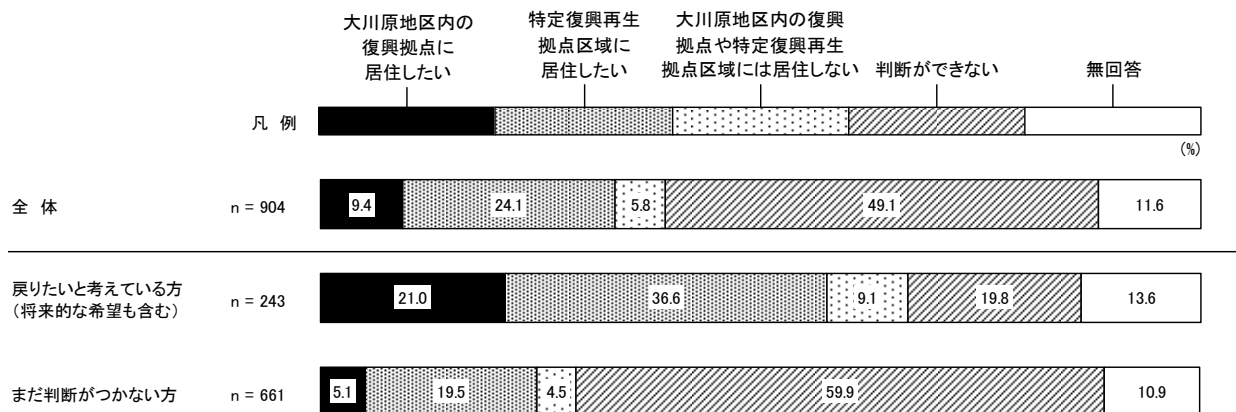
避難指示区域別にみると、居住制限区域では、「大川原地区内の復興拠点に居住したい」が61.1%と最も高くなっている。帰還困難区域（特定復興再生拠点区域内）では、「特定復興再生拠点区域に居住したい」が47.1%と最も高くなっている。帰還困難区域（特定復興再生拠点区域外）では、「大川原地区内の復興拠点には居住しない」が26.5%と他の避難指示区域より高い。中間貯蔵施設予定地の区域では、「判断ができない」が53.5%と最も高くなっている。

<図表2-2-10-1 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向：令和3年度（帰町意向別）>



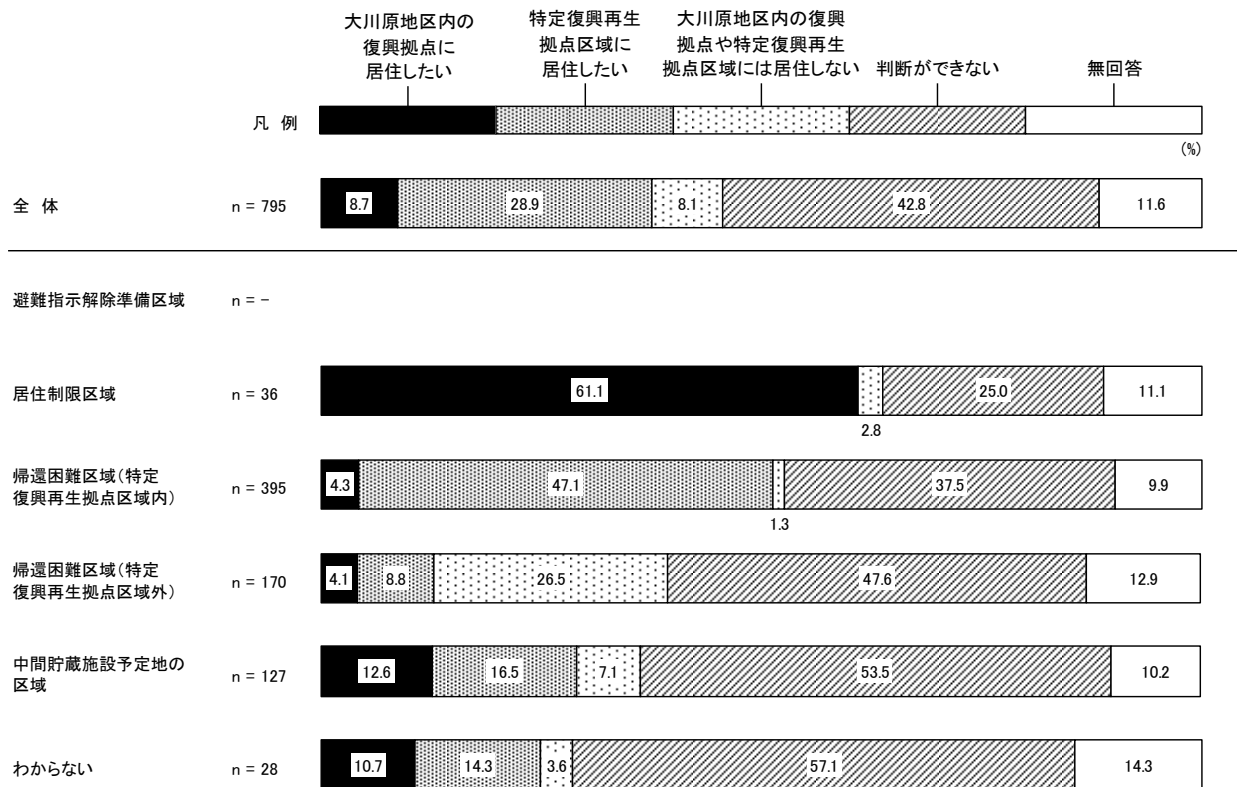
※問10で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した方のみ

<図表2-2-10-2 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向：令和2年度（帰町意向別）>



II 調査結果（主要項目）

<図表2-2-10-3 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（避難指示区域別）>



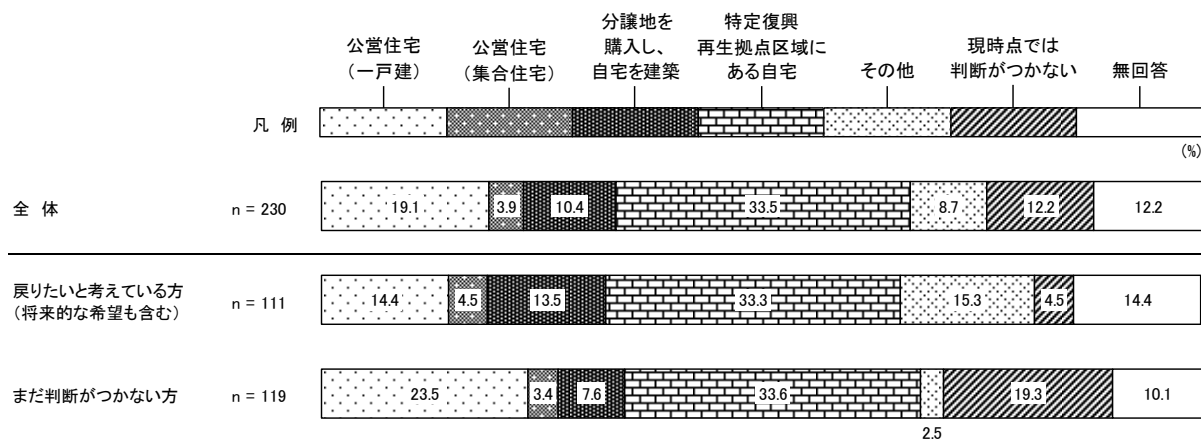
※問10で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した方のみ

2-2-11 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態（問 13-5）

特定復興再生拠点区域に希望する住居形態については、「特定復興再生拠点区域にある自宅」が33.5%と最も高く、次いで「公営住宅（一戸建）」が19.1%、「現時点では判断がつかない」が12.2%となっている。

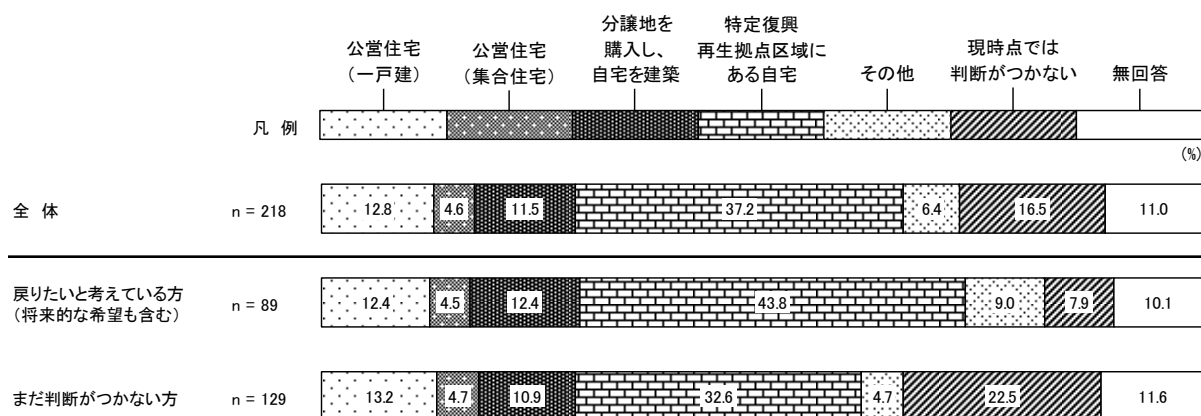
帰町意向別にみると、戻りたいと考えている方では、「分譲地を購入し、自宅を建築」が13.5%、まだ判断がつかない方では、「公営住宅（一戸建）」が23.5%と高くなっている。

<図表2-2-11-1 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態：令和3年度（帰町意向別）>



※問 13-4 で「特定復興再生拠点区域に住居したい」と回答した方のみ

<図表2-2-11-2 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態：令和2年度（帰町意向別）>

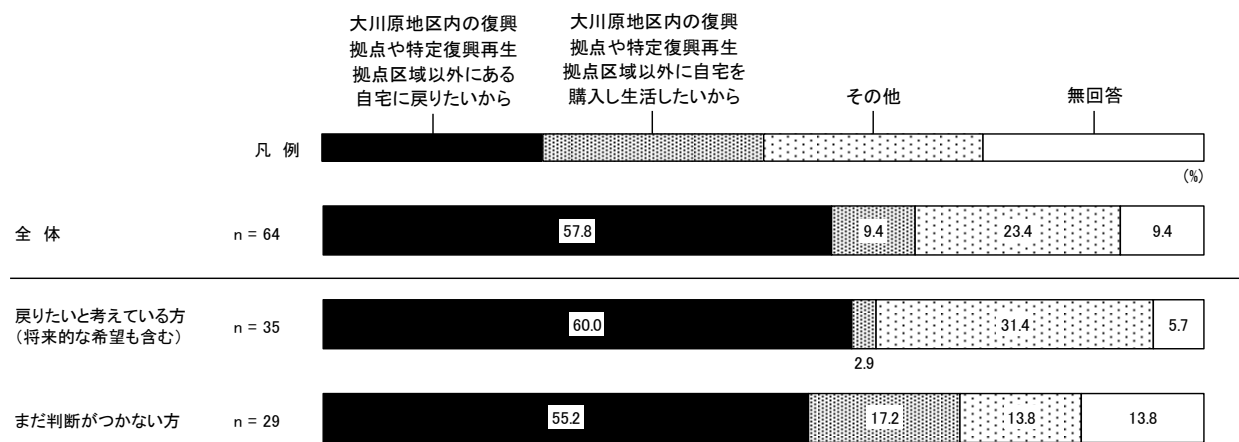


2-2-12 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由
(問 13-6)

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由については、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから」が57.8%、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購入し生活したいから」が9.4%となっている。

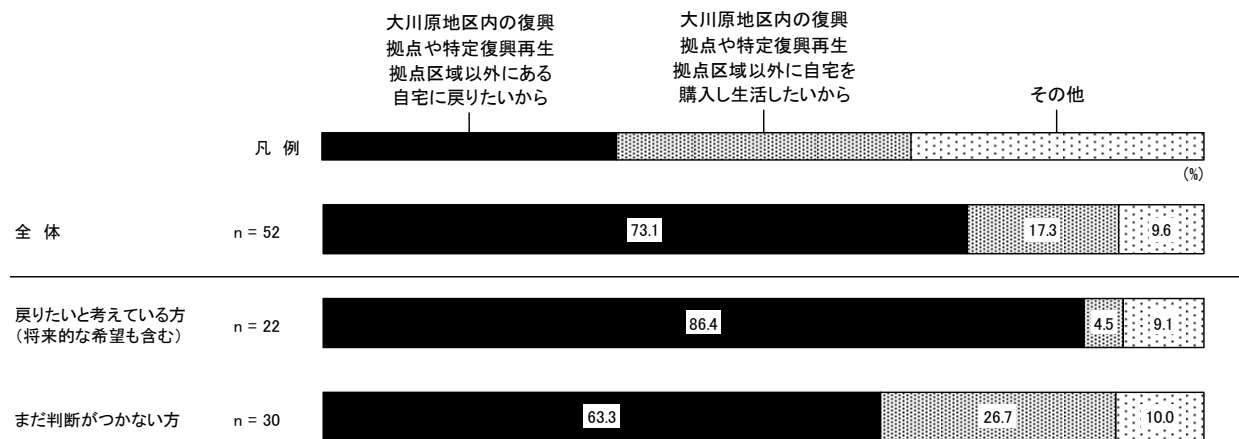
帰町意向別にみると、戻りたいと考えている方では、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから」が60.0%、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購入し生活したいから」が2.9%となっている。まだ判断がつかない方では、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから」が55.2%、「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購入し生活したいから」が17.2%となっている。

<図表2-2-12-1 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由：令和3年度（帰町意向別）>



※問 13-4 で「大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方のみ

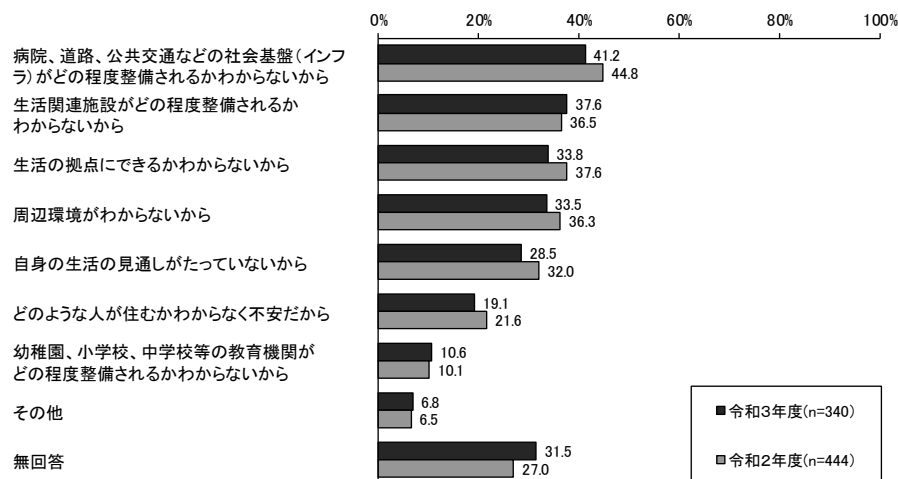
<図表2-2-12-2 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由：令和2年度（帰町意向別）>



2-2-13 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由 (問 13-7)

大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由については、「病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）がどの程度整備されるかわからないから」が41.2%と最も高く、次いで「生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから」が37.6%、「生活の拠点にできるかわからないから」が33.8%となっている。

<図表2-2-13 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由>

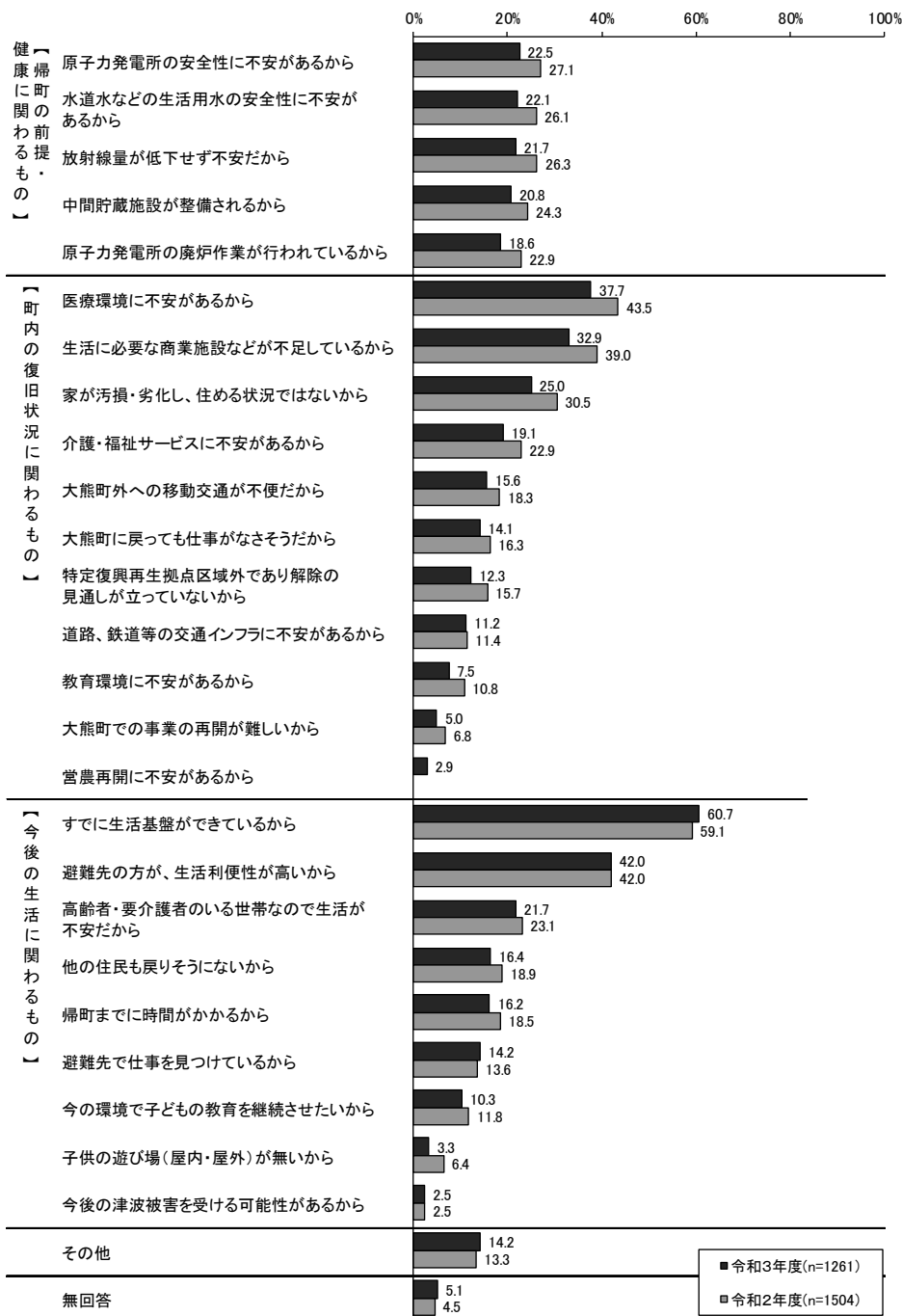


※問 13-4 で「判断ができない」と回答した方のみ
※複数回答可

2-2-14 大熊町に戻らないと決めている理由（問16-1）

大熊町に戻らないと決めている理由については、「すでに生活基盤ができているから」が60.7%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が42.0%、「医療環境に不安があるから」が37.7%となっている。

＜図表2-2-14 大熊町に戻らないと決めている理由＞

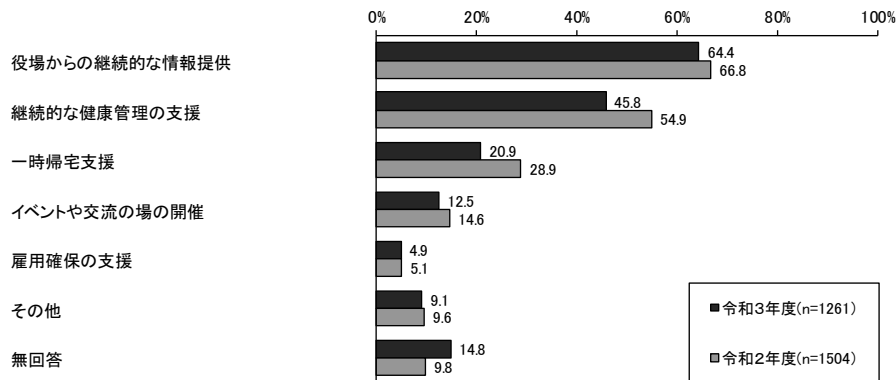


※問10で「戻らないと決めている」と回答した方のみ
 ※複数選択可
 ※令和3年度からの新規回答項目については、令和3年度結果のみ掲載

2-2-15 大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（問 16-3）

大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援については、「役場からの継続的な情報提供」が64.4%と最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」が45.8%、「一時帰宅支援」が20.9%となっている。

<図表2-2-15 大熊町に帰町しない場合に今後の生活において必要な支援>

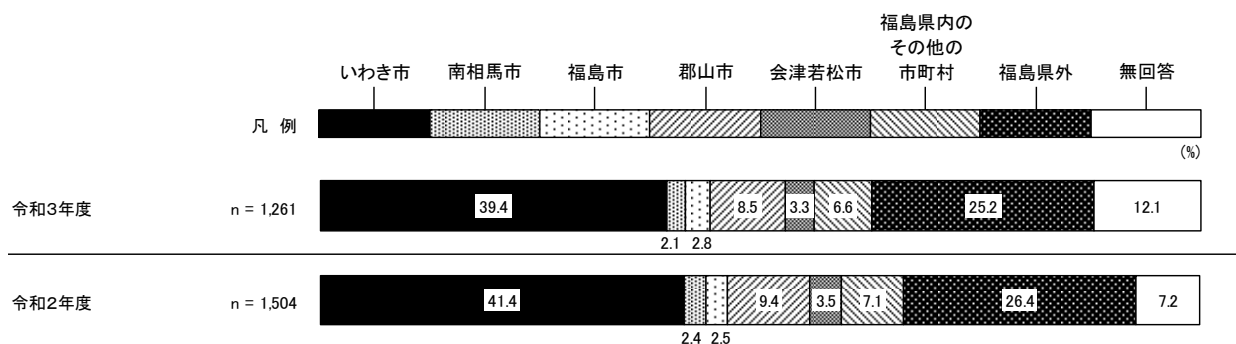


※問 10 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ
 ※複数回答可

2-2-16 大熊町に帰町しない場合に居住を検討する自治体（既に居住している場合を含む）（問 16-4）

大熊町に帰町しない場合に居住を検討する自治体（既に居住している場合を含む）については、「いわき市」が39.4%と最も高く、次いで「福島県外」が25.2%、「郡山市」が8.5%となっている。

<図表2-2-16 大熊町に帰町しない場合に居住を検討する自治体（既に居住している場合を含む）>

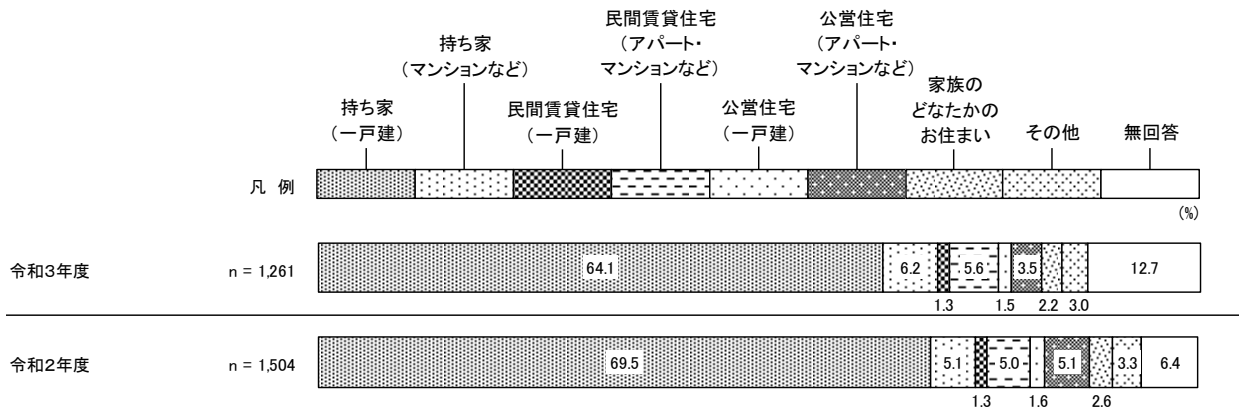


※問 10 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-2-17 大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（既に居住している場合を含む）（問 16-5）

大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（既に居住している場合を含む）については、「持ち家（一戸建）」が64.1%と最も高く、次いで「持ち家（マンションなど）」が6.2%、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が5.6%となっている。

<図表2-2-17 大熊町に帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（既に居住している場合を含む）>

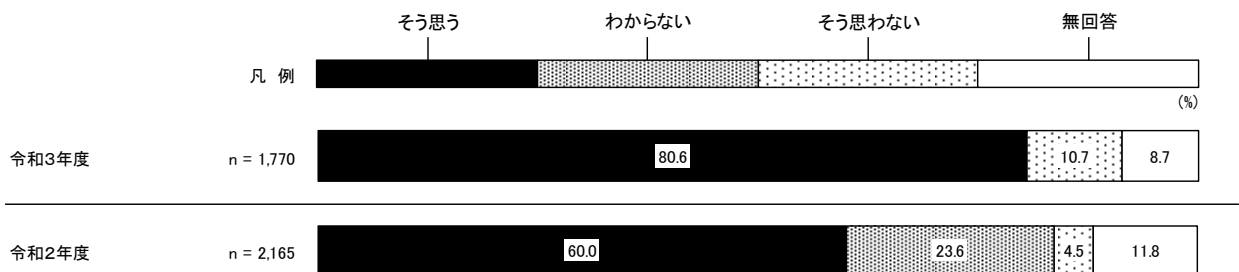


※問 10 で「戻らないと決めている」と回答した方のみ

2-2-18 大熊町との「つながり」を保ちたいか（問 15-1）

大熊町との「つながり」を保ちたいかについては、「そう思う」が80.6%、「そう思わない」が10.7%となっている。

<図表2-2-18 大熊町との「つながり」を保ちたいか>



※問 10 で「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方のみ

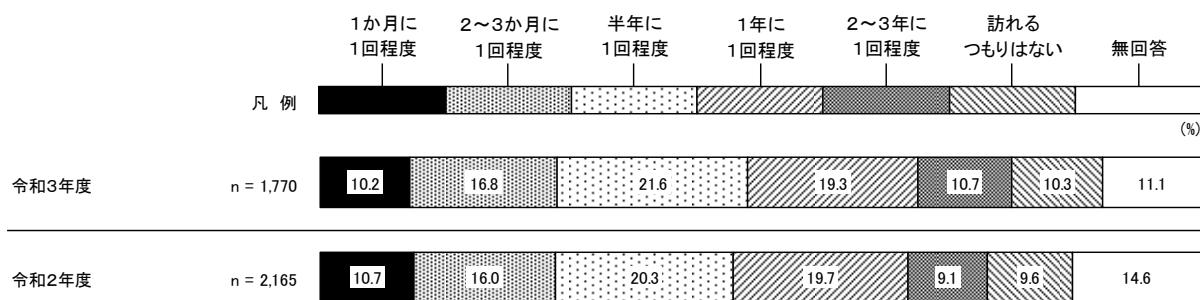
※令和3年度は、回答項目から「わからない」を削除

2-2-19 大熊町を訪れたい頻度（問 15-2）

大熊町を訪れたい頻度については、「半年に1回程度」が21.6%と最も高く、次いで「1年に1回程度」が19.3%、「2～3か月に1回程度」が16.8%となっている。

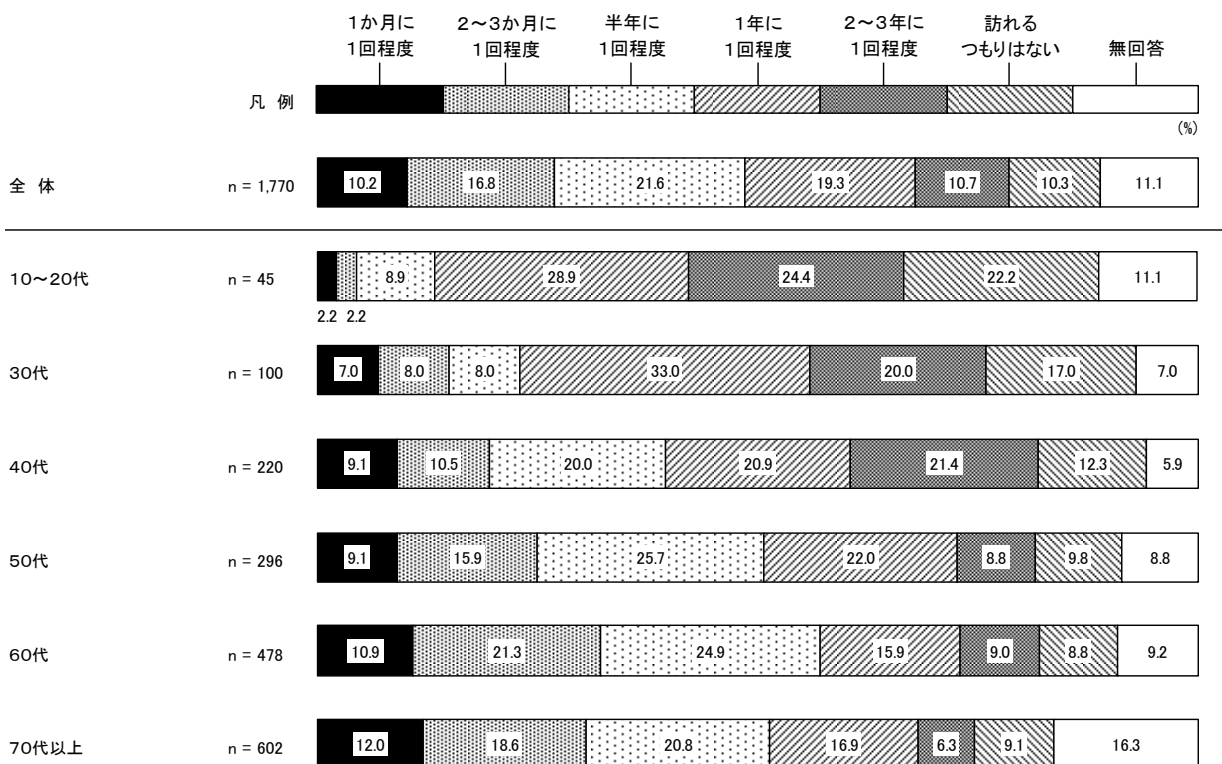
回答者の年齢別にみると、「半年に1回程度」は、50代で25.7%、60代で24.9%、70代以上で20.8%と最も高くなっている。「1年に1回程度」は、10～20代で28.9%、30代で33.0%と最も高くなっている。

<図表2-2-19-1 大熊町を訪れたい頻度>



※問 10 で「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方のみ

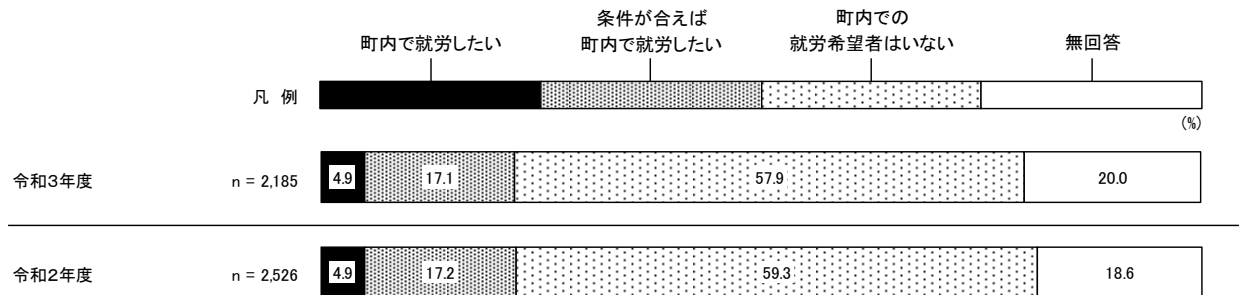
<図表2-2-19-2 大熊町を訪れたい頻度（年齢別）>



2-2-20 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（問 17）

大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向については、「町内で就労したい」が4.9%、「条件が合えば町内で就労したい」が17.1%、「町内での就労希望者はいない」が57.9%となっている。

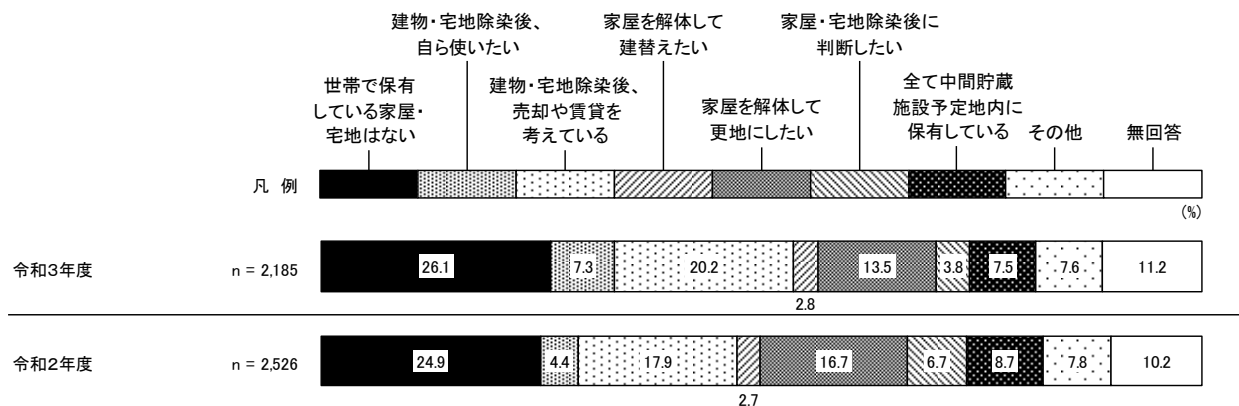
<図表2-2-20 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向>



2-2-21 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向（問 19-1）

大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向については、「世帯で保有している家屋・宅地はない」以外では、「建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」が20.2%と最も高く、次いで「家屋を解体して更地にしたい」が13.5%となっている。

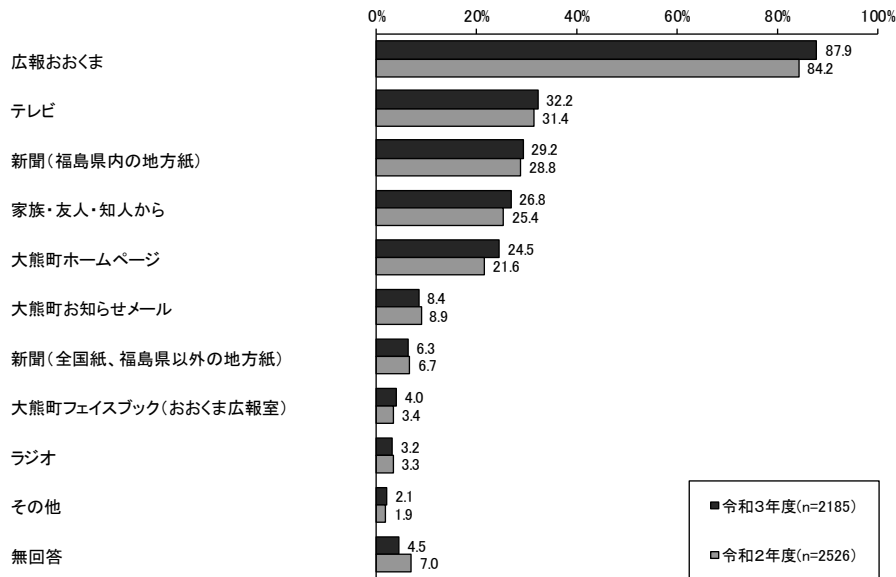
<図表2-2-21 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向>



2-2-22 大熊町に関する情報の入手経路（問 22-1）

大熊町に関する情報の入手経路については、「広報おおくま」が87.9%と最も高く、次いで「テレビ」が32.2%、「新聞（福島県内の地方紙）」が29.2%となっている。

＜図表2-2-22 大熊町に関する情報の入手経路＞

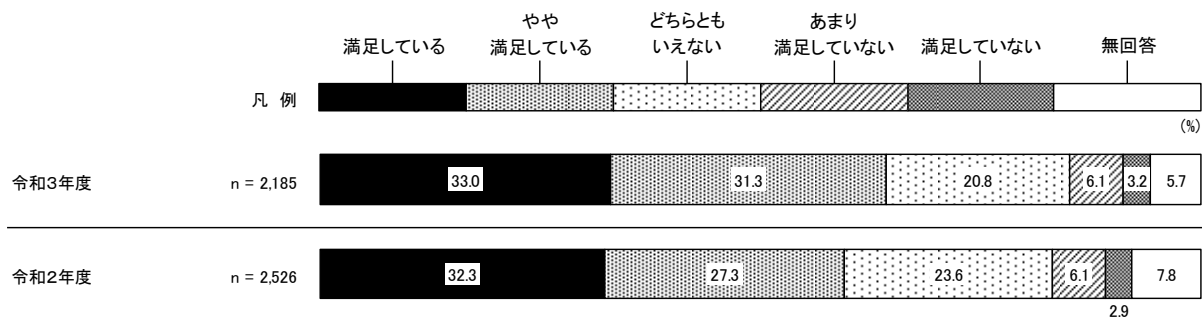


※複数回答可

2-2-23 大熊町役場からの情報提供の満足度（問 22-2）

大熊町役場からの情報提供の満足度については、「満足している」（33.0%）、「やや満足している」（31.3%）を合わせると、大熊町役場からの情報提供の満足度は64.3%となっている。

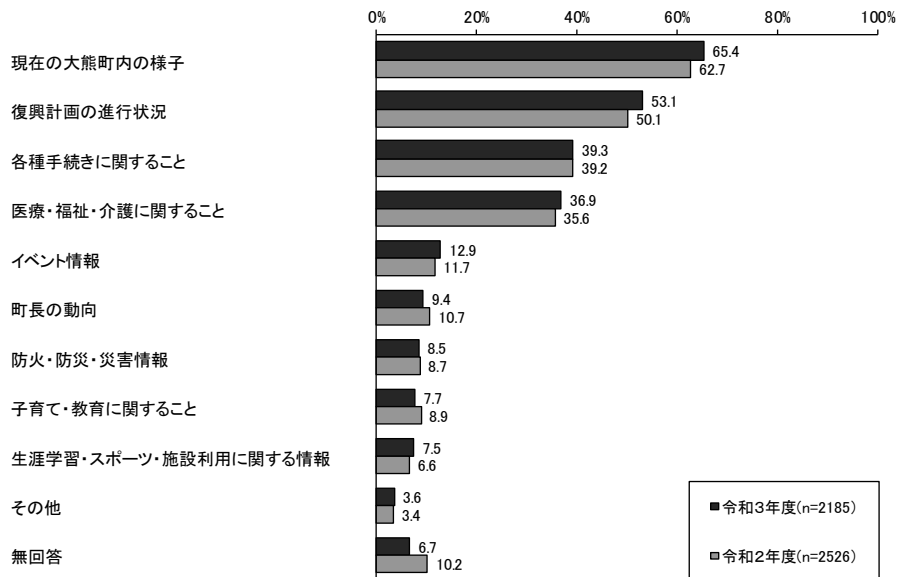
＜図表2-2-23 大熊町役場からの情報提供の満足度＞



2-2-24 関心のある情報（問 22-3）

関心のある情報については、「現在の大熊町内の様子」が65.4%と最も高く、次いで「復興計画の進行状況」が53.1%、「各種手続きに関すること」が39.3%となっている。

<図表2-2-24 関心のある情報>



※複数回答可

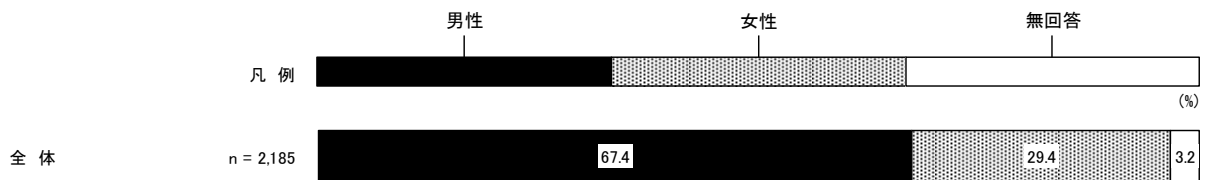
Ⅲ 調査結果（全項目）

3-1 回答者の属性

3-1-1 性別

問1 性別を教えてください。（〇は1つ）

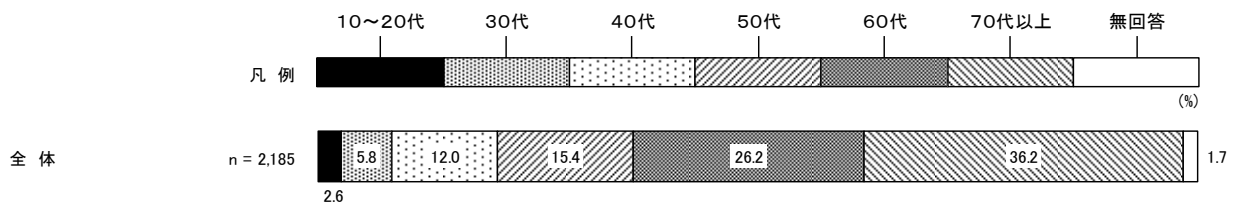
<図表3-1-1 性別>



3-1-2 年齢

問2 あなたの現在の年齢を教えてください。（〇は1つ）

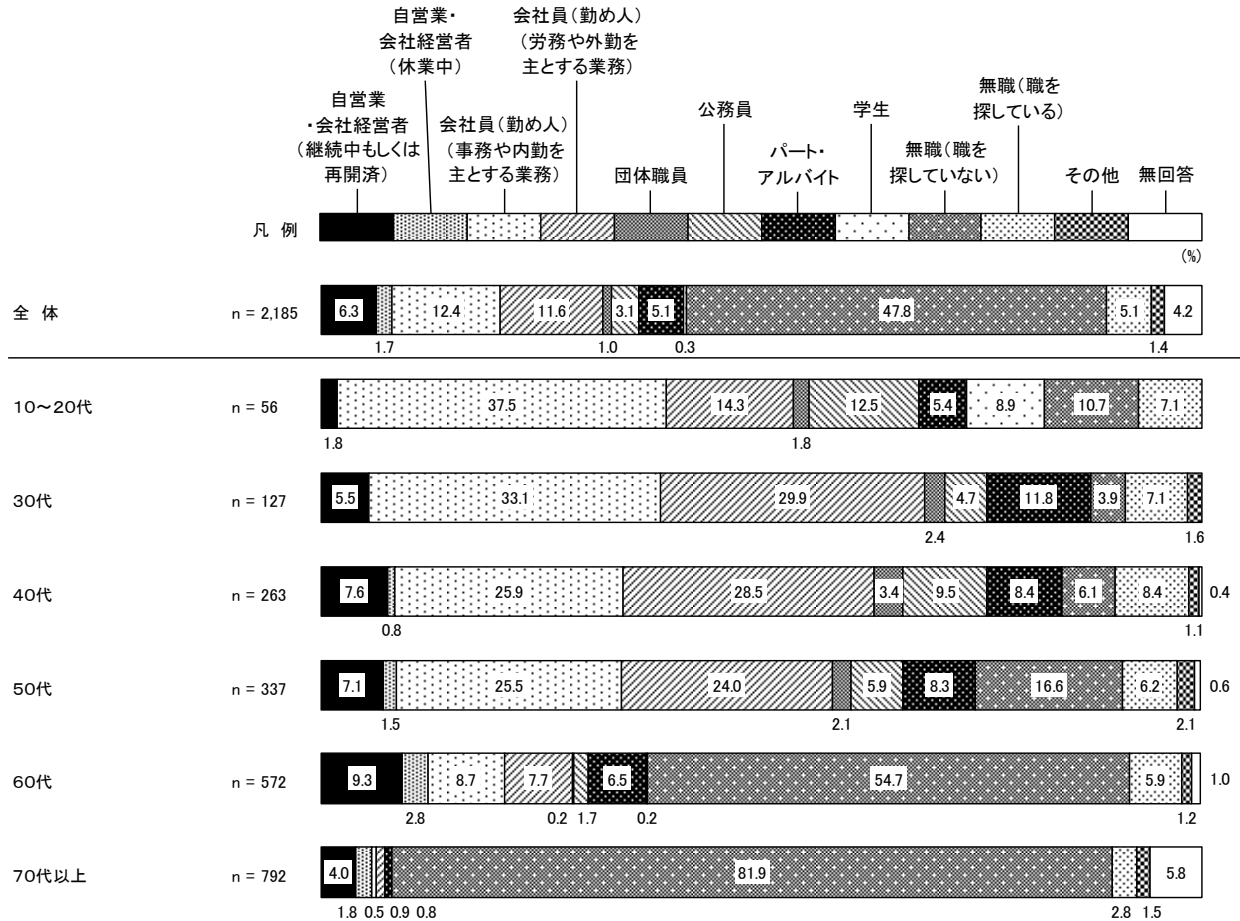
<図表3-1-2 年齢>



3-1-3 現在の職業（就業形態）

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）（○は1つ）

<図表3-1-3 現在の職業（就業形態）（年齢別）>



3-1-4 現在の業種

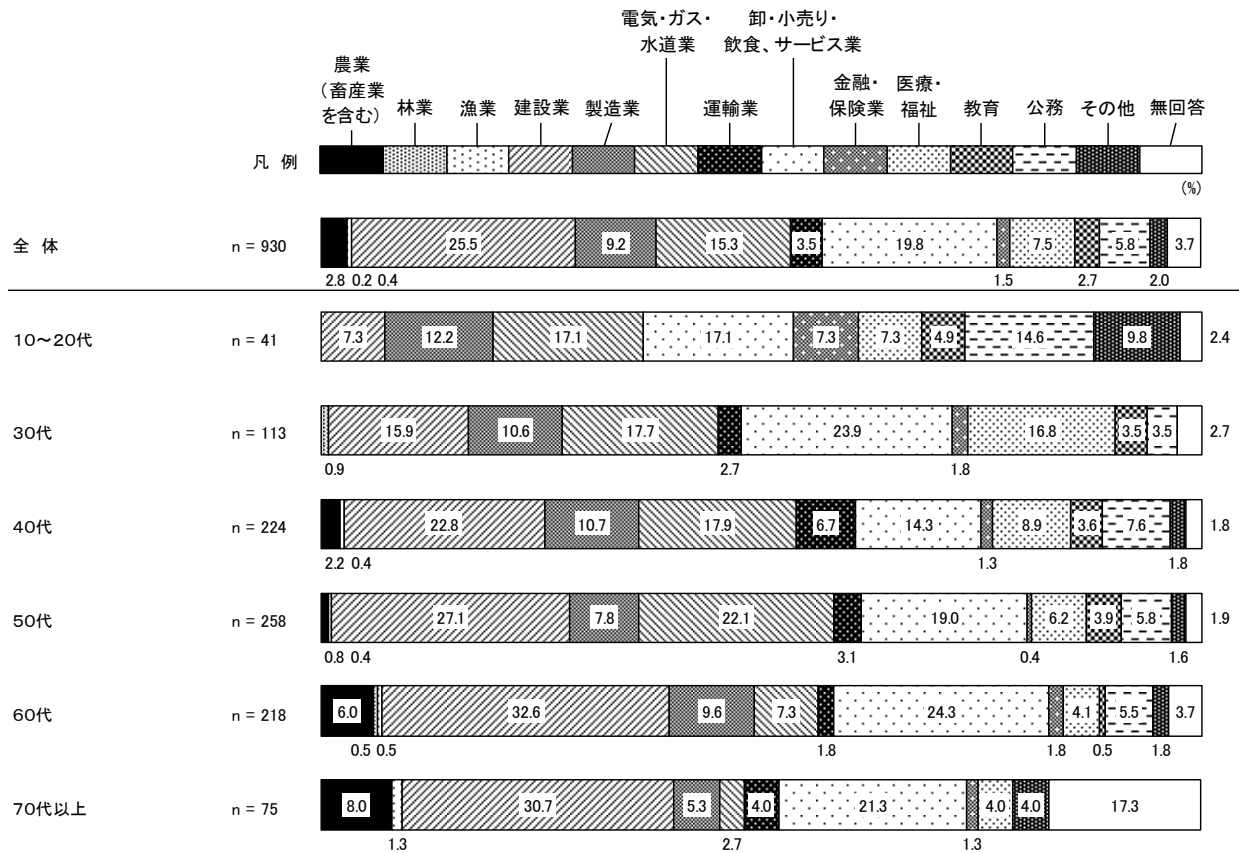
【仕事に就いている方（※問3（1）で「1」から「7」までと、「11」と回答した方）にうかがいます。】

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(2) 業種（○は1つ）

- ※問3（1）：1. 自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済） 2. 自営業・会社経営者（休業中）
 3. 会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務） 4. 会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）
 5. 団体職員 6. 公務員
 7. パート・アルバイト 11. その他

<図表3-1-4 現在の業種（年齢別）>

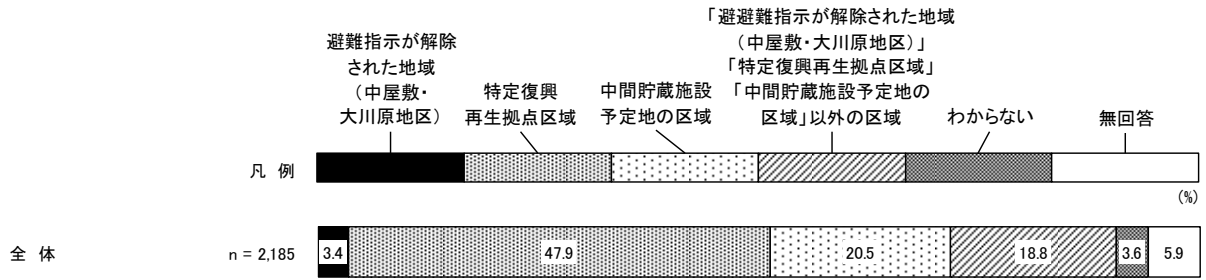


3-2 東日本大震災発生時の状況

3-2-1 震災発生当時の住まいの区域

問4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。（〇は1つ）

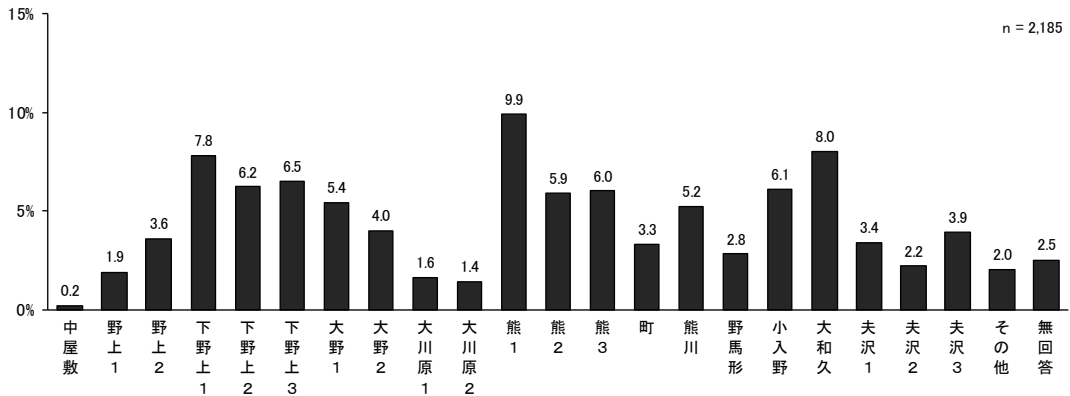
<図表3-2-1 震災発生当時の住まいの区域>



3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区

問4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。（〇は1つ）

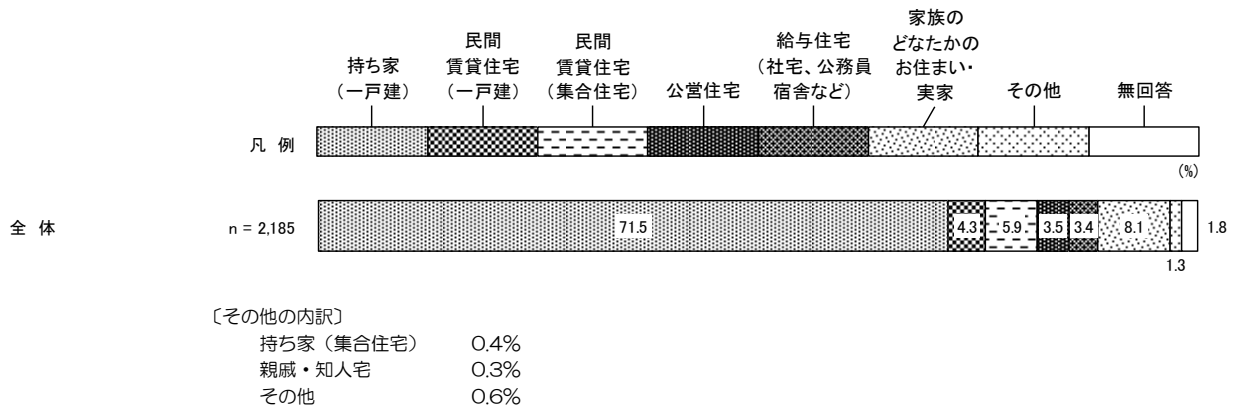
<図表3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区>



3-2-3 震災発生当時の住居形態

問5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。（〇は1つ）

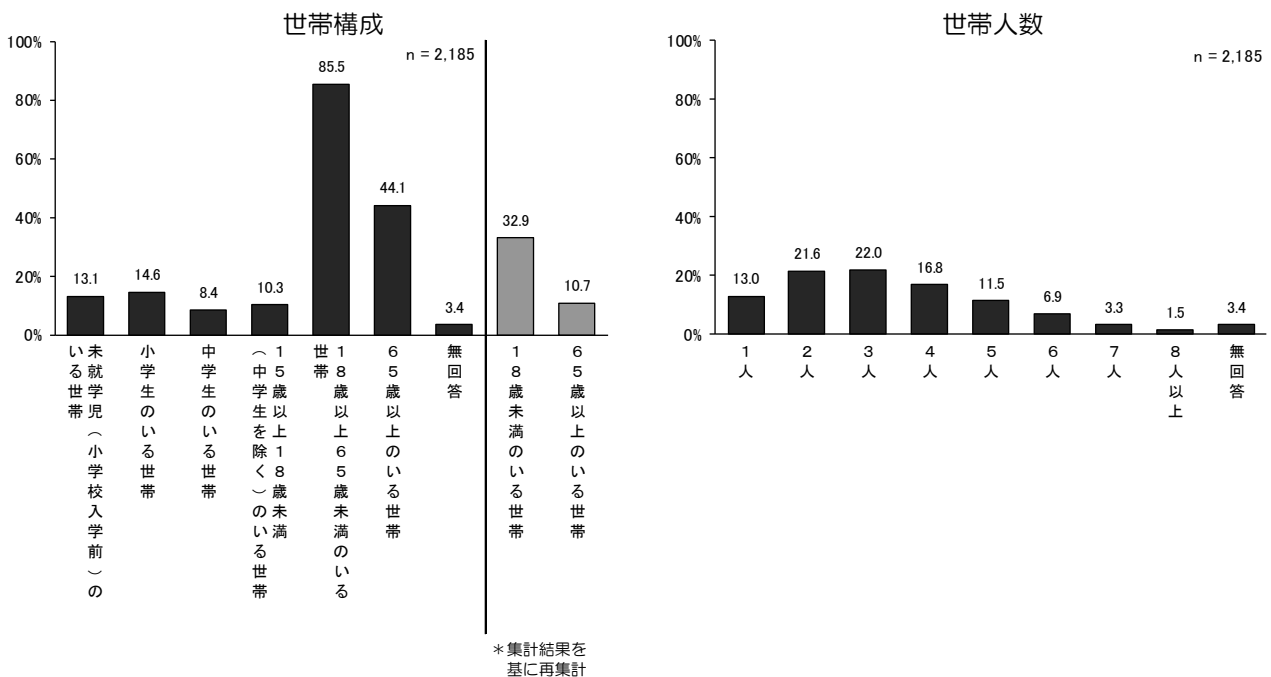
<図表3-2-3 震災発生当時の住居形態>



3-2-4 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

<図表3-2-4 震災発生当時の世帯構成・人数>

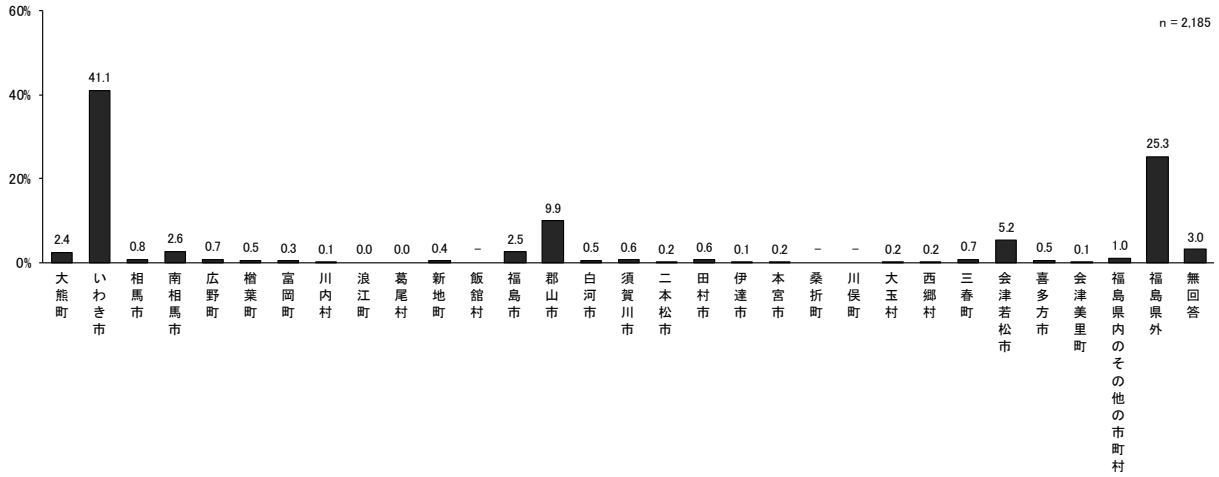


3-3 現在の状況

3-3-1 現在の居住自治体

問7 現在お住まいの自治体を教えてください。（〇は1つ）

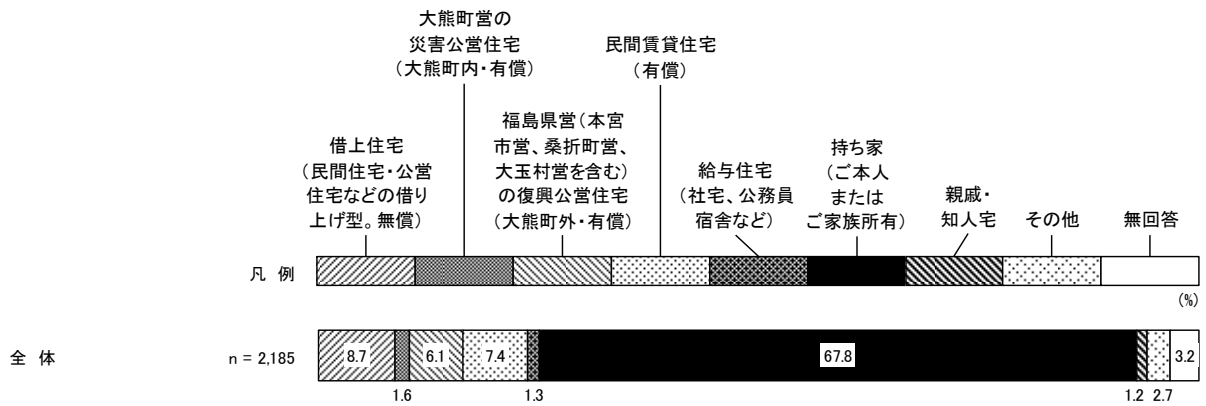
<図3-3-1 現在の居住自治体>



3-3-2 現在の住居形態

問8-1 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。（〇は1つ）

<図表3-3-2 現在の住居形態>

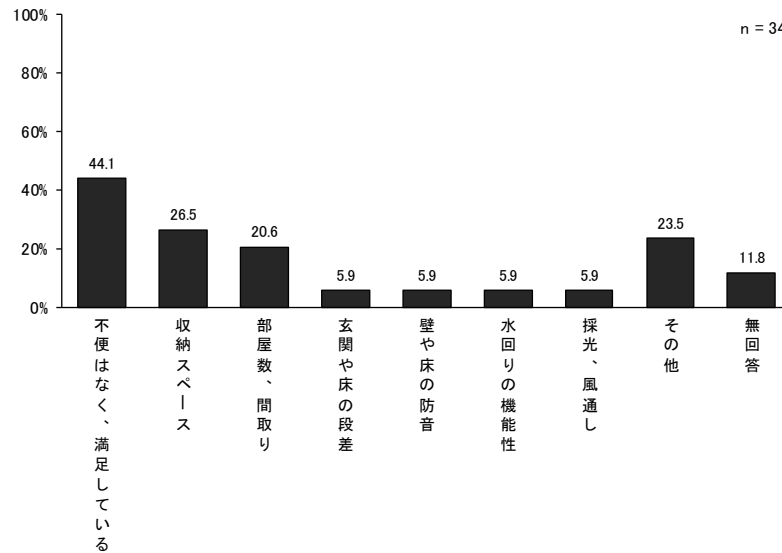


〔その他の内訳〕
 その他の公営住宅（有償） 0.8%
 その他 1.9%

3-3-3 居住している災害公営住宅の住み心地や不便だと感じていること

【問8-1で「2. 大熊町営の災害公営住宅（大熊町内・有償）」と回答した方にうかがいます。】
 問8-2 現在お住まいになっている災害公営住宅について、住み心地や不便を感じる部分について教えてください。
 （〇はいくつでも）

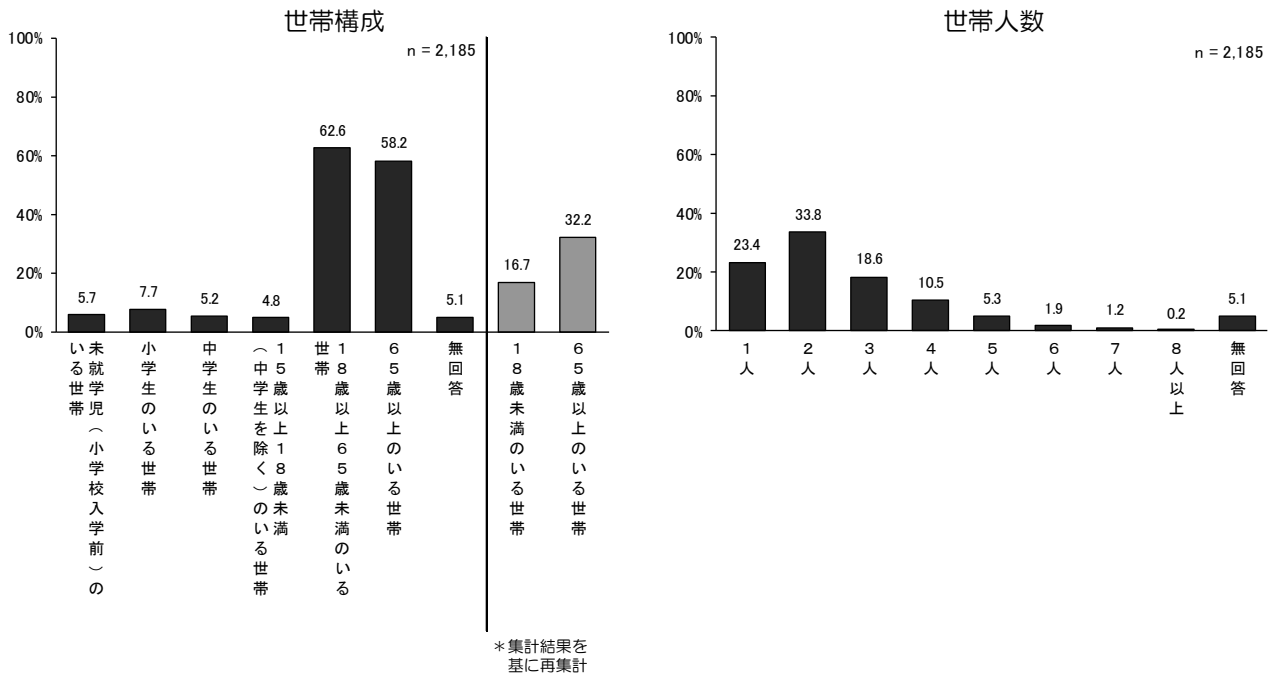
<図表3-3-3 居住している災害公営住宅の住み心地や不便だと感じていること>



3-3-4 現在の世帯構成・人数

問9 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

<図表3-3-4 現在の世帯構成・人数>

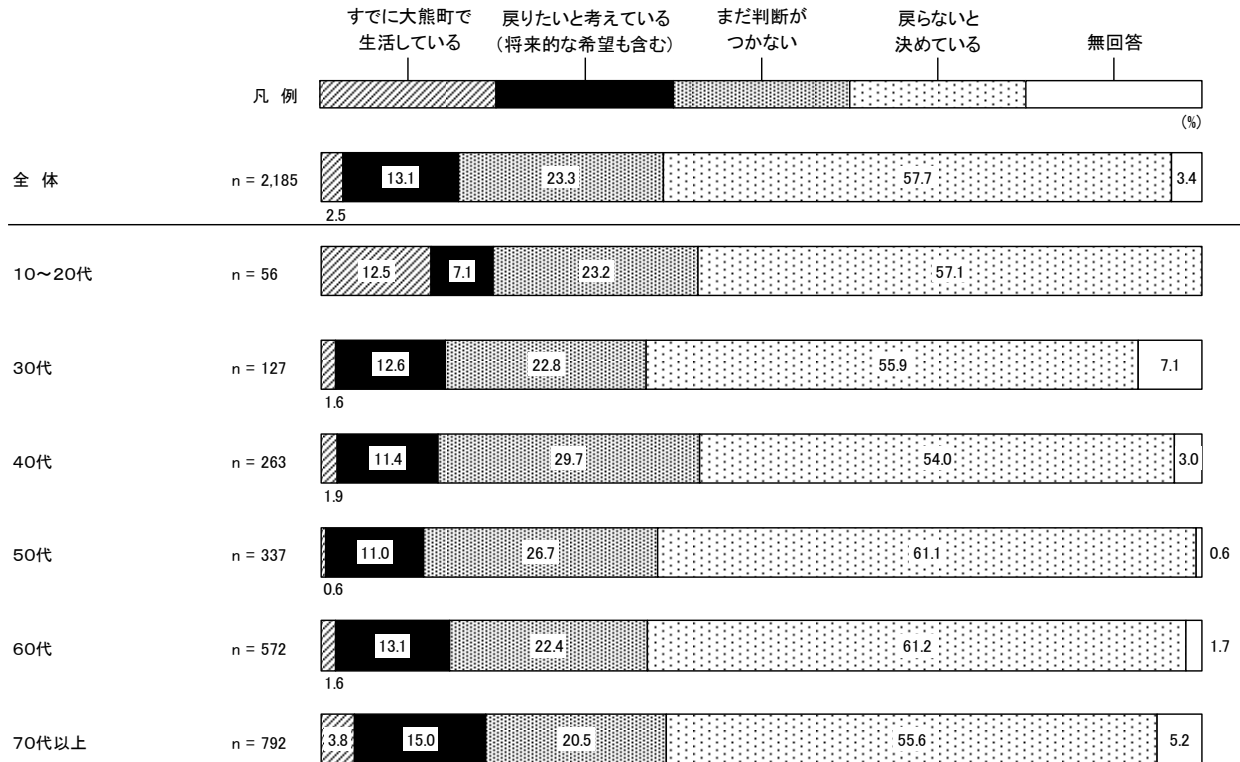


3-4 将来の意向

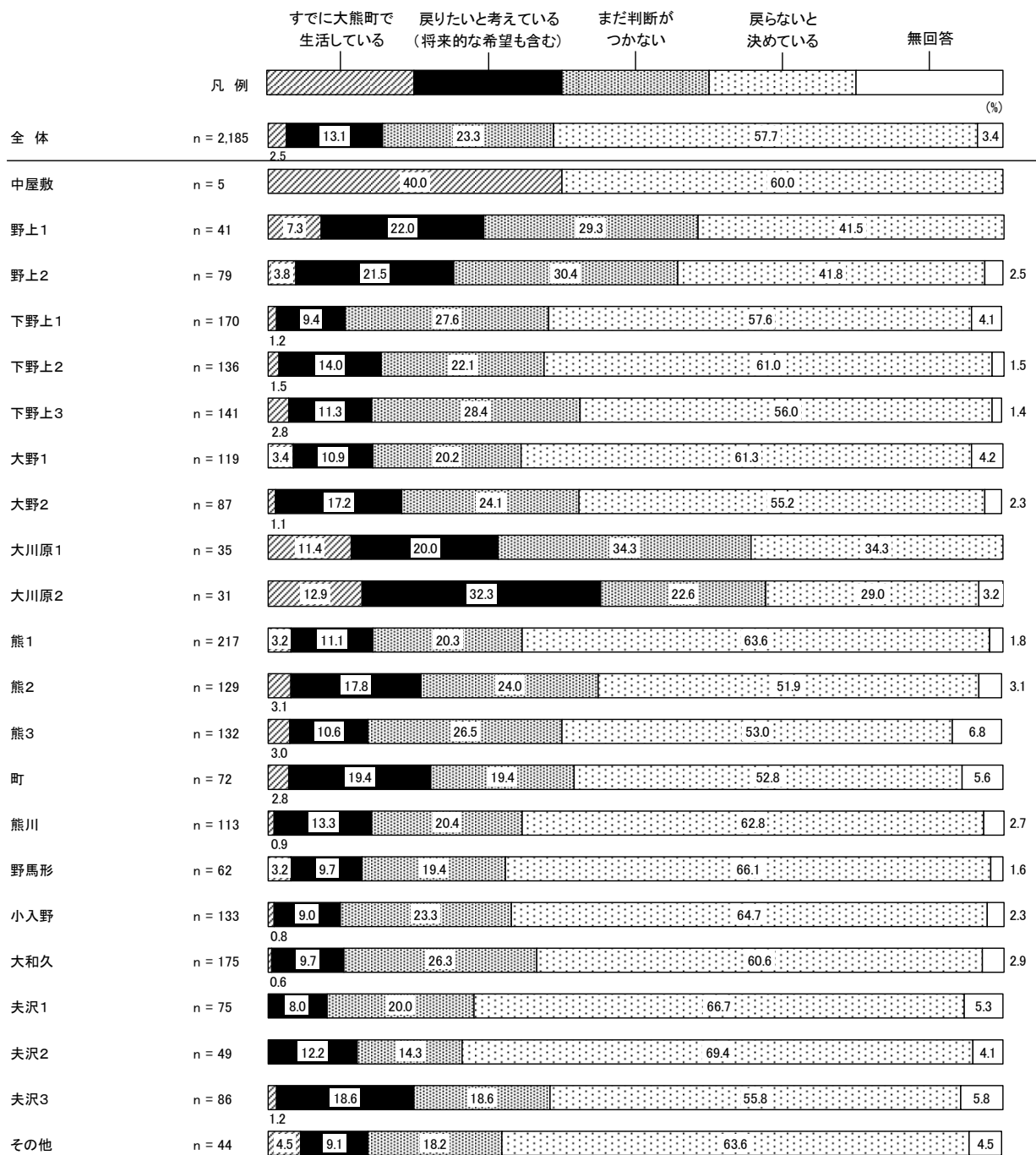
3-4-1 大熊町への帰町意向

問10 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（〇は1つ）

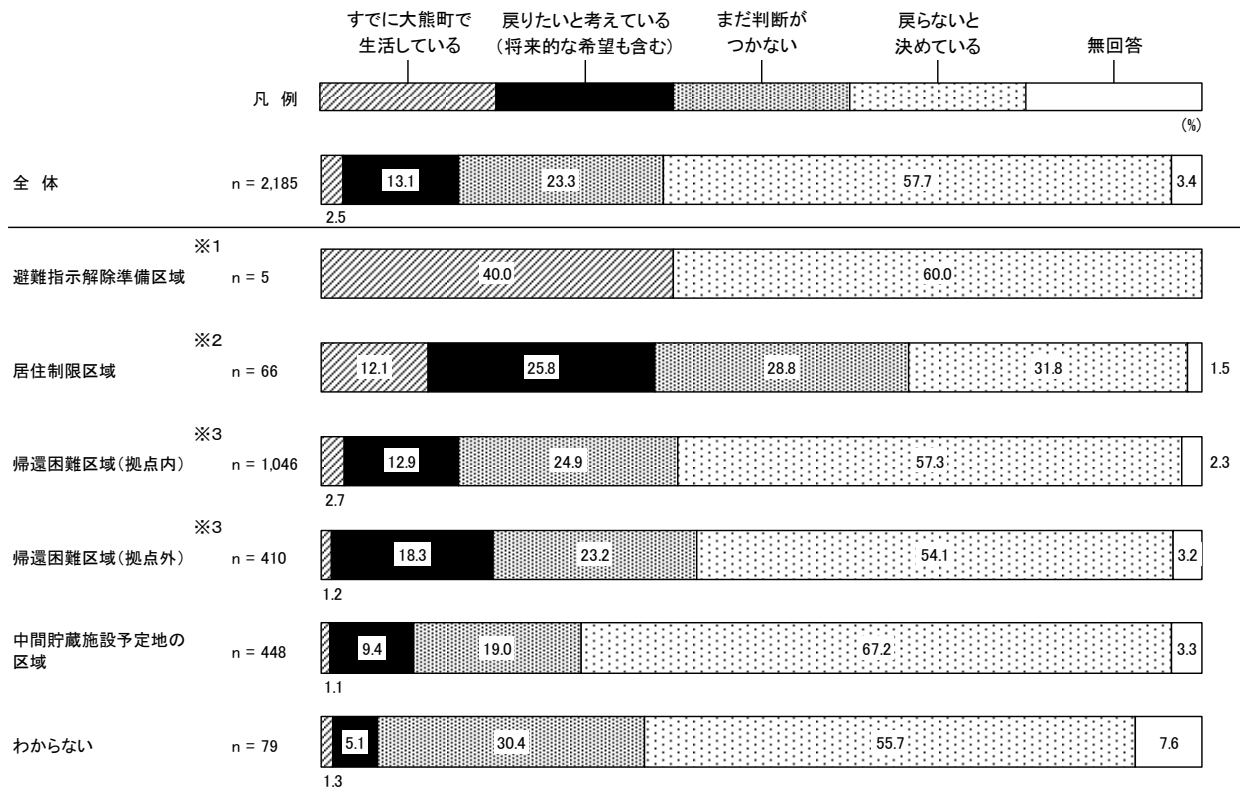
<図表3-4-1-1 大熊町への帰町意向（年齢別）>



<図表3-4-1-2 大熊町への帰町意向（震災発生当時の住まいの行政区別）>



<図表3-4-1-3 大熊町への帰町意向（避難指示区域別）>

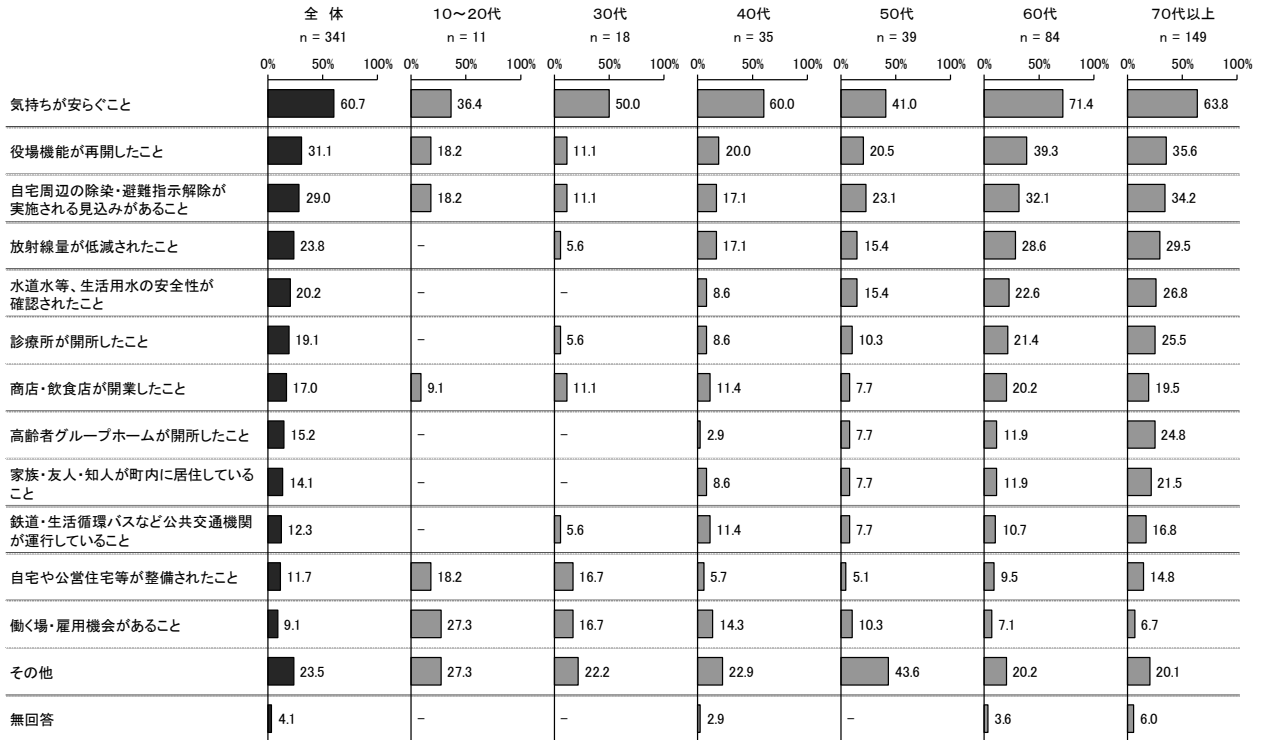


※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み
 ※3 「拠点」とは特定復興再生拠点のこと

3-4-2 大熊町に戻ることを考えた理由

【問10で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】
 問11-1 大熊町内に戻ることを考えた理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

<図表3-4-2 大熊町に戻ることを考えた理由（年齢別）>



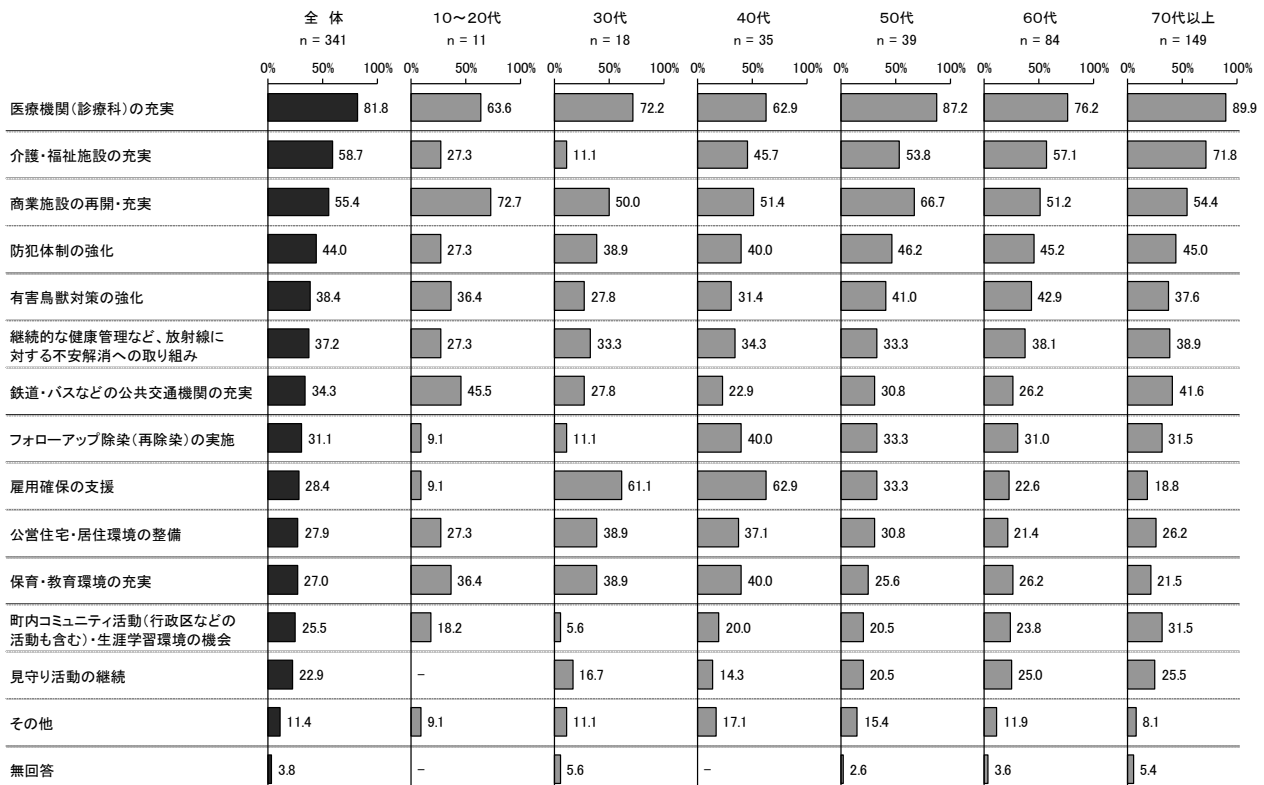
3-4-3 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること

【問10で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問11-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。（〇はいくつでも）

問11-3 問11-2で選択した「必要だと感じていること」のうち、特に必要と考えることについて、選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

<図表3-4-3 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること（年齢別）>



上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔医療機関（診療科）の充実〕

- ・子ども、年配の方々と共に暮らす上で必須と考える。生活する上で付き合っていくもの。少しずつ問題ないが、もっともっと発展して欲しいし、願っている。（30代）
- ・働いているので、土・日曜日に診療している病院でないと通院できないが、外科や眼科・歯科などは平日しかやっていない所が多く困っている。（40代）
- ・県立大野病院の早期の開院を望みます。やはり専門的な病院がある事で、戻る人が多くなると思います。（60代）
- ・診療科の充実が絶対条件。（70代以上）

〔介護・福祉施設の充実〕

- ・定年になったら帰りたいと思っているので、充実して欲しい。（40代）
- ・高齢世帯が増えるのは明らかです。（50代）
- ・デイサービス施設の充実。（60代）
- ・特別養護老人施設の設置。（70代以上）

Ⅲ 調査結果（全項目）

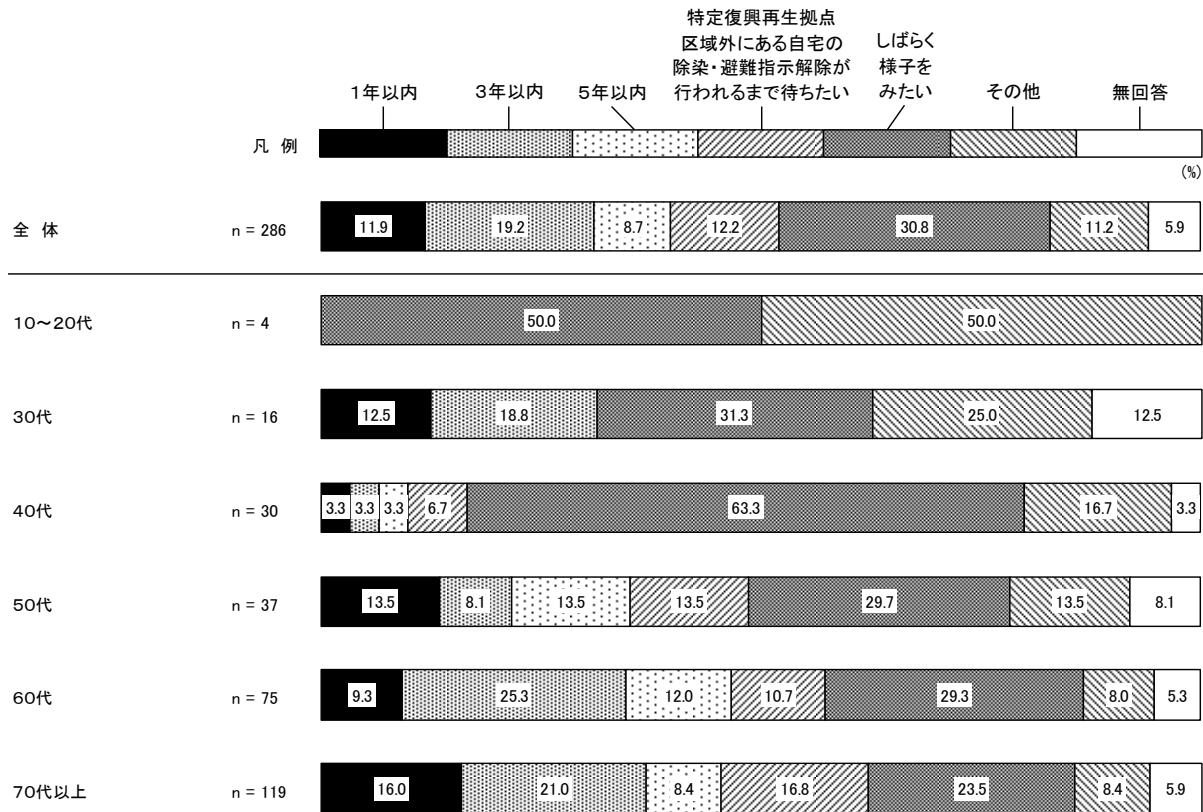
〔商業施設の再開・充実〕

- スーパーが欲しい。食材を買うにあたり、ヤマザキショップはあるが、スーパーより高いため経済的負担が大きい。近くのスーパー行くにも、富岡のさくらモールまで車で往復40分ほどかかる。+ガソリン代もかかる。（10～20代）
- 町内で完結できる商業施設。（40代）
- 交流人口の増加が期待出来る。（50代）
- 日常生活基盤としては、食品、衣料、家電ホームセンター、及び診療科等、先ずは町の活性化を進める上で、最低限の大事なことと思います。（60代）

3-4-4 大熊町への帰町時期

【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問12-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（〇は1つ）

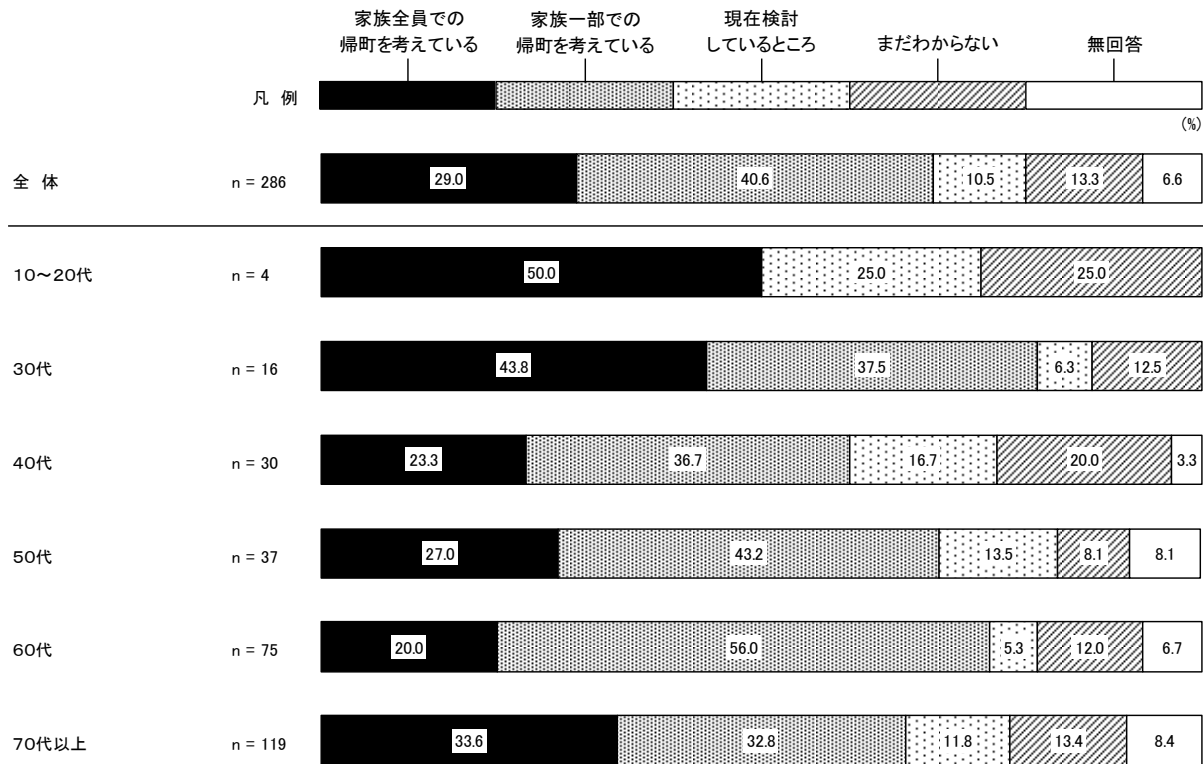
<図表3-4-4 大熊町への帰町時期（年齢別）>



3-4-5 大熊町へ帰町する場合の家族構成

【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問12-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

<図表3-4-5 大熊町へ帰町する場合の家族構成（年齢別）>

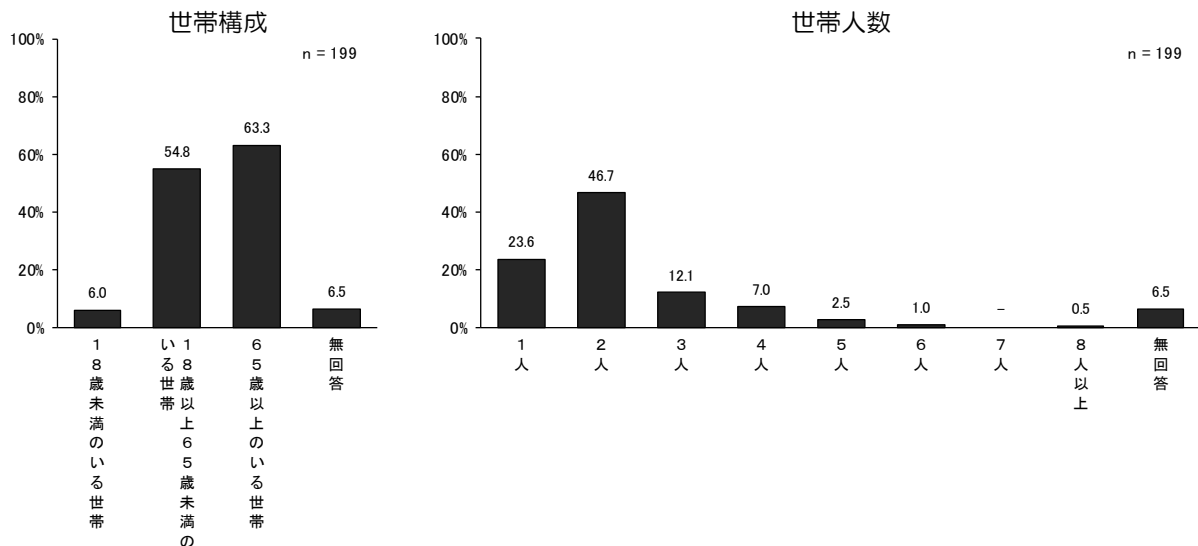


3-4-6 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数

【問12-2で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問12-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

<図表3-4-6 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数>

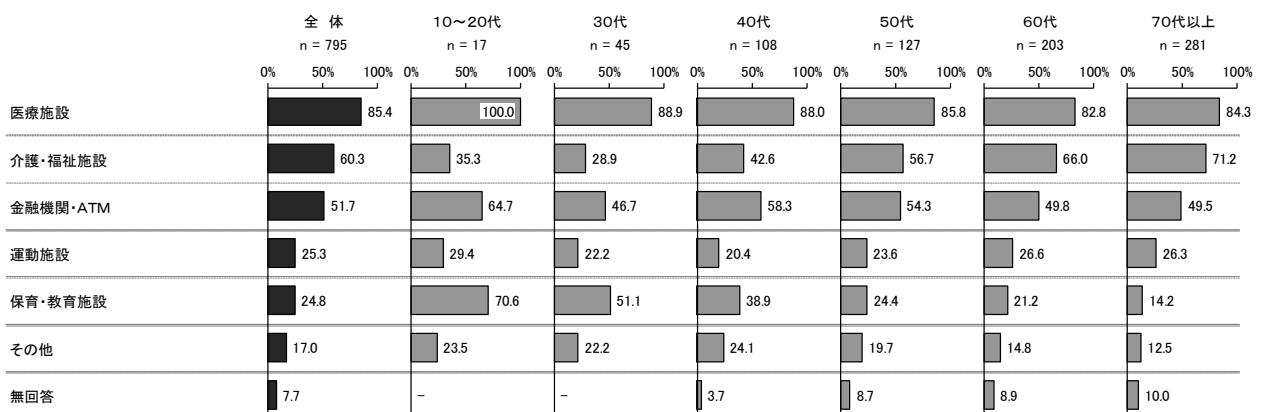


3-4-7 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設

【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問13-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考える施設を教えてください。（〇はいくつでも）

<図表3-4-7 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設（年齢別）>

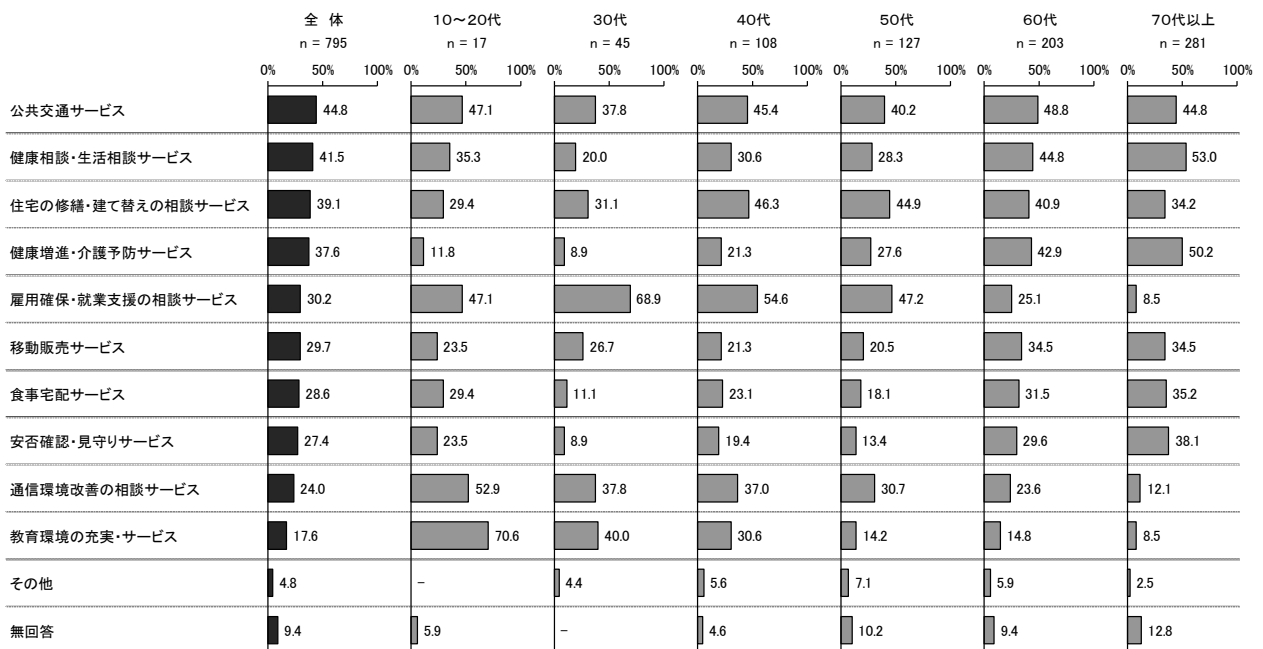


3-4-8 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス

【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問13-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。
（〇はいくつでも）

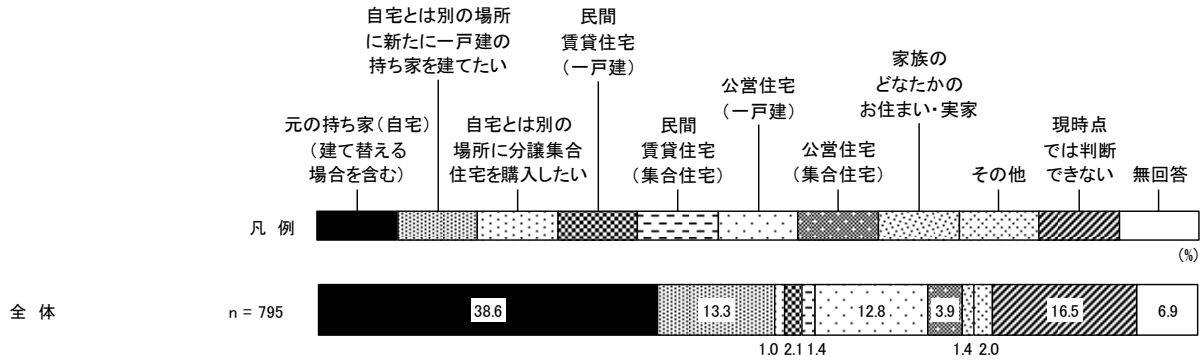
<図表3-4-8 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（年齢別）>



3-4-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態

【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
 問13-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

<図表3-4-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態>



〔その他の内訳〕

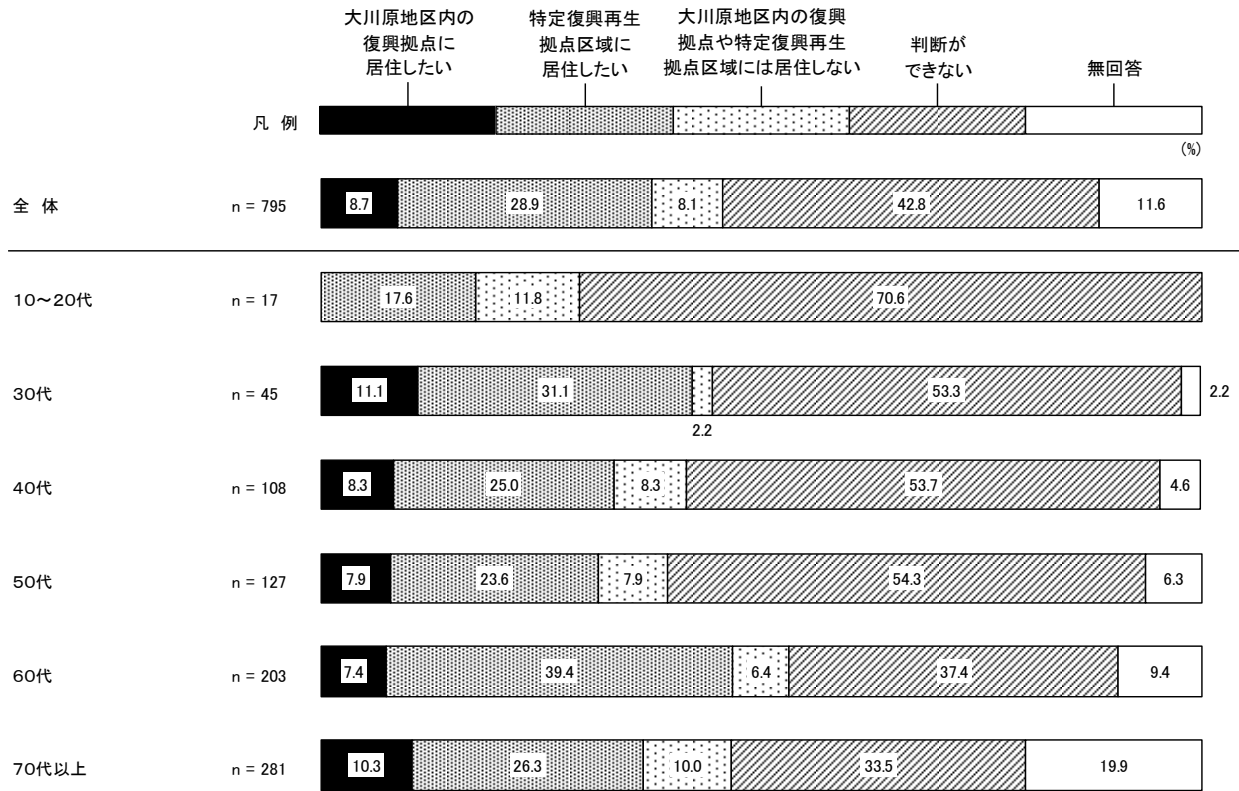
給与住宅（社宅など）	0.1%
親戚・知人宅	0.1%
その他	1.8%

3-4-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向

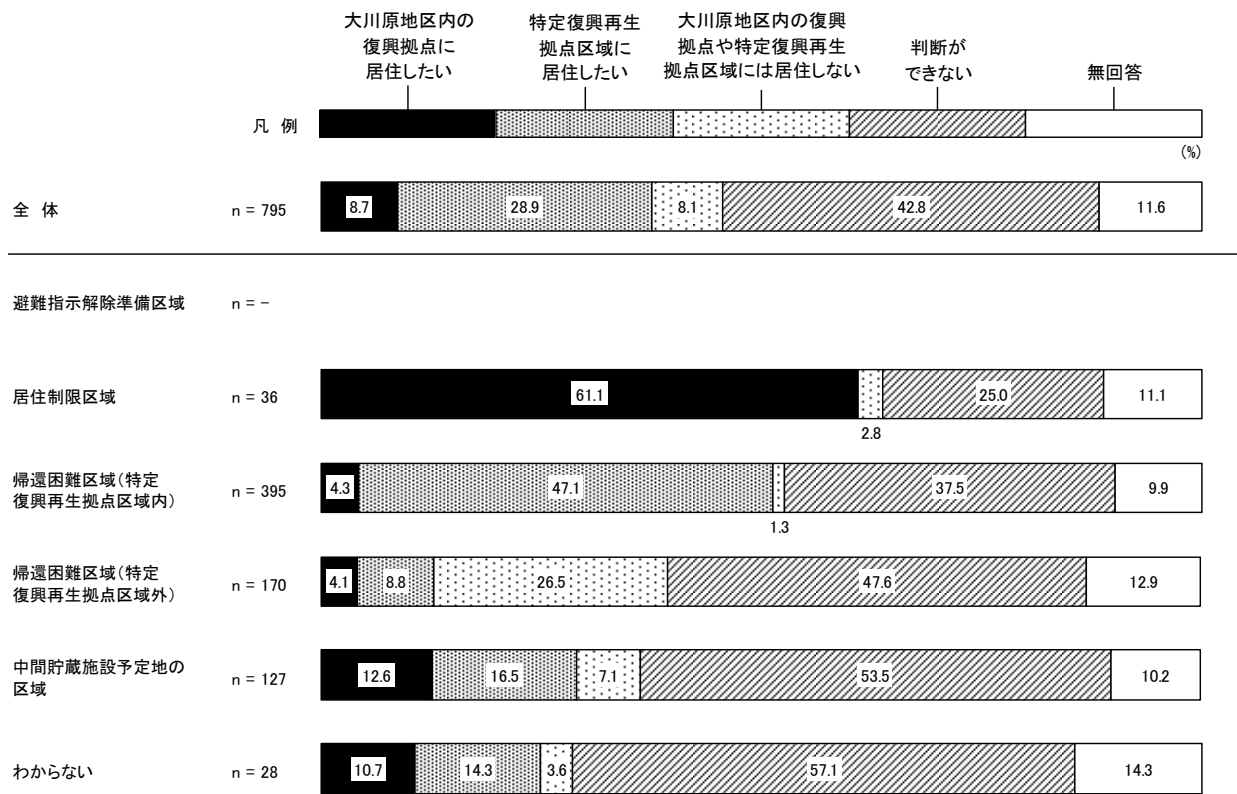
【問10で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問13-4 大川原地区内の「復興拠点」やJR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）

<図表3-4-10-1 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（年齢別）>



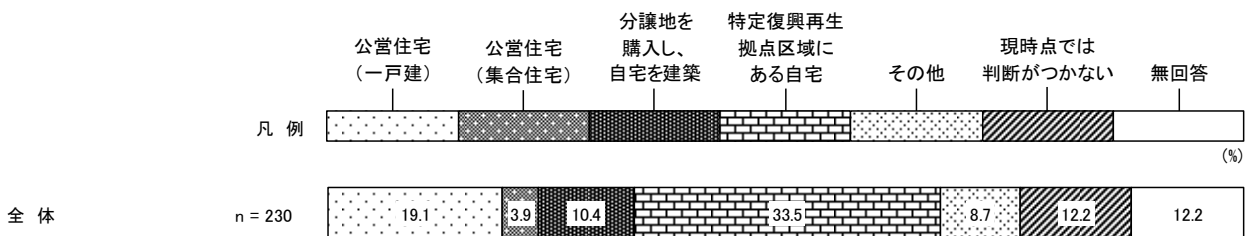
<図表3-4-10-2 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（避難指示区域別）>



3-4-11 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態

【問13-4で「2. 特定復興再生拠点区域に居住したい」と回答した方にうかがいます。】
 問13-5 JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に、町により住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

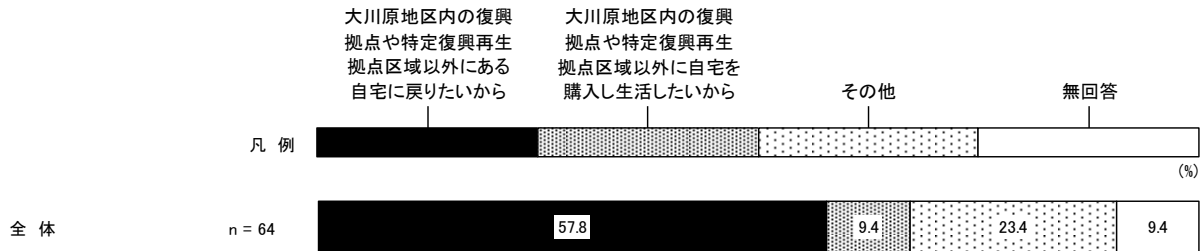
<図表3-4-11 特定復興再生拠点区域に希望する住居形態>



3-4-12 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由

【問13-4で「3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方にかがいます。】
 問13-6 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に居住しない理由はどのようなことですか。（〇は1つ）

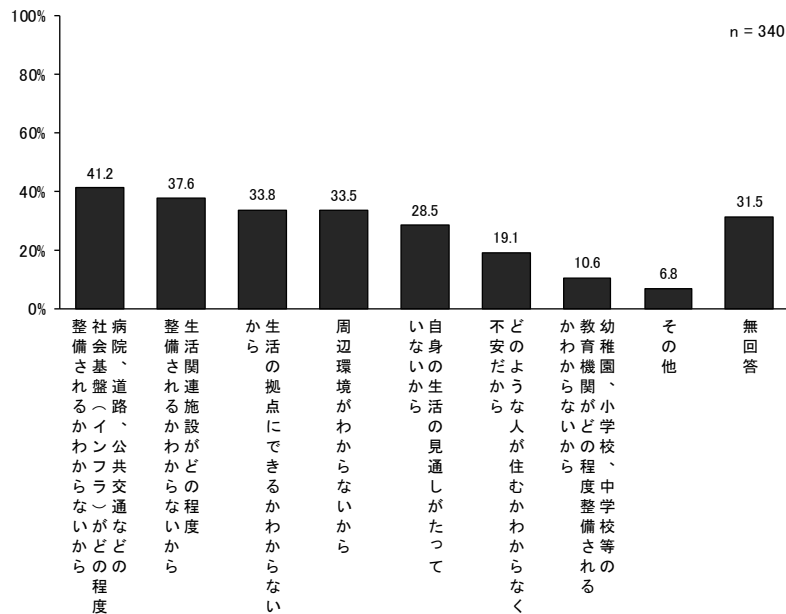
＜図表3-4-12 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域に居住しない理由＞



3-4-13 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由

【問13-4で「4. 判断ができない」と回答した方にかがいます。】
 問13-7 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

＜図表3-4-13 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由＞



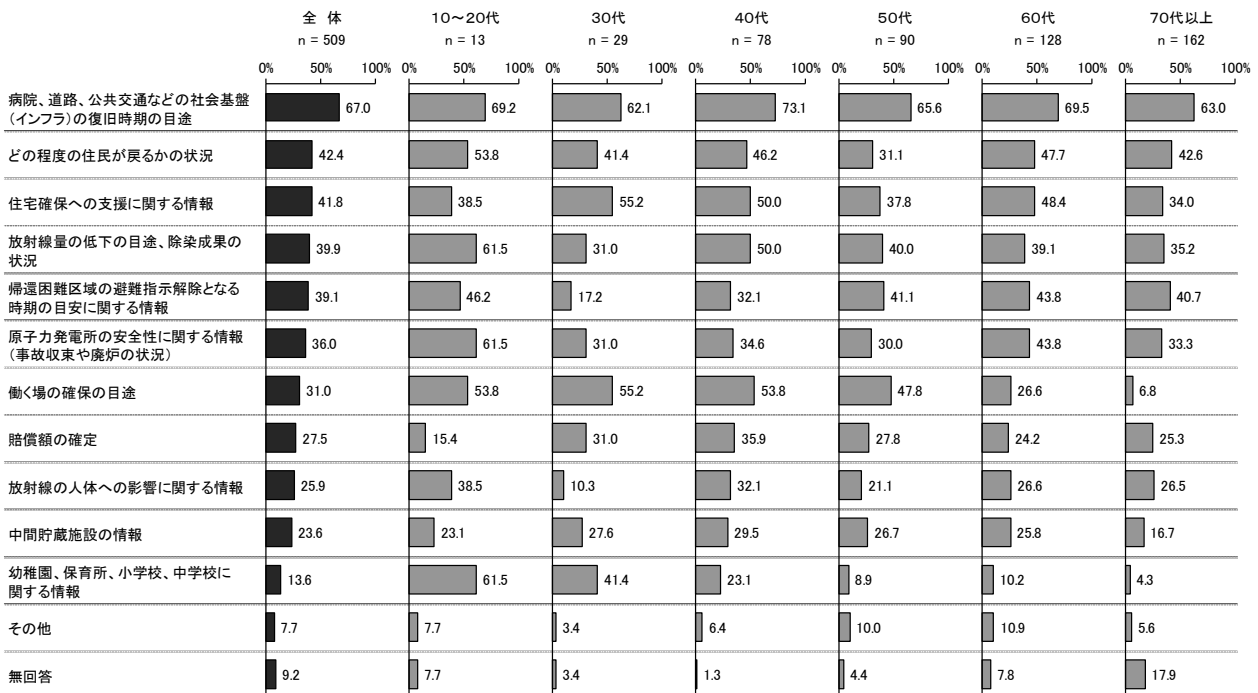
3-4-14 大熊町への帰町を判断するために必要なこと

【問10で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問14-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

問14-2 問14-1で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

＜図表3-4-14 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（年齢別）＞



上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途〕

- ・復興というからは、事故当時以上のインフラ整備は必要。病院行くにも車で1時間かけて通院等では話にならない。（30代）
- ・バス、タクシー等の充実。（40代）
- ・どの程度の規模の病院や商業施設が、いつ頃開設するか。（50代）
- ・デイサービス。ショートステイ。（60代）

〔どの程度の住民が戻るかの状況〕

- ・今後、大熊町の人口はどのぐらいになるのか心配です。（10~20代）
- ・生活に関する環境の不安。戻っても知っている人はいないと思う。（50代）
- ・どの程度の住民が帰るのが心配です。（60代）
- ・ある一定数の町民が戻らなければ、町が成り立って行かない。（70代以上）

〔住宅確保への支援に関する情報〕

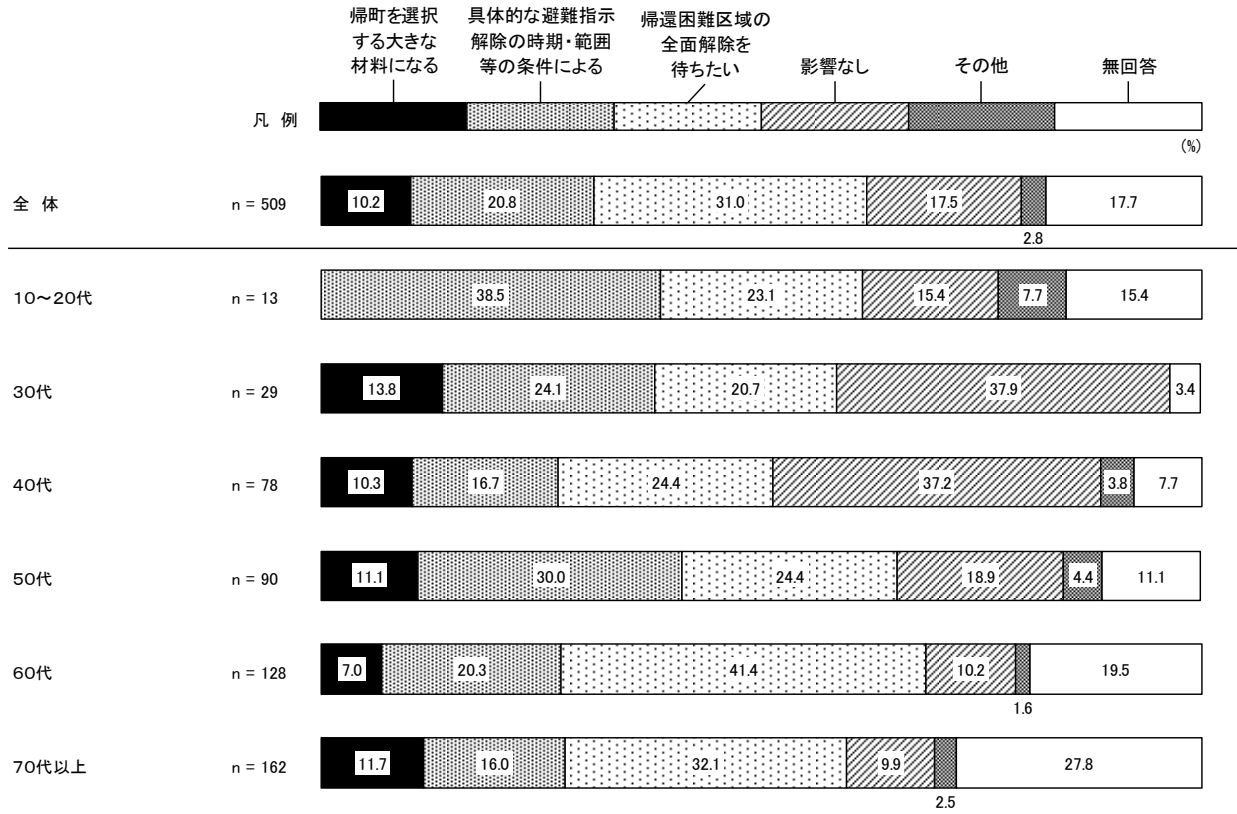
- ・住宅を建築するにあたっての支援（補助金など）。（30代）
- ・土地の取得、空き家（不動産）の具体的情報（価格）が、今のところほとんどない。（50代）
- ・他の地域に家を建てている方が多数だと思うので、大熊に戻る時は何らかの支援があればありがたい。（60代）
- ・特定復興再生拠点区域に早く公営住宅の整備を。（70代以上）

3-4-15 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響

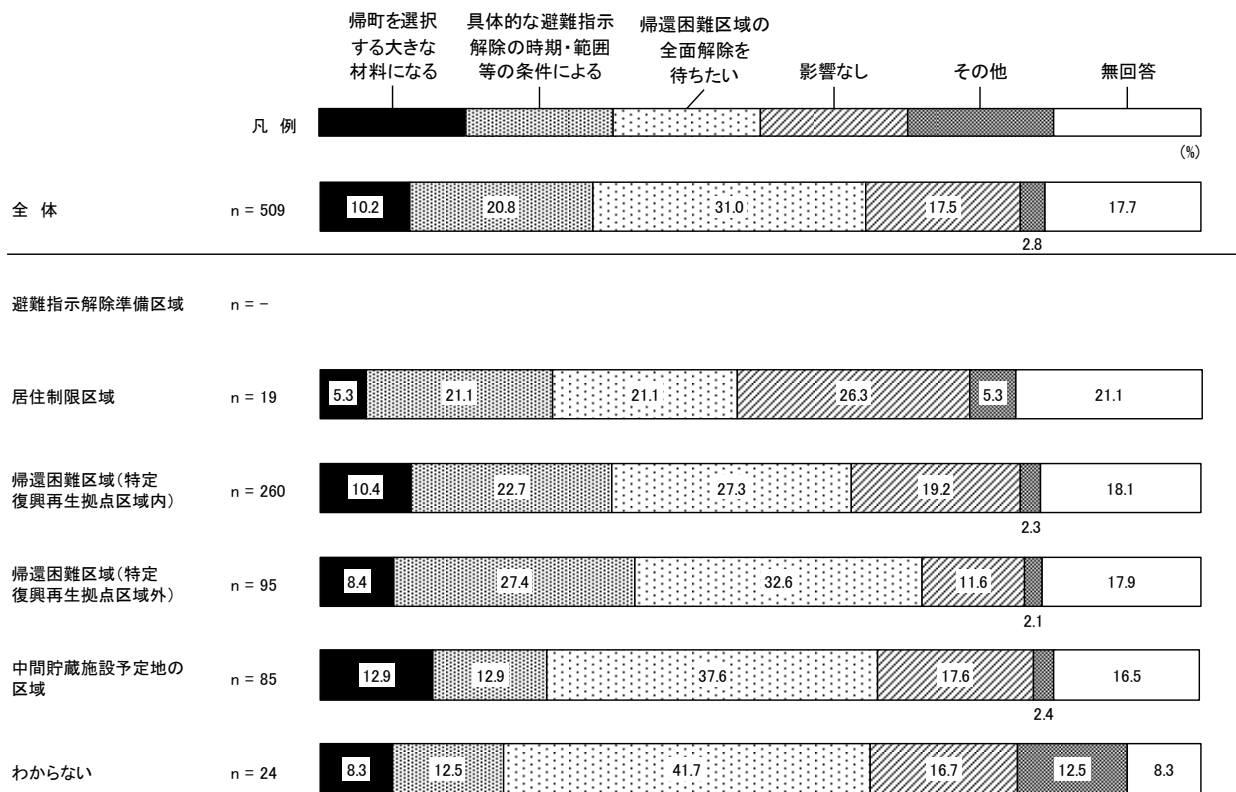
【問10で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問14-3 特定復興再生拠点区域外の避難指示解除について、「2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めていく」との国の方針が示されました。この方針は帰町への判断に影響はありますか。（〇は1つ）

<図表3-4-15-1 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響（年齢別）>



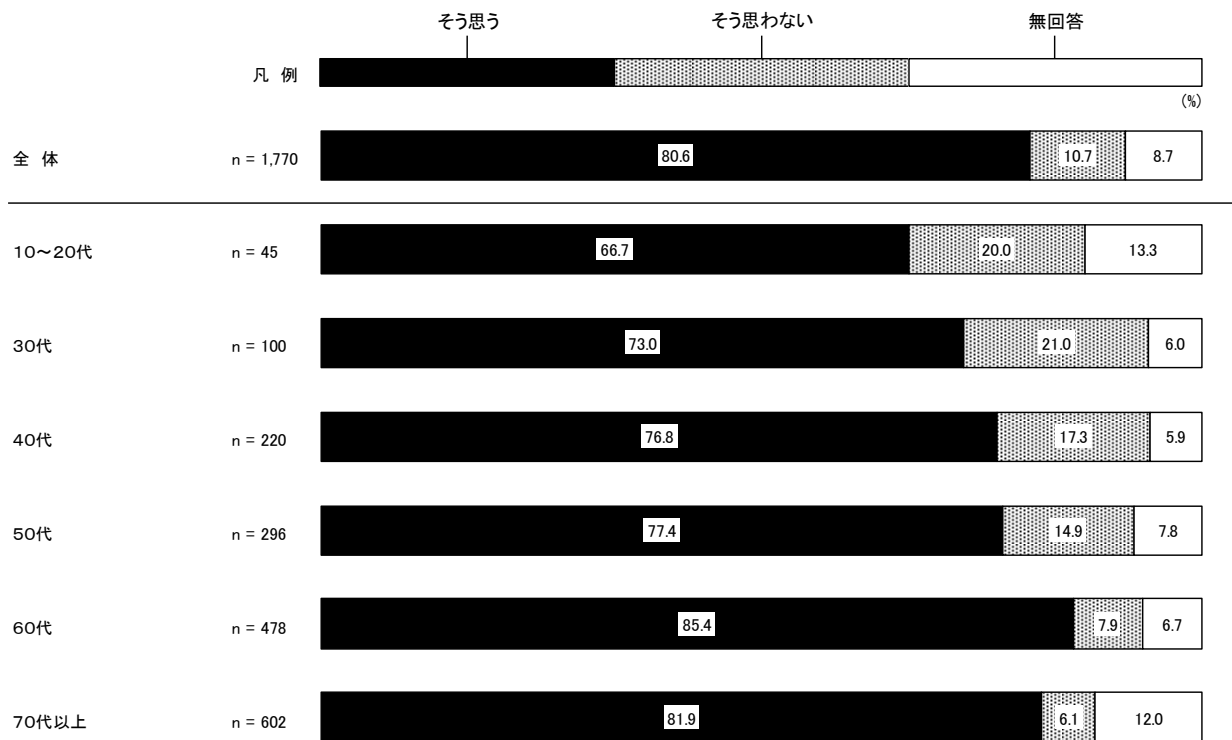
<図表3-4-15-2 拠点区域外に関する国の方針について帰町の判断への影響（避難指示区域別）>



3-4-16 大熊町との「つながり」を保ちたいか

【問10で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】
 問15-1 大熊町との「つながり」を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

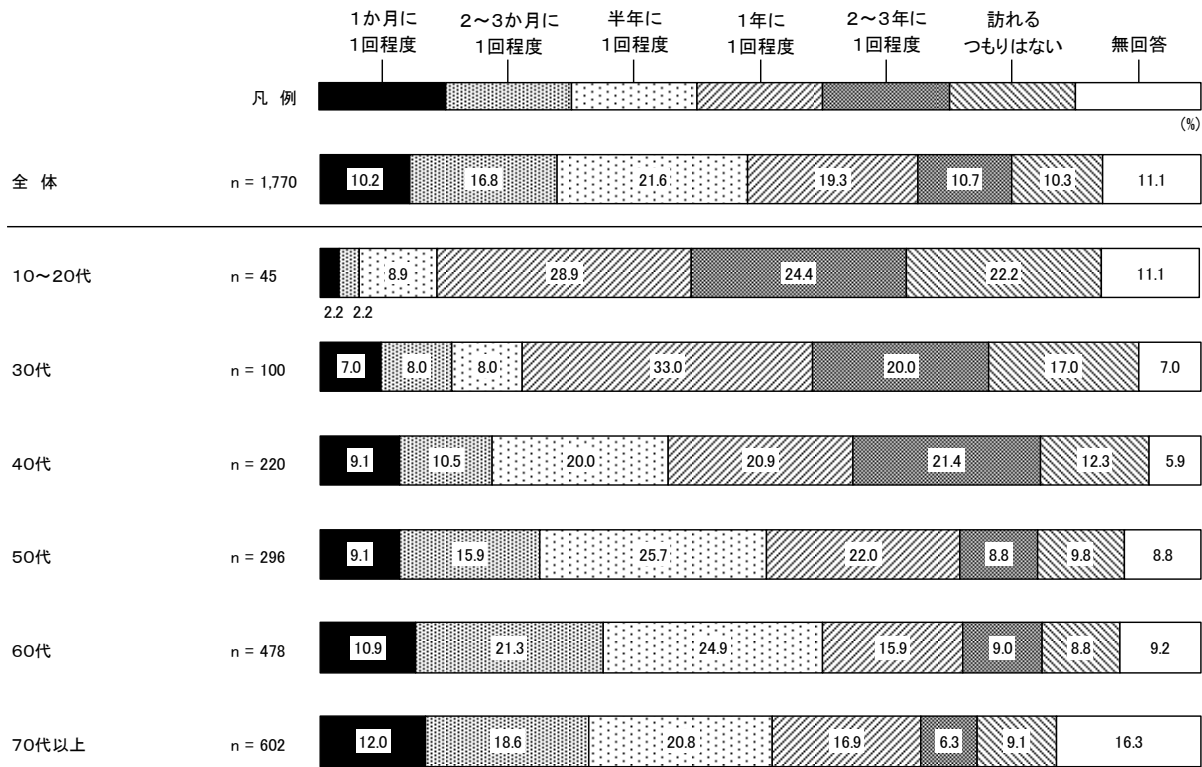
＜図表3-4-16 大熊町との「つながり」を保ちたいか（年齢別）＞



3-4-17 大熊町を訪れたい頻度

【問10で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】
 問15-2 大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。（〇は1つ）

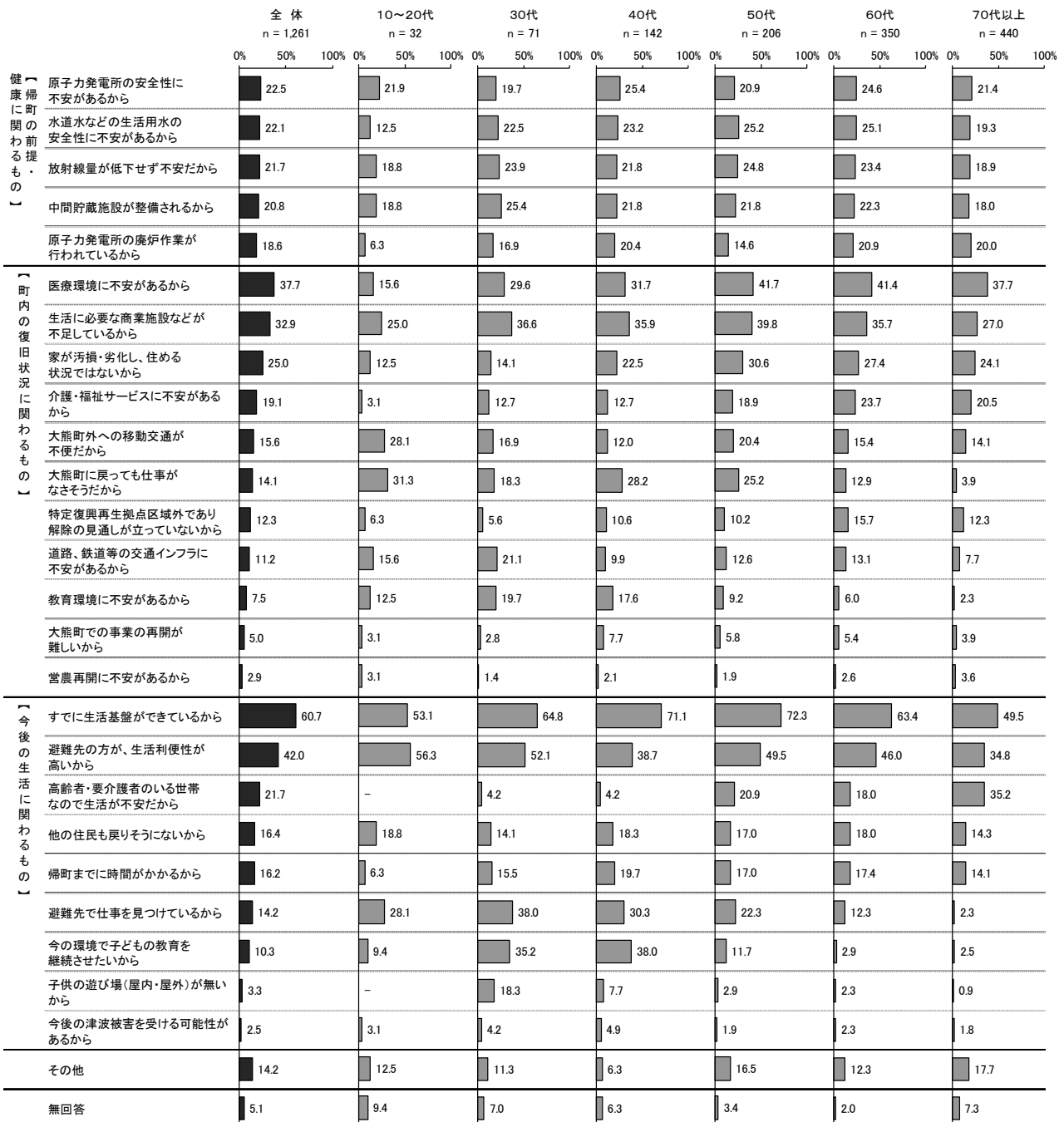
<図表3-4-17 大熊町を訪れたい頻度（年齢別）>



3-4-18 現時点で戻らないと決めている理由

【問10で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問16-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）
 問16-2 問16-1で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

<図表3-4-18 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>



上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔すでに生活基盤ができてから〕

- 大熊町に戻っても、仕事、生活、あらゆるものが0になる（子どもたちの教育も含めて）。（10～20代）
- 仕事や子供達の生活がもうできているから。戻るメリットがない。（40代）
- 茨城県に住み約8年。持ち家なので町内のコミュニティなど、もう生活基盤ができていますので戻らないと決めています。（50代）
- とにかく避難解除が遅すぎた。5～6年が帰還待ちの限界。（60代）

〔避難先の方が、生活利便性が高いから〕

- 利便性が高い生活に慣れてしまっている為。（10～20代）
- 生活利便性重視だから。（40代）
- やはり近所に病院、スーパー、商業施設があると、大熊町では生活は不便である。（50代）
- 交通インフラ、医療環境、福祉サービス、商業施設など…。どれを取っても満足できる状態に戻る時期が見通せず、それらが現実的に見える頃には自分自身の人生が終わるように思える。大熊町のみならず、双葉郡の現状と近い未来を想像すると、帰町する気になれない。（60代）

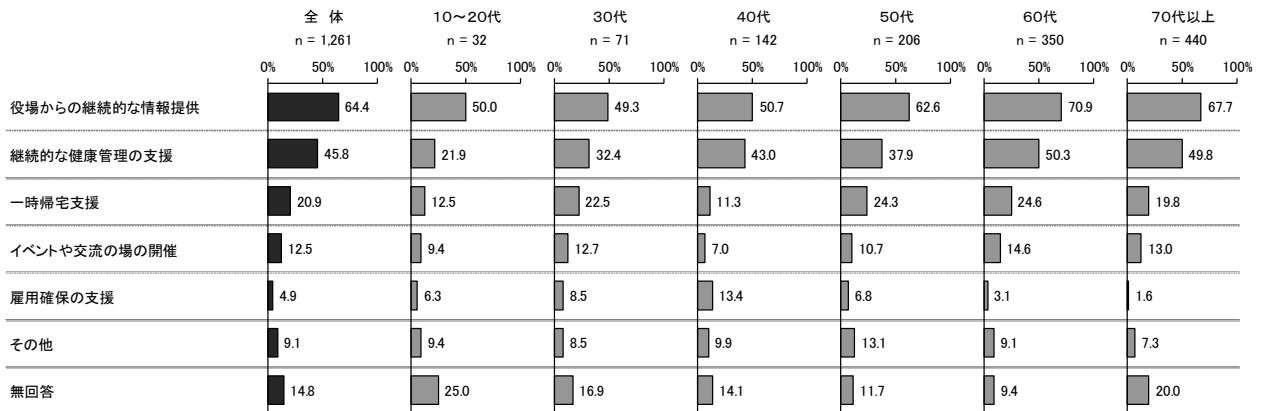
〔医療環境に不安があるから〕

- 緊急時の対応が、対応しきれぬのか不安です。（40代）
- 主要な病院までの距離があり、現在（避難先）のような医療提供が受けられない可能性があるため。（50代）
- 持病があるので、医療機関が充実してないと帰れない。（60代）
- 町に病院がある事。年齢的に一番考えます。（70代以上）

3-4-19 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援

【問10で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問16-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。（〇はいくつでも）

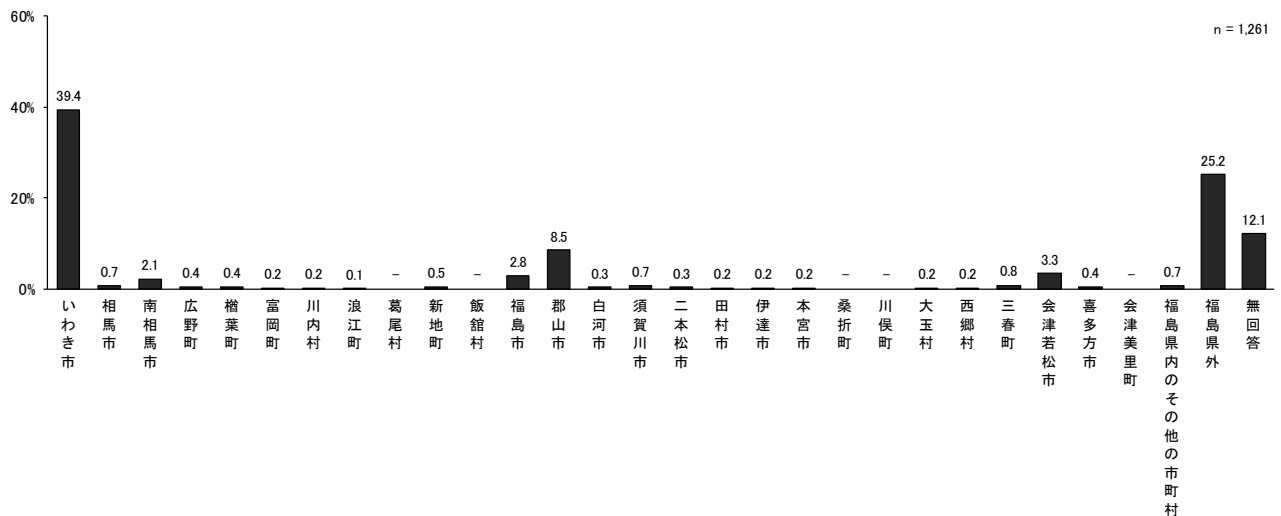
＜図表3-4-19 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



3-4-20 帰町しない場合に居住を検討する自治体

【問10で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問16-4 今後の居住を検討している（既に居住している場合を含む）自治体はどの自治体になるかを教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-4-20 帰町しない場合に居住を検討する自治体＞

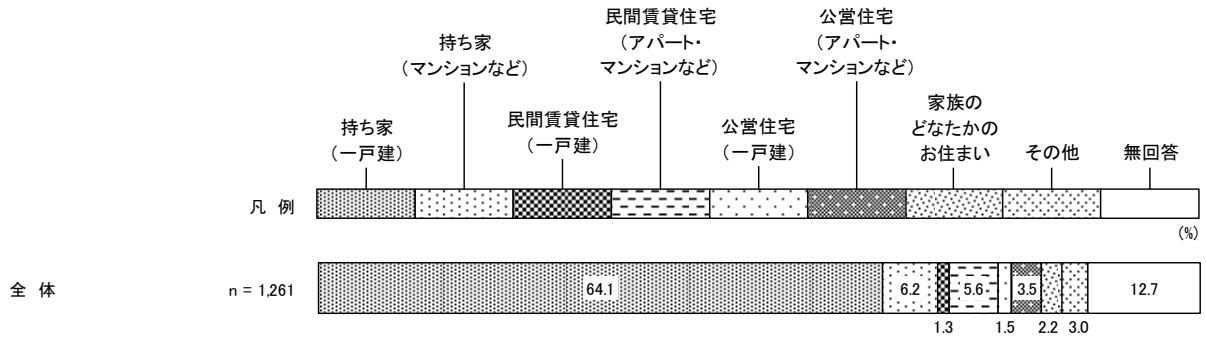


3-4-21 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問10で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問16-5 今後のお住まいとして希望する（既に居住している場合を含む）住宅は、どのような形態ですか。
（〇は1つ）

<図表3-4-21 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態>



〔その他の内訳〕

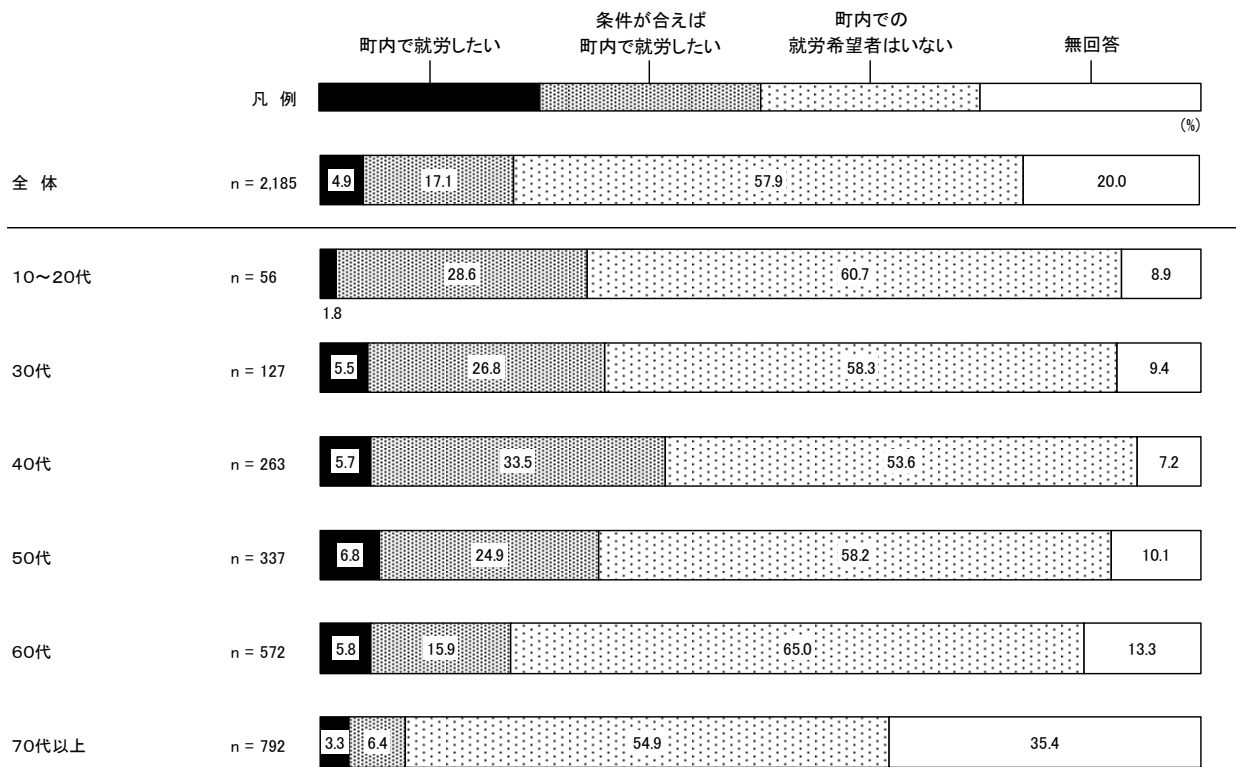
給与住宅（社宅など）	0.5%
親戚・知人宅	0.6%
その他	2.0%

3-5 大熊町内での就労意向

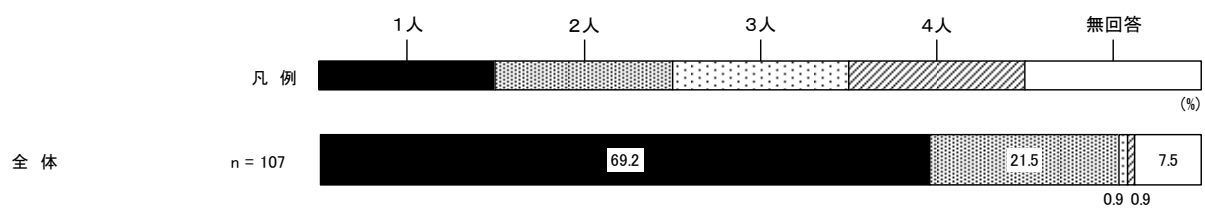
3-5-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向

問17 町では町内への企業立地を進めております。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。（〇は1つ）

<図表3-5-1-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（年齢別）>



<図表3-5-1-2 大熊町内で就労を希望する人数>



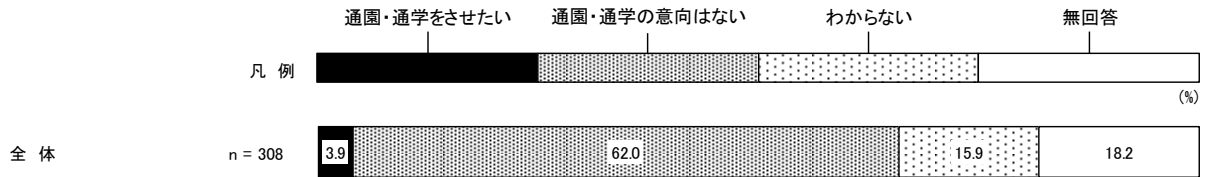
〔その他〕
5人以上 -

3-6 大川原地区での教育施設の開校

3-6-1 大川原地区への通園・通学の意向

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】
 問18-1 町では令和5年春に、町内の大川原地区で教育施設（幼保小中一体型の施設）を開校する予定です。その際お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。（〇は1つ）

<図表3-6-1 大川原地区への通園・通学の意向>

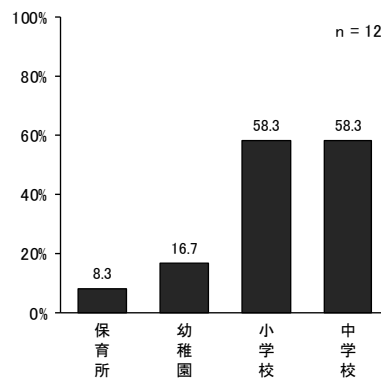


※問9で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した方のみで集計

3-6-2 大川原地区で通園・通学をさせたい校種

【問18-1で「1. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】
 問18-2 お子様・お孫様に通園・通学をさせたい校種について教えてください。（〇はいくつでも）

<図表3-6-2 大川原地区で通園・通学をさせたい校種>



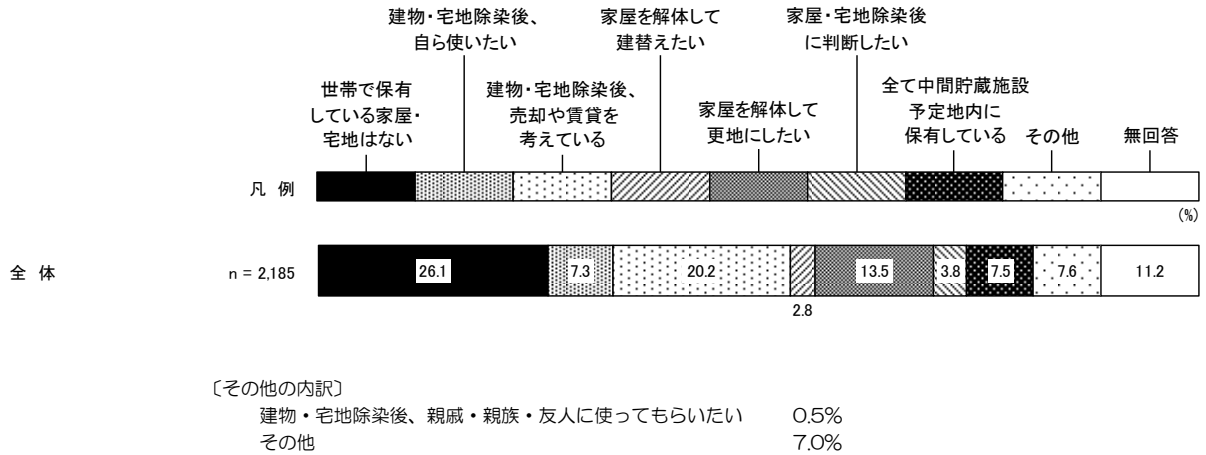
※問9で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した方のみで集計

3-7 不動産の取り扱い意向

3-7-1 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向

問19-1 町内に保有している家屋・宅地の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）
（複数所有している場合は自宅についてお答えください）

<図表3-7-1 大熊町内に保有する家屋・宅地の利用意向>



3-7-2 不動産利活用事業への登録

【問19-1で「4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】
問19-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。（〇は1つ）

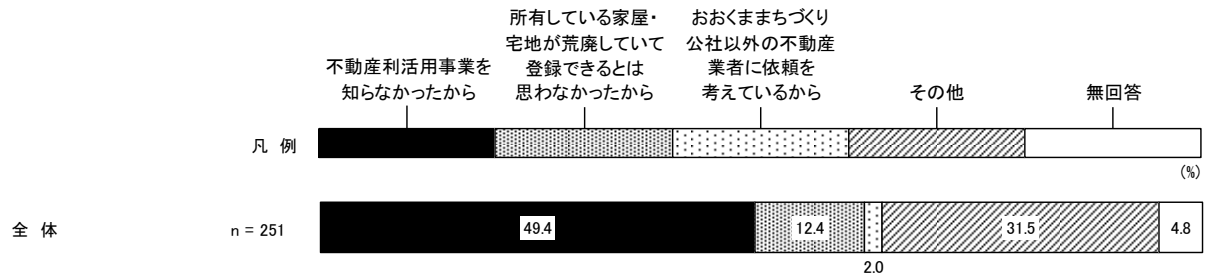
<図表3-7-2 不動産利活用事業への登録>



3-7-3 不動産利活用事業に登録していない理由

【問19-2で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】
 問19-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。（〇は1つ）

<図表3-7-3 不動産利活用事業に登録していない理由>

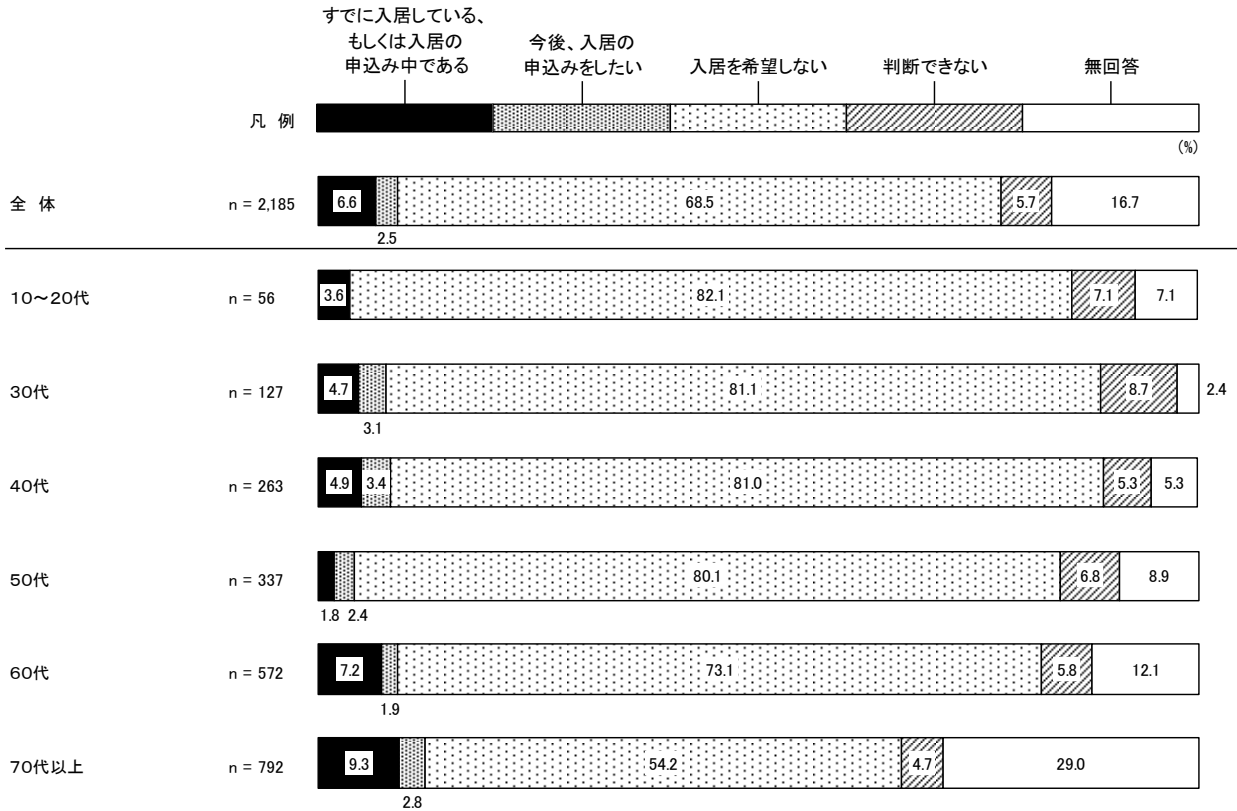


3-8 復興公営住宅

3-8-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向

問20-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（〇は1つ）

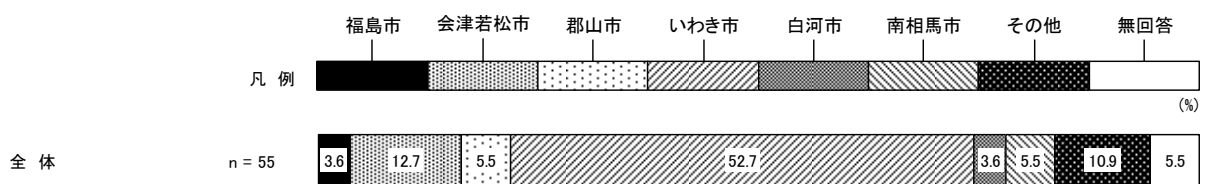
<図表3-8-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



3-8-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村

【問20-1で「2. 今後、入居の申込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
問20-2 入居を希望する市町村について教えてください。（〇は1つ）

<図表3-8-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村>



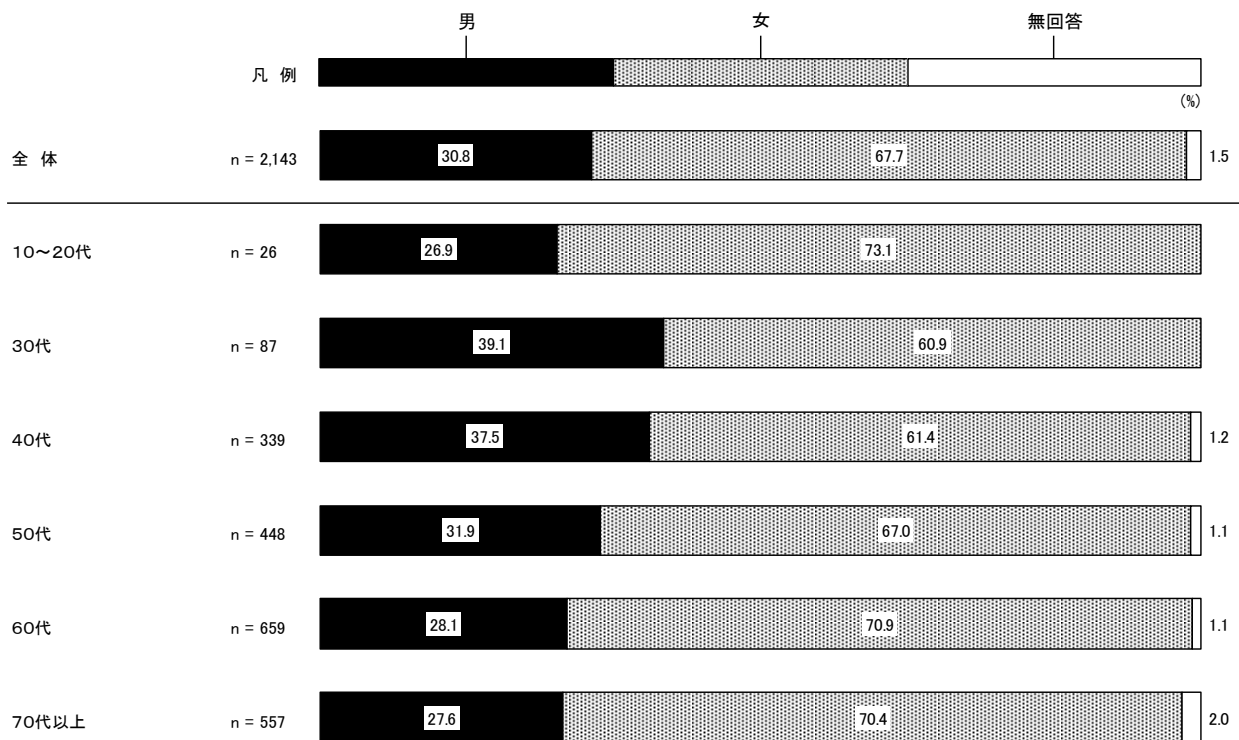
〔その他の内訳〕
 二本松市 -
 田村市 -
 本宮市 -
 その他 10.9%

3-9 全世帯員の意向

3-9-1 性別

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （性別）

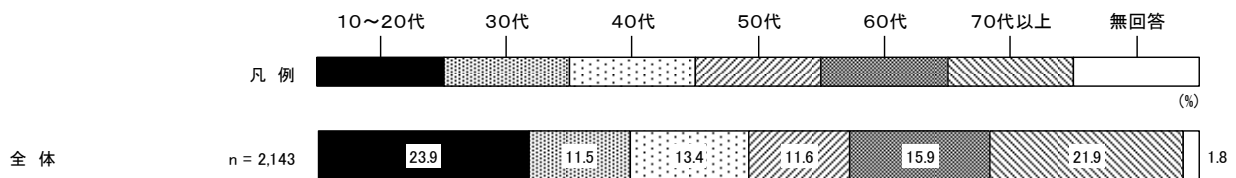
<図表3-9-1 性別（年齢別）>



3-9-2 年齢

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （年齢）

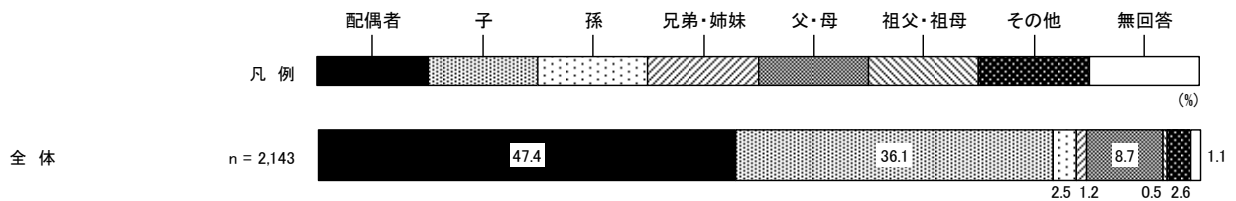
<図表3-9-2 年齢>



3-9-3 調査回答者との続柄

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （あなたとの続柄）

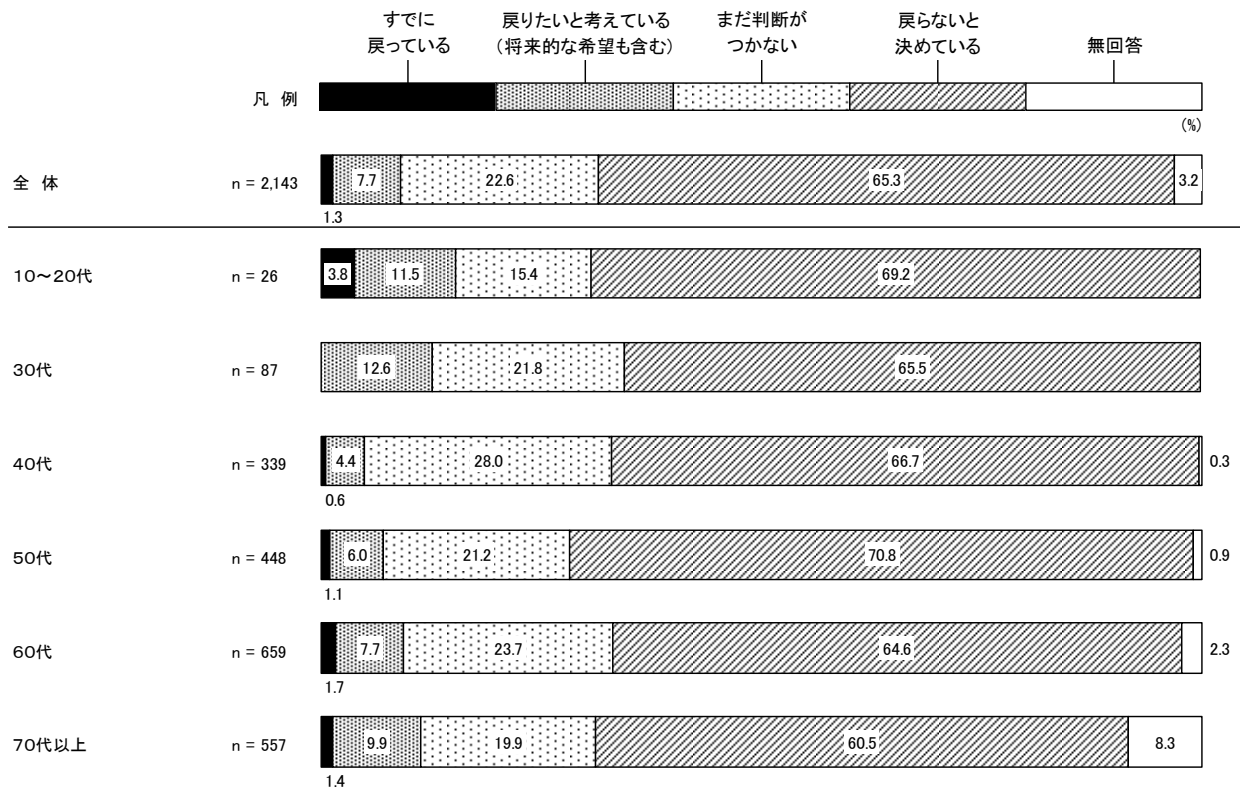
<図表3-9-3 調査回答者との続柄>



3-9-4 大熊町への帰町意向

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （大熊町への帰町の意向）

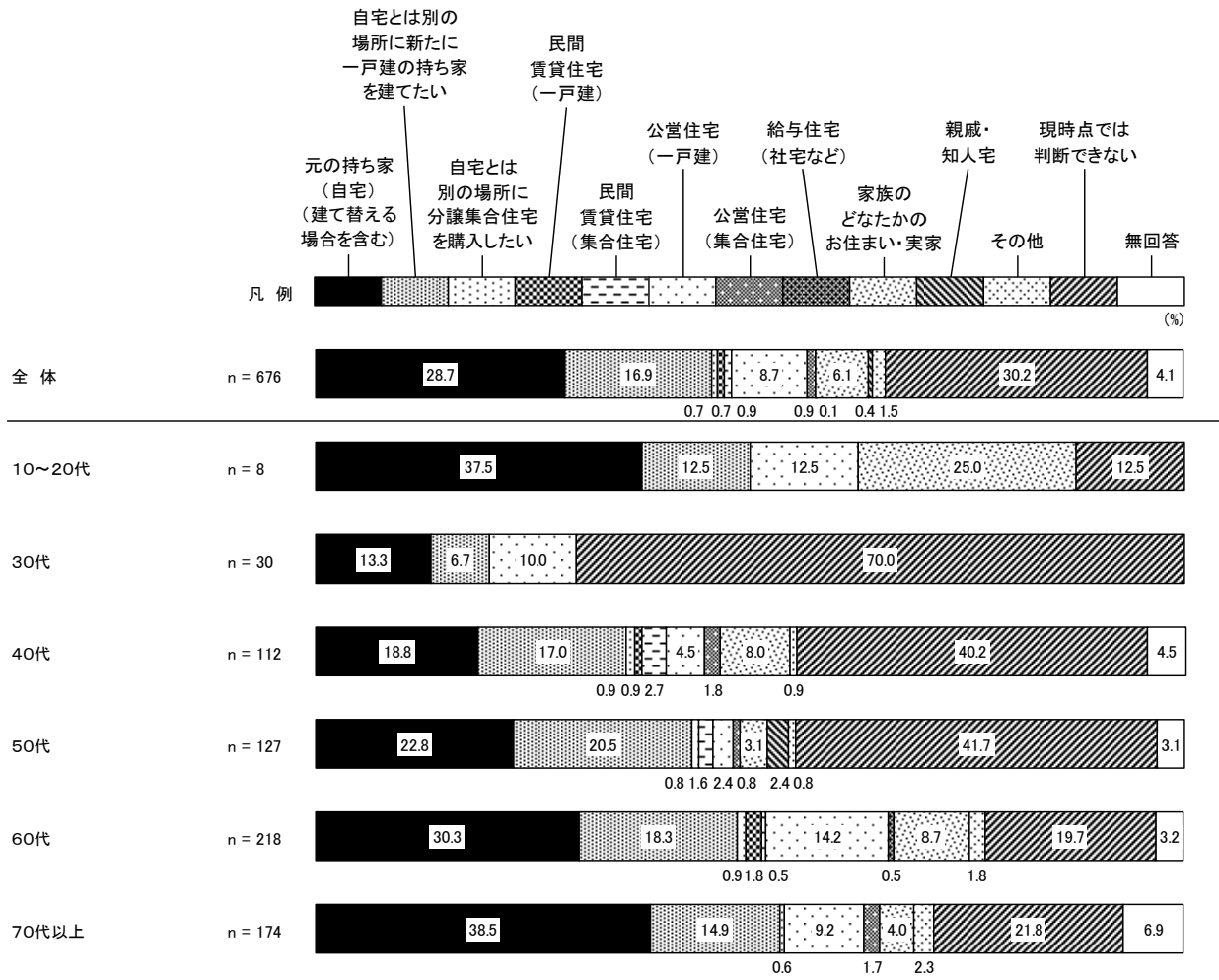
<図表3-9-4 大熊町への帰町意向（年齢別）>



3-9-5 今後の住まいの意向

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （今後の住まいの意向）

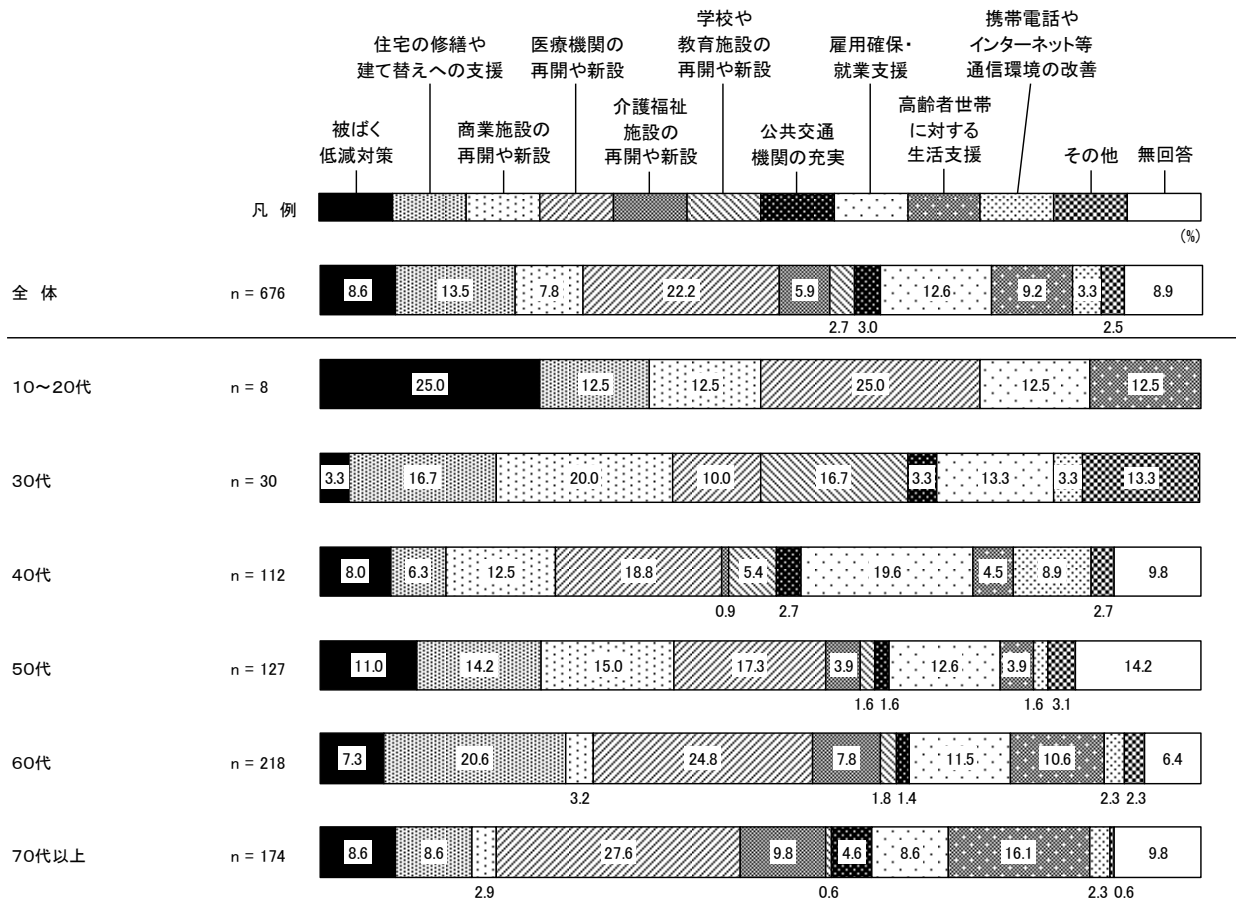
<図表3-9-5 今後の住まいの意向（年齢別）>



3-9-6 大熊町に求める支援等

問21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ（18ページ）の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。回答は、中学生以上の個人ごとに、ご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。
 （大熊町に求める支援等）

<図表3-9-6 大熊町に求める支援等（年齢別）>

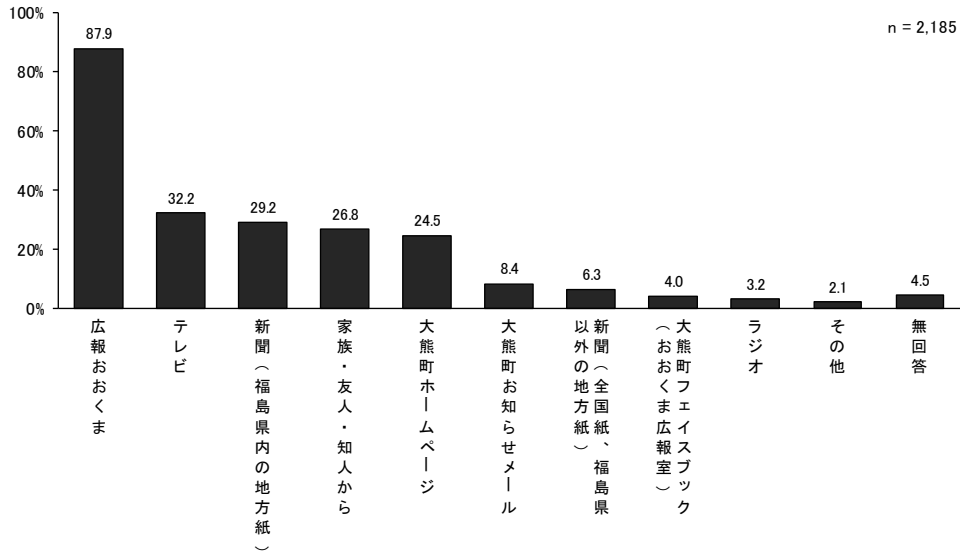


3-10 情報入手

3-10-1 大熊町に関する情報の入手経路

問2-2-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。（〇はいくつでも）

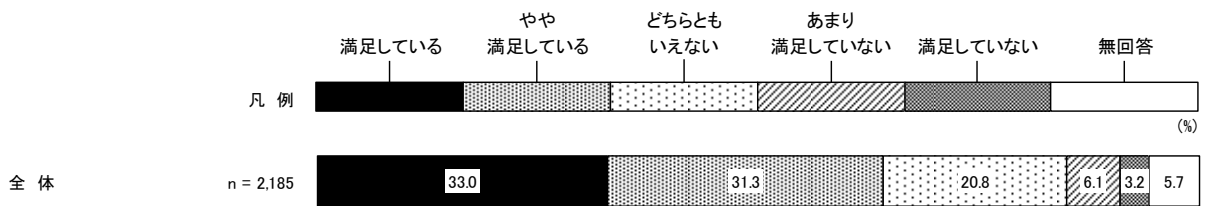
<図表3-10-1 大熊町に関する情報の入手経路>



3-10-2 大熊町役場からの情報提供の満足度

問2-2-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。（〇は1つ）

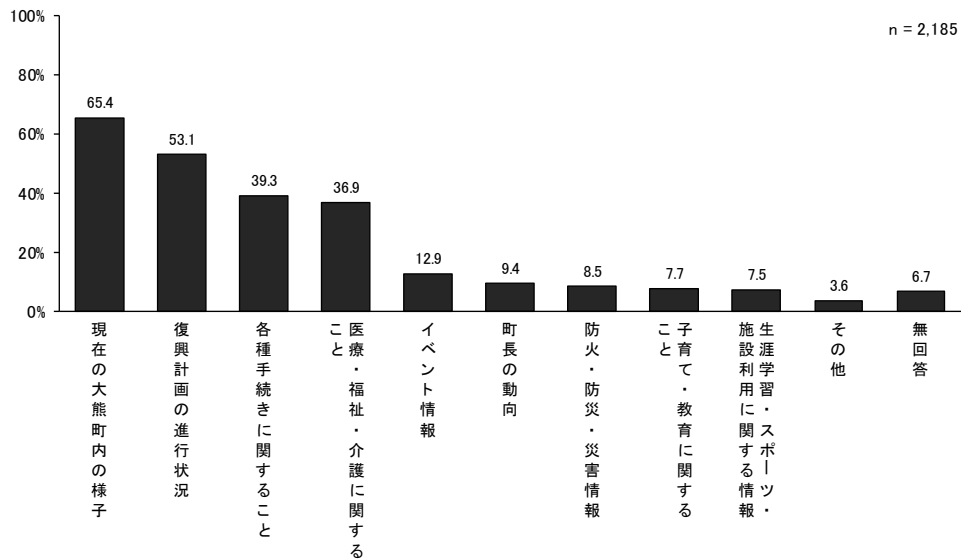
<図表3-10-2 大熊町役場からの情報提供の満足度>



3-10-3 関心のある情報

問22-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。（〇はいくつでも）

<図表3-10-3 関心のある情報>

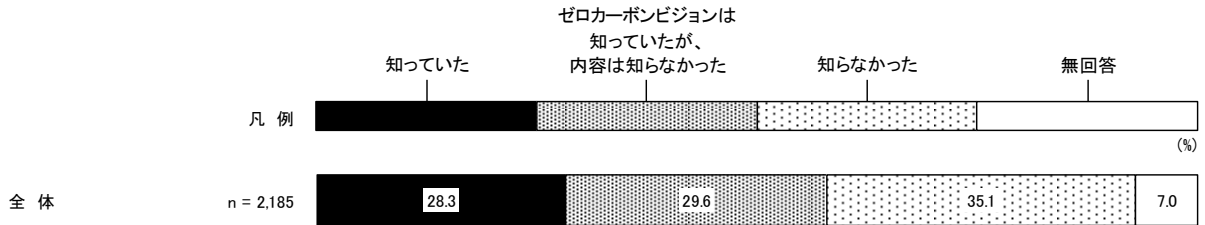


3-1-1 持続可能なまちづくりへの取り組み

3-11-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度

問23-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。（〇は1つ）

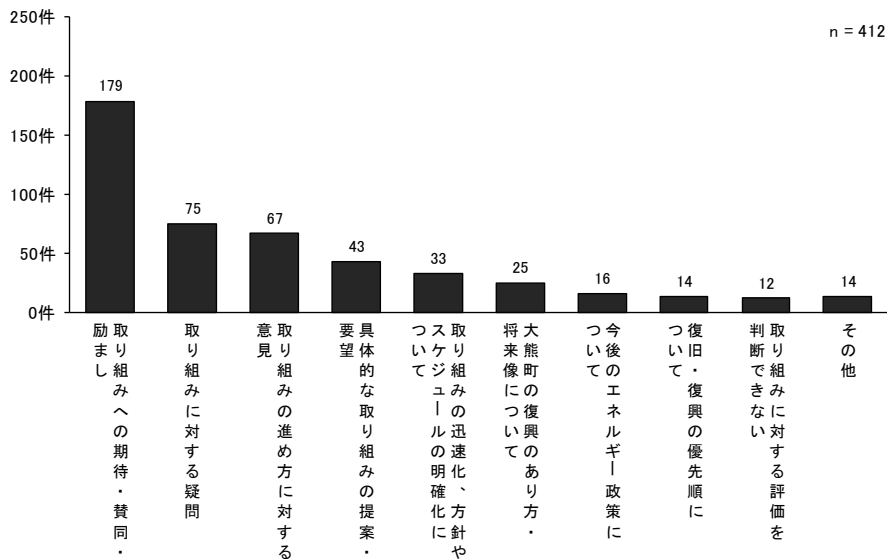
<図表3-11-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度>



3-11-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見

問23-2 「大熊町ゼロカーボンビジョン」で、目指している大熊町の持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

<図表3-11-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【取り組みへの期待・賛同・励まし】

- 積極的に取り組んでいくとともに、先行的な取り組みとして、研究データの活用をして欲しい。（10～20代）
- 原発や化石エネルギーに頼らない原発ゼロの町、脱原発の町として取り組んで欲しい。「原発に頼らない」と書いてあるところが良い。（40代）
- ゼロカーボンタウンの先進地を目指すのは、町（国）の取り組みとして良いと思います。住民の心の復興も同時進行、同じ重みをもって取り組んで頂きたい。復興とは何？を示してもらいたい。（50代）
- 原発の事故により、今まで誰も経験した事がない、全町避難をした町として、今後のエネルギーについて考え、持続可能な町づくりの模範となることは、とても意義のあることだと思う。（60代）
- 大熊町は以前からゴミの分別などを積極的に行ってきたので、取り組みは大賛成です。町外に居ても、できる取り組みに参加したいと思います。（70代以上）

【取り組みに対する疑問】

- 現実的に考えて無理では？原発以外の具体的なエネルギー源は？風力や太陽光などは現実的ではないと思う。（30代）
- 取り組みについてはすごく良いことだと思います。ただ、メリットばかり前面に出ているので、デメリットについても、地域住民にしっかり説明した方が良い。例えば、ソーラーパネルの耐用年数が経過し、廃棄するにはどれぐらいの費用がかかる等があると思います。（40代）
- 町内は太陽光パネルばかりで、田畑、山がどんどん無くなっていく。フェンスに囲まれたつまたい町になっている。ゼロカーボンの為に町が崩れていくようだ。（50代）
- ソーラーパネルの寿命は約20年と言われていますが、20年後の改修工事について、検討されていますか。また、ソーラーパネルのリサイクル等については、検討されていますか。大量の産業廃棄物が発生するようであれば本末転倒。大きな社会問題になると思います。（60代）
- 20年後のゼロカーボンの実績が思い浮かばない。（70代以上）

【取り組みの進め方に対する意見】

- ゼロカーボンで「理想」とされる町づくりをしたい。太陽光パネルが目立つが、ぜひ他にも今後期待できる技術等を積極的に取り入れて欲しい。スタート地点にいる分、可能性は沢山あるため、他町村にできないことに取り組みたい。（10～20代）
- 大熊町だけでは不可。現在、国や県がついているからできる話だが、国や県の補助がなければ計画が倒れることが見えている。もう少し、町独自で出来る範囲で計画すべき。（30代）
- 町の財政に負担のない範囲で実行していただければと思います。（40代）
- メガソーラーなどで自然破壊し、町の田舎の美しい景観を壊さないで下さい。最悪の原発事故の町を世界一美しい大熊町にして、皆が帰ってきたくるように、田舎の良い所を考えて計画して下さい。（60代）
- 長期計画での実施となる為、住民の声を大切に取り入れて進めて欲しい。原発事故の経験を基に、「二酸化炭素排出」を目指す方法でやる。（70代以上）

3-12 意見・要望

問24 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、606世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

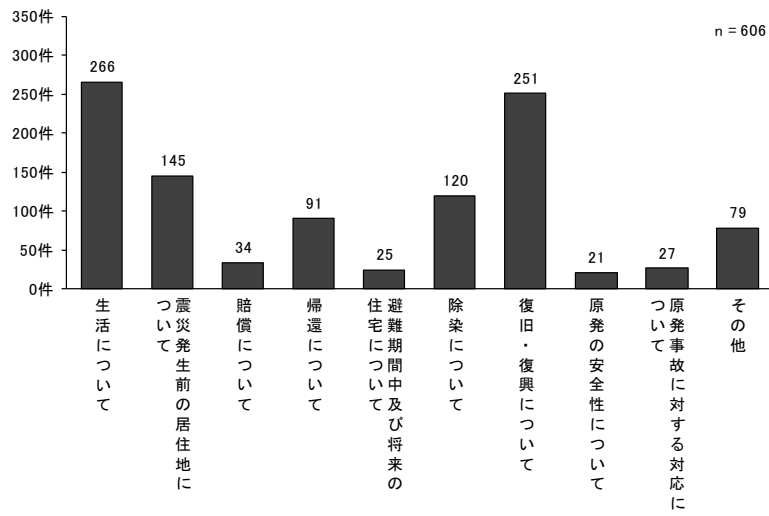
<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意識について ・除染作業の効果等について ・除染作業の実施箇所等について ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染産廃物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地等の管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について <p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について <p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

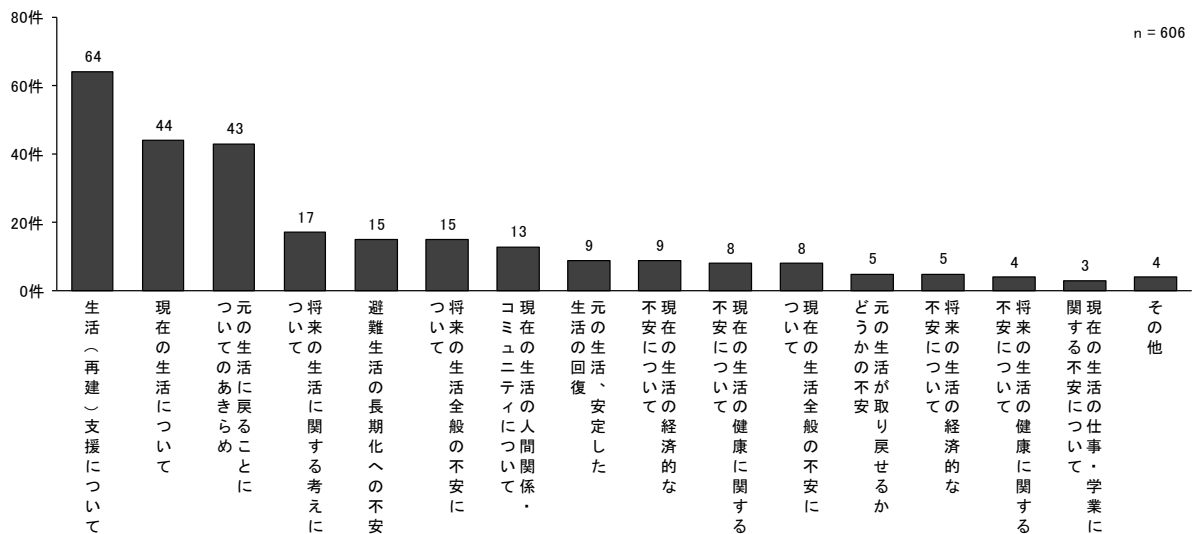
3-12-1 意見に係る記入内容の分類結果

＜図表3-12-1 意見に係る記入内容の分類結果＞



3-12-2 生活について

＜図表3-12-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 金銭面の手厚い支援が必要。ふるさとカードを継続して使えるように。医療費免除の継続。（10～20代）
- 高速道路の無料継続を希望します！（50代）
- 避難指示は解除になっても、生活は避難時と変わりはないので、支援等、特に宿賃等の支援は続けて欲しい。（60代）

【現在の生活について】

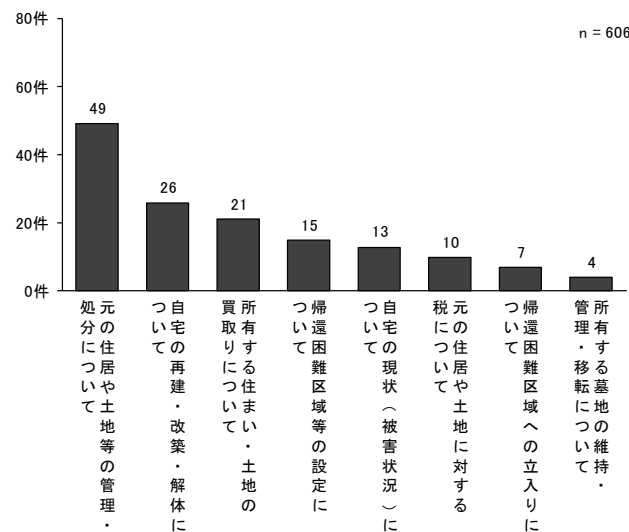
- 地元ではありませんが、これから活気があふれた町になるよう願っています。定期的に物資が送られてきますが、こんな自分でもまだ繋がりがもっているのかと嬉しく思います。茨城にいますが、福島、双葉郡、大熊町の復興を心から祈っています。（30代）
- 早いもので、あっという間の10年。町の方をはじめ、沢山の人の励ましや、支えて頂いた事に感謝したいと思います。経年と共に体力の衰えも進み、ようやく年金暮らしの仲間入りする所ですが、テレビや新聞報道を目にすると、国のこれからの進め方に不安を大きく感じている所です。（60代）
- 避難生活10年を経過して、身心共に非常に疲れている状況である。引継ぎ、支援等を賜りたいと思っています。（70代以上）

【元の生活に戻ることについてのあきらめについて】

- 仕方がないとは思っていますが、住んでいた家が取り壊され、中間貯蔵施設になってしまい、中学校が取り壊され、また思い出の場所が消えていくことはすごく心が痛い。何もうれしい事がない。ただ悲しいだけ。もう少し町民の気持ち考えて欲しい。（10～20代）
- 安心して住めるくらいに線量が下がっているのか不安。生きているうちに、原発事故前に戻る気がしない。（40代）
- 大熊町に住みついて、現在に至っている。今振り返ってみると、友情に厚い新しい友を多く得たことは本当に良かったが、あの事故のため何もかも失われた気がします。特に子供達の記念樹などは、考えても考えても残念です。今は家もなく、荒れた土地のみとなり、気持ちが落ち込みます。町には復興があるが、高齢者にはありません。（70代以上）

3-12-3 震災発生前の居住地について

<図表3-12-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地等の管理・処分について】

- ・月1～2回の家の草刈り、除草等、広いので大変。又、田畑の管理等も個人管理になると聞いているが、とても出来ないで、町での管理を今後もお願いしたい。何かに使用してもらっても良いと考えている。(40代)
- ・私の大熊の家は帰宅困難区域です。復興再生拠点に力を入れるのは理解できますが、帰宅困難区域に家がある人達は途方に暮れています。取り壊しも片付けもできない状況です。帰宅困難地区をどうにか前に進めて欲しいと思っています。(50代)
- ・被災にあった土地を、自分達の子供に迷惑がかからない様に処分したい。町に分譲団地だったので、町で買ってもらって頂き、コミュニティーゾーン、企業ゾーンとするなり有効活用して欲しい。町から中央台霊園の管理代を払って使用していた。帰還指示が解除になったら、自分達が生きているうちに更地にして返したいので、町として早くに検討して欲しい。(60代)

【自宅の再建・改築・解体について】

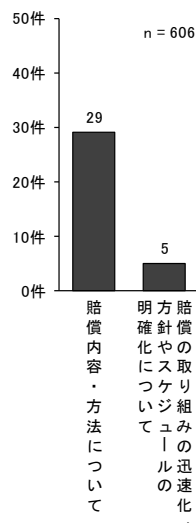
- ・早急に家の取り壊しをしたいので、どのようにしたらよいか等、手続きの仕方を教えてもらいたい。(40代)
- ・とにかく早急に除染、家屋の解体時期等の計画を明確に示して欲しい。高齢者の為時間がない。子供達に始末を頼めない！(60代)
- ・復興計画に入らない地域（白地地区）について、「いつまでにこうする」といった計画を提示して欲しい。除染に関らず、早く家屋を解体して欲しい。朽ちていく家を見続けるのは苦しい。火災の心配もある。いつも心配している(60代)

【所有する住まい・土地の買取りについて】

- ・土地を買い取っていただきたい。解体・除染済みだが、管理しきれない。(50代)
- ・大熊町の土地の維持管理費用、いずれ発生する固定資産税、交通費（ガソリン、高速料金）が大きく、経済的負担となり不安である。いずれ管理しきれなくなる。うまく売れば良いが、町・県・国等で維持管理していただくとありがたい。荒地が広がって行くのは忍びない。(60代)
- ・帰還困難区域でも売却できるのですか？跡継ぎのいない高齢者は、どうしたらよいか困っています。(70代以上)

3-12-4 賠償について

＜図表3-12-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

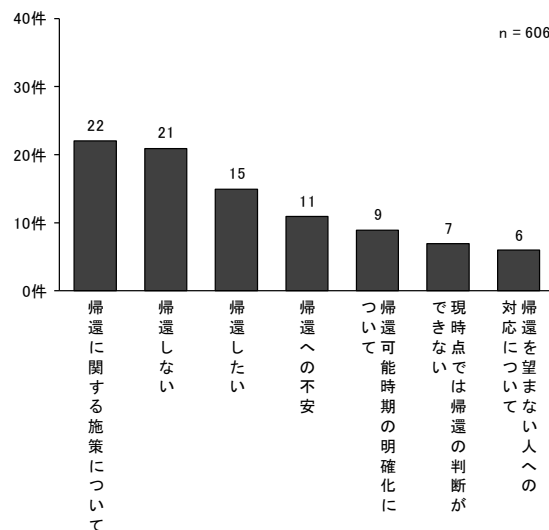
- 中間貯蔵施設エリアと、それ以外のエリアに住んでいた人との賠償の差が大きいと感ずます。帰還できないのはどちらも同じです。その差を埋める賠償を要望します。（40代）
- 地域の事情で、避難指示区域の解除する所と解除しない所があるが、解除できないのなら、何らかの賠償をすべきではないか。同じ自宅の賠償を受けて、既に自宅に戻っている人がいる（他の町を含む）。自分の家は少し修繕すれば住める状態だったが、段々傷みが酷くなり、修繕しても無理な状態になってきている。この差を埋めてもらいたい。（60代）
- 帰郷を望む方にとっては、全町避難指示解除まで重い精神的負担を強いられると言わざるを得ず、東電・国に対して、全町避難指示解除まで精神的慰謝料を支払い続けるよう要請して欲しい。（70代以上）

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

- 大熊町は、東京電力へ直接の賠償を請求して、元町民に還元するべきである（近隣町村は行っている）。復興に対しては、国と連携して今後ともよろしく願います。避難先と大熊町とのつながりだけは、なくさないで下さい。やはりふるさと喪失が否めない。（50代）
- 「医療費免除に関する要望事項」2023年度から避難区域が解除された市町村の区域にあっては、医療費免除の見直し報道について、以下の理由により大熊町（双葉町も同様）においては、当面現状の措置を維持して頂ける様要望致します。町内は今、帰還解除の大川原地区・特定復興再生拠点区域・帰還困難区域・中間貯蔵施設区域と分割されており、町民間にいろんな面で格差・分断が発生しているのが現状であること。本件に関しては、大熊町は統一した方法で対応して頂きたい。今回の事案は、以前大川原地区は居住制限区域となり他の帰還困難区域との賠償金に格差があることから、町が支援し平等対応して格差を解消したケースと同様と考える。（60代）
- 今後において老人ホームに入居したいが、入居手続きをして、その費用が確定しない限り、残っている賠償金が支払われない事になっている。残っている賠償金については、老人ホームへの入居確定有無に関らず、先に支払ってもらいたい。（70代以上）

3-12-5 帰還について

<図表3-12-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- 突飛なことではなく、堅実な再興への取り組みを期待しています。若者の帰還率や移住を進めていきたいと考えているのであれば、若者世代へのヒアリングも行って欲しいです。聞くだけでなく、実際に意見を取り入れるなど、「聞いて終わり」はやめていただけると嬉しいです。一緒になってやっていきたいと思っています。全国の大学などとの連携も良いと思いますが、町に縁のある若者へのヒアリング等はやらないのでしょうか？（10～20代）
- 町への帰還希望は壮年の方が多いと思うが、若者・次世代が健全でなければ、真の復興ではない。若者目線で若者が魅力を感じる施策で、帰町意欲を盛り上げて下さい。（50代）
- 特定復興再生拠点区域外の地区の解除の見通しが立っていない地域で、帰らない人達の建物に対して、国、福島県、大熊町はどうするのか聞きたい。これから我々はどうすれば良いのですか。（60代）

[帰還しない]

- 補填のことは気になる。大熊のことは大好きだけど、今の生活に満足しているので、当分戻ることはないと思う。復興に携わっている全ての方々には、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。どうか無理はなさらず、焦らずに未来へ向かって行って欲しい。（30代）
- 町内に住んでいる方の復興も大切なことと思いますが、町外に住んでいる者に対する、心の復興を真剣に考えて頂きたい。町に戻らないと決めた理由には、戻りたくても戻れないという辛い決断によるものだと理解して頂きたい。（50代）
- 住民票を会津若松市に移すべきなのかの判断が難しい。戻らないとは決めているものの、補償やこれからも継続的なバックアップをしてもらえることと考えると、面倒だから大熊町の住民票のままでもいいという気もしてしまう。（60代）

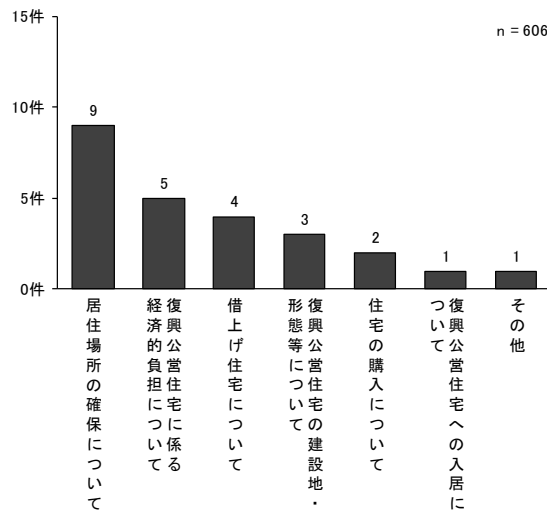
Ⅲ 調査結果（全項目）

【帰還したい】

- 現在は他県に新築して住んでおりますが、もっと年を重ねて、大熊町が安全と判断できましたら、是非また帰って住んでみたいと心から願っております。原発に頼らない為のスマートステップとして、自宅は太陽光発電を屋根に14.7kw/hのせて、晴れた日は9.9kw/h発電して自宅で使い、もしくはリーフ電気自動車を充電し、残りを売電しています。夜はV2Hのシステムで、リーフから住宅の発電に利用しています。大熊町を皮切りに、他の市町村でもこの様な取り組みが増えてくれたらと切に願っております。（40代）
- 除染を一日も早く。安心して帰郷出来れば喜ばしい。駅前通りは10年前と変わらない寂しさ。駅前に住宅を無くした方々が泊まれるホテル等があれば、故郷に戻った気持ちになれる心境になるのでは（過去の大熊町が大好きだから）。色々な計画がある様ですが、ひとつずつ前進して行って頂きたいです。生まれ育った町から別の地域に住まわせて頂いていますが、本音は戻りたいです。どの様になっても、大熊町に変わりないと思いますので、元気で見届けたいと思います。（60代）
- 6月に久しぶりに帰郷して、「できるなら大熊町に戻りたい」との思いにかられました。今はそういう心境です。（70代以上）

3-12-6 避難期間中及び将来の住宅について

＜図表3-12-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 大熊の元の場所に家を建てて住みたいが、今現在いわき市に家を建ててしまっている。そういう相談にものっていただきたい。また大熊に家を建てる時の補助金とかもあるのか。そういう方が多いので、本当に町民を戻すのなら、補助金制度等を作っていただきたい。（30代）
- 大熊町の復興は大川原地区だけで終わりなのか？と思わせるような現状。中間施設へ協力した住民が早く大熊町へ戻れるよう、不動産取得情報も含め常に提供して欲しい（帰宅困難区域のビジョンをはっきり示して欲しいと思う。おおまかではなく、いついつまでに目差すとか）。住めると思われる住宅がほったらかしになっているのが残念。一旦国に買い上げてもらって、住みたい人に売買することも考えた方が、早く帰れるような気がしますがいかがでしょうか。そのための除染も大々的に実施して欲しい（双葉町のようにダメ）。今のままでは、大熊町に住民票はあるものの、土地も家もなく、大熊町外に住むしか選択がない状況です。（50代）
- 運よく家族も就労することができました。被災以前と違う業務の仕事にも慣れてきました。やっと落ち着いた生活のために、現在の公営住宅の入居期間の延長を要望いたします。（70代以上）

【復興公営住宅に係る経済的負担について】

- 県営住宅に住んでいますが、家賃が上がると聞いたので、今後どうするか悩んでいます。ペット可能な住宅が少ないので、現在の所を更新する予定ですが、年々家賃が上がることに少々不満があります。（30代）
- 無駄な事をしている気がします。まだまだ先が不安定なのに、戻る戻らないではない。戻るなら3町村一つにしていいと思う（人口が減るのだから）。もっといい方法を考えて欲しい。いわき市、郡山市、福島市、会津若松市に住んでいる人達の事を、もっと真剣に考えて欲しい。まだ仮設住宅に住むしかありえないです。家賃を支払う生活ありえないです。子供が大きくなり仕事をし家賃が上がり、県営住宅にいる事が出来なくなってきている今、家を建てる選択肢しかない。居住地の悩み、ご近所さんとうまくつきあえるかの不安。帰った人だけの事でなく、帰れない人の町づくりして欲しい。（40代）
- 帰還困難区域（中間貯蔵施設地）なので、帰る、戻るころはなく、時間の経過とともに高齢になり、気力、体力、経済力等が覚束なくなっている。公営住宅（集合住宅）入居の方の中には、無償の方もいます。この差は？線引き区切には臍に落ちない。（70代以上）

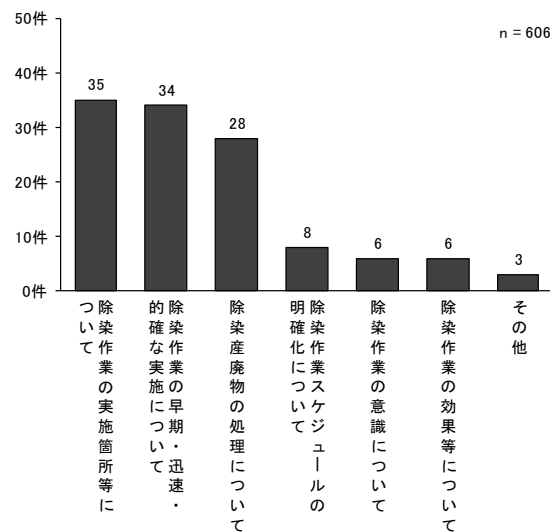
Ⅲ 調査結果（全項目）

【借上げ住宅について】

- 日頃より復興に携わる全ての方々に感謝しております。テレビで拝見しても、商業施設、交流施設等が完成する度に兆しを感じております。毎年、暮参り（義父）に足を運んでいます。夫婦共々会話の中で、子供達が自立したら、落ち着いた元の地で生活もいいねと話しています。正直子供達には、大熊町から避難してきたことは、10年経った現在も伝えていません。それは今後も変わりません。でも妻の地元で、妻の父のお墓がある以上、将来は戻りたいという想いはあります。現在の借上げ住宅の提供は本当に助かっていますが、毎年、来年はどうだろうと不安がつきまとっているのが現状です。10年経っても、全てが元の状態ではないので、借上げの提供は今後も継続していただけると幸いです。（30代）
- 借り上げ住宅を重複して借りている方がいると聞いたことがあります。役場や県では、きちんと把握しているのでしょうか？（70代以上）

3-12-7 除染について

＜図表3-12-7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の実施箇所等について】

- ・義務教育学校予定地の南側、東側は、除染されていない地区と隣接しており、学校に通う子どもたちの不要な被ばくにつながる。不要な被ばくを避ける権利を守る取り組みを行って欲しい。（1）モニタリングポストを複数箇所設置するよう環境省に要望するという話が、町政懇談会であった。ぜひ実現して欲しい。設置箇所については、子ども達が屋外活動をするところで、放射線量が北側と比べても高い南側のこども園園庭や、屋外広場をお願いしたい。（2）避難指示解除の基準値以上、または年間1ミリシーベルト以上のホットスポットはすみやかに除染する体制を作って欲しい。また、帰りたくても帰れない町の子どもに対し、ふるさと大熊町とのつながりを保つための取り組みを行って欲しい。（40代）
- ・「帰還意向がある住宅の場所を除染する」と聞いたのですが、周りの人達が帰還しなければ除染してもらえず、自分の所だけ除染しても意味がない様な気がします。除染している所は何度もして、10年間1度もしてもらえない所も沢山あります。まずは大熊町全体を除染するべきです。それから帰還するかどうかを聞くべきです。（50代）
- ・帰還困難区域は、帰町するしないに関わらず、東京電力・国の責任で早期に除染を実施すべき。帰還困難区域とその他の区域を分断させない、あるいは格差を広げない施策を求めます。（70代以上）

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- ・個人的なことですが、私の自宅西側の擁壁が崩れたままで、農道をふさいでいます。また崩れかけの建物もあり、危険な状態です。帰還意向に関係なく、白地地区も早急に除染・解体を進めてもらわないと、私の代で直すことができるのか不安です。（50代）
- ・特定復興再生拠点区域から外れた帰還困難区域に自宅がありますが、この区域だけ取り残されている感があります。早急に除染に着手し、家屋の解体を考えています。自分が元気なうちに少しでも早く実現できる様、対処願います。（60代）
- ・町内全ての除染を先行して、帰還できる環境を整備して欲しい。（70代以上）

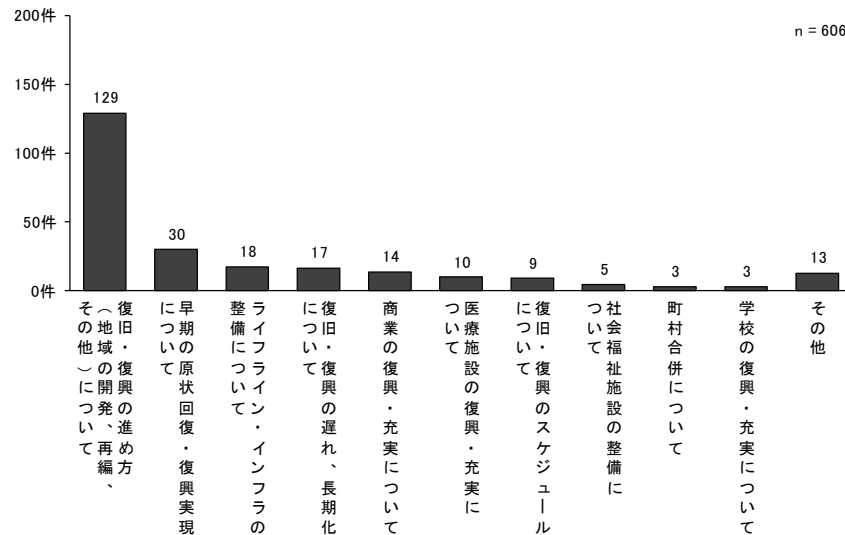
Ⅲ 調査結果（全項目）

【除染産廃物の処理について】

- 世界的にみて、福島は安全な町とは見られていない。最終処分場についても、受け入れ先の確保もできていない。ではどこが、その場所として良いのか？すでに汚染され、表面上の汚染分しか除去しかない国。大熊町や双葉町しかこの大役を引き受けられないのでは？逃げるのではなく、日本の未来の為に考えるべきでは？（４０代）
- 白地地域の除染計画の明確化。ALPS処理水の安全な海への放出実施と風評被害の対策。（６０代）
- 中間貯蔵されている汚染物の最終処分はどうか。最終処分場の予定地はどこか。発電所内にある処理水の処理方法は、漁業関係者との話し合いはどうか。又風評対策はどうなっているのか。処理水で動植物にどんな影響があるのか、実験はしたのか。町民や国民、又、隣国や国際的な機関の同意は得ているのか等、明確な説明をするべきである。決して自己満足にならないようにするべきだ。（７０代以上）

3-12-8 復旧・復興について

<図表3-12-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 元の大熊町に戻すことは不可能に近いのではないかと。原発事故を経験した町だからこそ、新たな産業・新たな生活スタイルを見つけていき、それを日本全国、そして世界へ発信していくことができるのでは？（30代）
- ゼロカーボンビジョンはもちろん、他の原発問題のない地域が盛んに取り組んでいる課題も大事だが、大熊町が抱えている問題・課題を棚上げにして、そちらに向かって欲しくない。まずは当たり前で生活できる状況・環境を取り戻すことが最重要。取り戻すまではこれのみに力を入れるべき。意向確認にだけ頼らず、町に戻ってもらえる、戻りたくなる、住みたくなる取組を求める。（50代）
- 町民にとって公平な対策をして頂きたい。町に戻っている町民に対して優遇が多い。他の地域で生活する事が、どんなに大変か理解して欲しい。若い人が戻らない以上、復興とは言えないと思います。（70代以上）

【早期の原状回復・復興実現について】

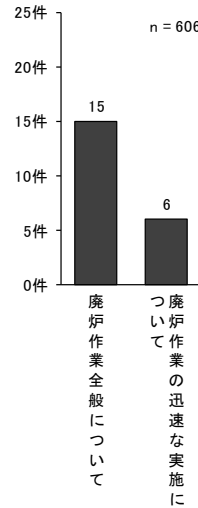
- 時間というのはとても大事で、長い時間が経過すると共に故郷に対する愛着が薄れたり、避難先での生活が落ち着いてしまったりしてしまいます。心の葛藤は今も続いています。早くみんなが幸せになれる日が来る事を願うばかりです。医療費、高速道路の無料措置は今後も継続をお願いします。（40代）
- 大野小学校・大熊中学校・双葉郡の高校を卒業した私にとって、大熊町は心の故郷です。1日も早い、完全再生・復興を願っています。また訪れたい場所です。（50代）
- 帰還困難区域の解除に向け、国は今よりスピードを持って対応をお願いしたい。大熊町へ戻る可能性も年齢とともに減少せざるを得ない。とにかく早く。地方自治体については是非国への要望を続けて欲しい。（70代以上）

【ライフライン・インフラの整備について】

- 元々、この地域に住んでいた方のために、健康やインフラ設備を万全にした状態で、安全に生活させてあげて欲しい。（30代）
- まずは見た目を美しくして欲しい。雑草が伸びきっている場所や、古い家が沢山ある場所に戻りたいと思う人は少ないでしょう。（40代）
- アパート等の修理には補助があり、個人の自宅には補助が無い。帰町を思う人にとって、不公平だと考える。10年以上放置した水道下水管は大丈夫なのか。まだ水道が使えない現状では、先が見えない。特に水道等の洩れが心配です。水道事業団になり、スムーズな対応が出来るのか心配である。（70代以上）

3-12-9 原発の安全性について

＜図表3-12-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

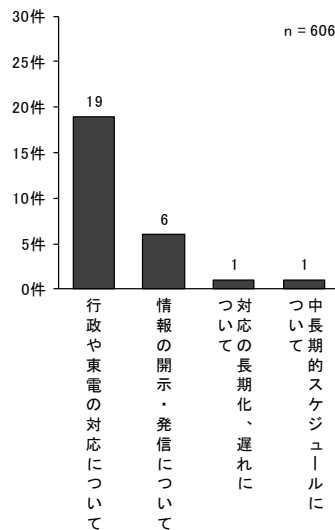
- 福島県内の原発の廃炉を滞りなく進め、除染に関しても引き続き進め、線量低減を図って欲しい。浜通りから中通り、会津方面への交通アクセスは道路に限られ、鉄道やバスなどの公共交通は今一つで、車がないと生活できないので、車の免許を持たない人（免許返納者を含む）が移動に不自由しない様、公共交通の整備を進めて欲しい。（50代）
- 現在実施中の廃炉作業においては、今後も大量の放射性廃棄物等が発生する懸念があり、それら廃棄物の保管管理や処分には莫大な費用が必要になります。将来の子供たちへの負担を少しでも抑えるためには、原子力発電所を積極的に誘致した地域の責任として、事故炉が身近にある大熊町だからこそ決断すべきことがある様に思えます。（60代）
- 拠点区域外の除染は、「希望に応じて」。実施に関して具体策を示さないはなぜなのか。当事者である私に見えてこない。関係町村の要望内容が、先程の町政懇談会では把握出来なかった。廃炉のロードマップに具体性が見えないことに、町はどのように考えているのか示していただきたい。（70代以上）

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 廃炉関連（汚染水処理、中間貯蔵施設、最終処分場の早期決定、等）事業のロードマップ見直しと、早期の達成に向けた人材育成についての取り組み。未だ帰還困難区域の除染作業の完了が見えてこないのはなぜ？まだまだ不安材料がある。そんな想いが早くなくなる様、町・県・国にお願いしたい。（60代）
- 「中間貯蔵は30年、最終処分場にしない」の約束は必ず守って下さい。廃炉を確実・安全に進めて下さい。私達は「風評被害」ではなく、「実害」です。大熊町を安心安全な町に一日も早く戻して下さい。（60代）
- 原発を早くなくして、早く元の町の姿に戻して欲しい。小さくとも住み良い町だった。思い出の多い町でした。（70代以上）

3-12-10 原発事故に対する対応について

<図表3-12-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

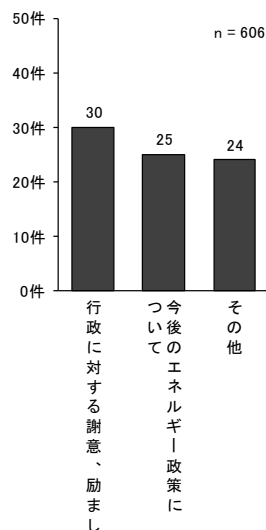
- 国や福島県は、大熊町なみの情熱を持ち、復興に努力して欲しい。（40代）
- 東電の誠意が一切感じられない。避難が継続しているのにも関わらず、何の音沙汰もない。東電に対しては細かな対応と、現在も避難が続いている住民がいることを強く訴えて欲しい（個人では難しい。行政がしっかり対応して欲しい）。（50代）
- 住民の要望、意見を聞く機会をもっと多く開いて欲しい。東電の住民への直接説明する機会を作ってください。（60代）

【情報の開示・発信について】

- 避難している場所で当たり前のように生活していると、あまり情報が入ってこないことが、この頃多くなってきています。町、県、国がもっと発信をして欲しい。町としてしても色々な取り組みをしているので、協力できることがあれば協力したいです。（50代）
- 新生大熊に住む人の絶対的安心のために、原発廃炉、中間貯蔵の放射能の心配があってはならない。進行状況を常に監視する体制を持つべきである。町民への公表は必要であろう。（70代以上）
- 中間貯蔵施設の30年後の問題、処理水の問題、除染の進み具合など、大変だとは思いますが、町民と一体感が感じられる様な情報発信をお願いしたい。明るい話ばかりでは無く、悪い話（情報）もうまく行かない理由なども提供して欲しい。会社では悪い情報を優先的に報告、共有しています。（70代以上）

3-12-11 その他

<図表3-12-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- いつも米や特産物を送って頂き、ありがとうございます。家族で美味しく食べています。当時、社宅がたまたま大熊町だったということで、まだこのような繁がりを持ってうれしく思います。双葉郡に今後どんどん企業が進出し、雇用が生まれれば移住者や戻る人も出てくるのでは？長い長い道のりかと思いますが、いわき市から応援しています。（10～20代）
- 大熊町の皆様、いつも情報などありがとうございます。これからも大熊町の復興の様子、楽しみにしております。（40代）
- 私共の様な高齢者は大したお役にも立てず、「歯がゆい」思いですが、大熊町が子供たちや若者の世代が、ここで生まれ育って良かったと、感じてくれる街づくりをしていかなければ…とは思いますが。声を出すべき時は声を出し、しっかり見守って行く責任はあると感じます。明るい未来のため、今頑張っている全ての方に感謝したいと思います。（60代）

【今後のエネルギー政策について】

- ゼロカーボン掲げる（に挑戦する）企業の誘地を積極的に行ってはどうか。誘地するために、法人税を大きく免除するなどして、雇用と産業活性を活性化することに期待したい。大熊町や福島県がトップランナーになろうと考えるのであれば、他とは違う将来を見据えた施策が必要。（30代）
- ゼロカーボンビジョンの発想は非常に良いと思いますが、基本的なエネルギー政策が、個人的に見えませんが。ゼロカーボンといいつつ、火力発電が主な日本に於て、本当にゼロカーボンはあるのか疑問です。自然エネルギーを主に置いた時、安定的な電力供給が可能かは、誰が見てもわかると思います。未来を見据え、エネルギー政策の検討を！（60代）
- 復興を目指す大熊町だからこそ、世界レベルのCO₂問題を大きく捉えて欲しい。避難している人々は、どんどん年をとる。町へ戻らないと決めた者の土地を利用し、再生可能エネルギーを導入し、脱炭素の実現することを強く望む。また、そんな大熊町の将来を早く見たい。（70代以上）

IV 參考資料

4-1 使用調査票

令和3年度 大熊町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、大熊町に住民登録されていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。
ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在、世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票が送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。
- ・ の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。
- ・**調査票は記名式でお願いしております。**恐れ入りますが、最終ページに「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いします。

● 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、大熊町、福島県及び復興庁において適切に管理いたします。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**11月15日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-990-917

[設置期間：11月2日（火）～11月15日（月）平日10時～17時]
土・日・祝を除く

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 生活拠点課
電話 024-521-8306

大熊町

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717番地
大熊町役場 企画調整課
電話 0240-23-7584

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 性別を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【すべての方にうかがいます。】

問 2 あなたの現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ～19歳 | 8. 50～54歳 |
| 2. 20～24歳 | 9. 55～59歳 |
| 3. 25～29歳 | 10. 60～64歳 |
| 4. 30～34歳 | 11. 65～69歳 |
| 5. 35～39歳 | 12. 70～74歳 |
| 6. 40～44歳 | 13. 75～79歳 |
| 7. 45～49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 3 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態)(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 8. 学生 ⇒ <u>問 4-1 (2 ページ) へ</u> |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 9. 無職(職を探していない)
⇒ <u>問 4-1 (2 ページ) へ</u> |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している)
⇒ <u>問 4-1 (2 ページ) へ</u> |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 11. その他 [具体的に:] |
| 5. 団体職員 | |
| 6. 公務員 | |
| 7. パート・アルバイト | |

【仕事に就いている方((1)で「1」から「7」までと、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種(○は1つ)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 農業(畜産業を含む) | 8. 卸・小売り・飲食、サービス業 |
| 2. 林業 | 9. 金融・保険業 |
| 3. 漁業 | 10. 医療・福祉 |
| 4. 建設業 | 11. 教育 |
| 5. 製造業 | 12. 公務 |
| 6. 電気・ガス・水道業 | 13. その他 [具体的に:] |
| 7. 運輸業 | |

東日本大震災発生当時の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。(○は1つ)
※別途同封しております「大熊町管内図」をご覧ください。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 避難指示が解除された地域(中屋敷・大川原地区) | 4. 「1」「2」「3」以外の区域 |
| 2. 特定復興再生拠点区域 | 5. わからない |
| 3. 中間貯蔵施設予定地の区域 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|---------|-------------------------------|
| 1. 中屋敷 | 7. 大野1 | 13. 熊3 | 19. 夫沢1 |
| 2. 野上1 | 8. 大野2 | 14. 町 | 20. 夫沢2 |
| 3. 野上2 | 9. 大川原1 | 15. 熊川 | 21. 夫沢3 |
| 4. 下野上1 | 10. 大川原2 | 16. 野馬形 | 22. その他 (わからない場合は住所を記載してください) |
| 5. 下野上2 | 11. 熊1 | 17. 小入野 | () |
| 6. 下野上3 | 12. 熊2 | 18. 大和久 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 (具体的に:) |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | () |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舍など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいの自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. 大熊町
2. いわき市
3. 相馬市
4. 南相馬市
5. 広野町
6. 檜葉町
7. 富岡町
8. 川内村
9. 浪江町
10. 葛尾村
11. 新地町
12. 飯館村

【 中 通 り 】

13. 福島市
14. 郡山市
15. 白河市
16. 須賀川市
17. 二本松市
18. 田村市
19. 伊達市
20. 本宮市
21. 桑折町
22. 川俣町
23. 大玉村
24. 西郷村
25. 三春町

【 会 津 】

26. 会津若松市
27. 喜多方市
28. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 28 以外) 】

29. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

30. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 8-1 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)
2. 大熊町営の災害公営住宅(大熊町内・有償)
3. 福島県営(本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む)の復興公営住宅(大熊町外・有償)
4. その他の公営住宅(「2」と「3」は除く。有償)
5. 民間賃貸住宅(有償)
6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
7. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に: _____)

→ 問 8-1 で「2」以外を選んだ方は、問 9 (4 ページ) へ

【問 8-1 で「2. 大熊町営の災害公営住宅（大熊町内・有償）」と回答した方にうかがいます。】

問 8-2 現在お住まいになっている災害公営住宅について、住み心地や不便を感じる部分について教えてください。（〇はいくつでも）

1. 不便はなく、満足している	6. 収納スペース
2. 部屋数、間取り	7. 採光、風通し
3. 玄関や床の段差	8. その他（具体的に：
4. 壁や床の防音	）
5. 水回りの機能性	

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

将来に関するご意向についてお聞かせください。

大熊町は平成31年4月に一部地域の避難指示が解除され、大川原地区の復興拠点を中心に、帰還のための環境整備を進めてまいりました。

住宅環境では、令和元年6月に災害公営住宅第1期が50戸、同年10月には再生賃貸住宅40戸が完成し、翌年の令和2年5月には災害公営住宅第2期の42戸が完成しました。

また、子育て世代を対象にした再生賃貸住宅（戸建タイプ）8戸を、令和5年春（義務教育学校の開校前）までに整備予定です。

令和2年4月には高齢者グループホームの「おおくまもみの木苑」の開所、令和3年2月からは「大熊町診療所」が開所し、内科の診療を開始。令和3年4月には商業施設「おおくまーと」、10月には交流施設「linkる大熊」、宿泊温泉施設「ほっと大熊」がオープンしています。

公共交通では、町の生活循環バス（無料）と新常磐交通バスが運行しています。生活循環バス（無料）は、大川原地区復興拠点、JR大野駅、JR富岡駅、富岡町の医療機関、商業施設「さくらモール」等を運行中です。

一方、平成29年11月に認定されました帰還困難区域内における「特定復興再生拠点区域復興再生計画」では、JR大野駅周辺や下野上地区を中心に「特定復興再生拠点区域」（約860ha）と位置づけ、令和4年春頃までに除染を行い避難指示解除による居住開始を目指しています。

また、令和3年8月に、国は特定復興再生拠点区域外について「2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めて行く」方針を示しました。今後、国及び県、町は、住民の意向を個別に丁寧に把握した上で、必要な箇所を除染し、帰還・居住に必要な対応を進めてまいります。

【すべての方にうかがいます。】

問 10 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. すでに大熊町で生活している | ⇒ <u>問 11-1 (6 ページ) へ</u> |
| 2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) | ⇒ <u>問 11-1 (6 ページ) へ</u> |
| 3. まだ判断がつかない | ⇒ <u>問 13-1 (8 ページ) へ</u> |
| 4. 戻らないと決めている | ⇒ <u>問 15-1 (11 ページ) へ</u> |

問 12-1 からは、問 10 で
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 12-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。(○は1つ)

1. 1年以内
2. 3年以内
3. 5年以内
4. 特定復興再生拠点区域外にある自宅の除染・避難指示解除が行われるまで待ちたい
5. しばらく様子をみたい
6. その他(具体的に: _____)

問 12-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 家族全員での帰町を考えている | ⇒ <u>問 12-3</u> へ |
| 2. 家族一部での帰町を考えている | ⇒ <u>問 12-3</u> へ |
| 3. 現在検討しているところ | ⇒ <u>問 13-1 (8 ページ)</u> へ |
| 4. まだわからない | ⇒ <u>問 13-1 (8 ページ)</u> へ |

【問 12-2 で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 18 歳未満	人	ウ) 65 歳以上の方	人
イ) 18 歳以上 65 歳未満	人		

問 13-1 からは、問 10 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 13-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考える施設を教えてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 医療施設 | 5. 運動施設 |
| 2. 介護・福祉施設 | 6. その他 |
| 3. 保育・教育施設 | (具体的に: _____) |
| 4. 金融機関・ATM | |

問 13-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 住宅の修繕・建て替えの相談サービス | 7. 食事宅配サービス |
| 2. 雇用確保・就業支援の相談サービス | 8. 公共交通サービス |
| 3. 安否確認・見守りサービス | 9. 通信環境改善の相談サービス |
| 4. 健康相談・生活相談サービス | 10. 教育環境の充実・サービス |
| 5. 健康増進・介護予防サービス | 11. その他 |
| 6. 移動販売サービス | (具体的に: _____) |

問 13-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

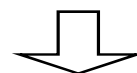
- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | 8. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の
持ち家を建てたい | 9. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 10. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | 11. その他 |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | (具体的に: _____) |
| 6. 公営住宅(一戸建) | |
| 7. 公営住宅(集合住宅) | 12. 現時点では判断できない |

問 13-4 大川原地区内の「復興拠点」やJR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。
(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1. 大川原地区内の復興拠点に居住したい | |
| 2. 特定復興再生拠点区域に居住したい | ⇒ <u>問 13-5 (9 ページ) へ</u> |
| 3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない | ⇒ <u>問 13-6 (9 ページ) へ</u> |
| 4. 判断ができない | ⇒ <u>問 13-7 (9 ページ) へ</u> |



問 13-4 で「1」を選び、
問 10 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」を選んだ方は
問 17(14 ページ)へ



問 13-4 で「1」を選び、
問 10 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は
問 14-1(10 ページ)へ

IV 参考資料

【問 13-4 で「2. 特定復興再生拠点区域に居住したい」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に、町により住宅地が整備された場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|-----------------|-------------|
| 1. 公営住宅(一戸建) | 5. その他 | 【具体的に:
】 |
| 2. 公営住宅(集合住宅) | | |
| 3. 分譲地を購入し、自宅を建築 | | |
| 4. 特定復興再生拠点区域にある自宅 | 6. 現時点では判断がつかない | |

→ 問 10 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 17(14 ページ)へ

→ 問 10 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 14-1(10 ページ)へ

【問 13-4 で「3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」に居住しない理由はどのようなことですか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外にある自宅に戻りたいから |) |
| 2. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域以外に自宅を購入し生活したいから | |
| 3. その他(具体的に: | |

→ 問 10 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 17(14 ページ)へ

→ 問 10 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 14-1(10 ページ)へ

【問 13-4 で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| 1. 周辺環境がわからないから |) |
| 2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)がどの程度整備されるかわからないから | |
| 3. 生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから | |
| 4. 生活の拠点にできるかわからないから | |
| 5. どのような人が住むかわからなく不安だから | |
| 6. 幼稚園、小学校、中学校等の教育機関がどの程度整備されるかわからないから | |
| 7. 自身の生活の見通しがたっていないから | |
| 8. その他(具体的に: | |

→ 問 10 で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問 17(14 ページ)へ

→ 問 10 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 14-1(10 ページ)へ

問 14-1 からは、問 10 で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 14-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

1. 帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. 幼稚園、保育所、小学校、中学校に関する情報
12. その他(具体的に:)

問 14-2 問 14-1 で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 14-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の期待、要望

問 14-3 特定復興再生拠点区域外の避難指示解除について、「2020 年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めていく」との国の方針が示されました。この方針は帰町への判断に影響はありますか。(○は1つ)

1. 帰町を選択する大きな材料になる
2. 具体的な避難指示解除の時期・範囲等の条件による
3. 帰還困難区域の全面解除を待ちたい
4. 影響なし
5. その他(具体的に:)

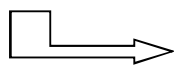
問 15-1 からは、問 10 で「3. まだ判断がつかない」
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

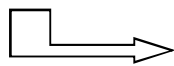
問 15-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない |
|---------|-----------|

問 15-2 大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 1か月に1回程度 | 4. 1年に1回程度 |
| 2. 2～3か月に1回程度 | 5. 2～3年に1回程度 |
| 3. 半年に1回程度 | 6. 訪れるつもりはない |

 問 10 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 17(14 ページ)へ

 問 10 で「4. 戻らないと決めている」を選んだ方は、問 16-1(12 ページ)へ

問 16-1 からは、問 10 で
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

問 16-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰町の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
4. 中間貯蔵施設が整備されるから
5. 原子力発電所の廃炉作業が行われているから

【町内の復旧状況に関わるもの】

6. 特定復興再生拠点区域外であり解除の見通しが立っていないから
7. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
8. 大熊町での事業の再開が難しいから
9. 営農再開に不安があるから
10. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
11. 大熊町外への移動交通が不便だから
12. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
13. 医療環境に不安があるから
14. 介護・福祉サービスに不安があるから
15. 教育環境に不安があるから
16. 生活に必要な商業施設などが不足しているから

【今後の生活に関わるもの】

17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 子供の遊び場(屋内・屋外)が無いから
19. 他の住民も戻りそうにないから
20. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
21. 帰町までに時間がかかるから
22. 避難先で仕事を見つけているから
23. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
24. 避難先の方が、生活利便性が高いから
25. すでに生活基盤ができているから
26. その他

【具体的に:

問 16-2 問 16-1 で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 16-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の要望

問 16-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 役場からの継続的な情報提供
4. イベントや交流の場の開催

5. 一時帰宅支援

6. その他

【具体的に:

問 16-4 今後の居住を検討している(既に居住している場合を含む)自治体はどの自治体になるかを教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 富岡町 7. 川内村 8. 浪江町 9. 葛尾村 10. 新地町 11. 飯舘村 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 福島市 13. 郡山市 14. 白河市 15. 須賀川市 16. 二本松市 17. 田村市 18. 伊達市 19. 本宮市 20. 桑折町 21. 川俣町 22. 大玉村 23. 西郷村 24. 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 会津若松市 26. 喜多方市 27. 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 27 以外) 】</p> <p>28. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村) <p>【 福島県外 】</p> <p>29. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (都・道・府・県) <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 25px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村・区)
--	---	---

問 16-5 今後のお住まいとして希望する(既に居住している場合を含む)住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなど) 3. 民間賃貸住宅(一戸建) 4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) 5. 公営住宅(一戸建) 6. 公営住宅(アパート・マンションなど) 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 給与住宅(社宅など) 8. 家族のどなたかのお住まい 9. 親戚・知人宅 10. その他
--	--

(具体的に: _____)

大熊町内での就労意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 17 町では町内への企業立地を進めております。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1. 町内で就労したい ⇒ [就労を希望する方の人数: _____人]
2. 条件が合えば町内で就労したい
3. 町内での就労希望者はいない

大川原地区での教育施設の開校についてお聞かせください。

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】

問 18-1 町では令和5年春に、町内の大川原地区で教育施設(幼保小中一体型の施設)を開校する予定です。

その際お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。(○は1つ)

1. 通園・通学をさせたい ⇒ 問 18-2 へ
2. 通園・通学の意向はない ⇒ 問 19-1 (15 ページ) へ
3. わからない ⇒ 問 19-1 (15 ページ) へ

【問 18-1 で「1. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】

問 18-2 お子様・お孫様に通園・通学をさせたい校種について教えてください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 保育所 | 2. 幼稚園 | 3. 小学校 | 4. 中学校 |
|--------|--------|--------|--------|

不動産（土地・家屋）の取り扱い意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 19-1 町内に保有している家屋・宅地の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)
(複数所有している場合は自宅についてお答えください)

1. 世帯で保有している家屋・宅地はない
2. 建物・宅地除染後、自ら使いたい
3. 建物・宅地除染後、親戚・親族・友人に使ってほしい
4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている ⇒ [問 19-2 へ](#)
5. 家屋を解体して建替えたい
6. 家屋を解体して更地にしたい
7. 家屋・宅地除染後に判断したい
8. 全て中間貯蔵施設予定地内に保有している
9. その他(具体的に: _____)

↳ [問 19-1](#) で「4」以外を選んだ方は、[問 20-1](#) (16 ページ) へ

【[問 19-1](#) で「4. 建物・宅地除染後、売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 19-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。(○は1つ)

1. 登録している ⇒ [問 20-1](#) (16 ページ) へ 2. 登録していない ⇒ [問 19-3](#) へ

◆不動産利活用事業とは◆

町がおおくままちづくり公社に委託している事業で、不動産の売買や賃貸を希望する町民の土地や建物の情報を収集し、将来の利活用につなげることを目的としています。

問い合わせ先 : 一般社団法人 おおくままちづくり公社
電話番号 : 0240-23-7101
受付 : 平日 9時~17時

【[問 19-2](#) で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】

問 19-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。(○は1つ)

1. 不動産利活用事業を知らなかったから
2. 所有している家屋・宅地が荒廃していて登録できるとは思わなかったから
3. おおくままちづくり公社以外の不動産業者に依頼を考えているから
4. その他(具体的に: _____)

復興公営住宅についてお聞かせください。

◆復興公営住宅とは◆

将来の帰町に向け、仮設住宅等から安定的な居住・生活環境に移っていただくためなど、原子力災害により避難の継続を余儀なくされている方々の居住の安定を確保するために、福島県が主体となり整備している公営住宅です。

※大熊町が整備した町内の災害公営住宅とは異なりますのでご注意ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 20-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

1. すでに入居している、もしくは入居の申込み中である
2. 今後、入居の申込みをしたい ⇒ 問 20-2 へ
3. 入居を希望しない
4. 判断できない

判断できない理由：

⇨ 問 20-1 で「2」以外を選んだ方は、問 21(17 ページ)へ

【問 20-1 で「2. 今後、入居の申込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 20-2 入居を希望する市町村について教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------|-----------------|
| 1. 福島市 | 6. 二本松市 |
| 2. 会津若松市 | 7. 田村市 |
| 3. 郡山市 | 8. 南相馬市 |
| 4. いわき市 | 9. 本宮市 |
| 5. 白河市 | 10. その他(市町村名：) |

※この質問への回答により、入居申し込み等に影響があるものではありません

【すべての方にうかがいます。】

問 21 あなた以外の中学生以上のご家族のご意向について、次のページ(18 ページ)の表1～4から、該当する番号を選んでご回答ください。
 回答は、中学生以上の個人ごとに、同居されているご家族全員分ご記入ください。
 ※あなたご自身のご意向については、記入いただく必要はありません。

	氏名	性別	年齢	あなたとの 続柄 ＜表1＞	大熊町への 帰町の意向 ＜表2＞	今後の 住まいの 意向 ＜表3＞	町に 求める 支援等 ＜表4＞
	氏名を記入 してください	番号を○で 囲んで ください	現在の 年齢を 記入して ください	18 ページの 表1から ひとつ 選んで ください	18 ページの 表2から ひとつ 選んで ください	18 ページの 表3から ひとつ 選んで ください	18 ページの 表4から ひとつ 選んで ください
記入例	大熊 花子	1. 男 2. 女	30 歳	[2]	[1]	[7]	[7]
1人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
2人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
3人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
4人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
5人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
6人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
7人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
8人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
9人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]
10人目		1. 男 2. 女	歳	[]	[]	[]	[]

【表1：あなたとの続柄】

- | | |
|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 5. 父・母 |
| 2. 子 | 6. 祖父・祖母 |
| 3. 孫 | 7. その他 |
| 4. 兄弟・姉妹 | （具体的に： |

【表2：大熊町への帰町の意向】

- | |
|--------------------------|
| 1. すでに戻っている |
| 2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) |
| 3. まだ判断がつかない |
| 4. 戻らないと決めている |

表3と表4は、表2で「1. すでに戻っている」「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」「3. まだ判断がつかない」と回答したご家族の方のみご回答ください。

表2で「4. 戻らないと決めている」と回答したご家族の方は、表3と表4への回答は不要です。

【表3：今後の住まいの意向】

- | |
|-----------------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) |
| 6. 公営住宅(一戸建) |
| 7. 公営住宅(集合住宅) |
| 8. 給与住宅(社宅など) |
| 9. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 10. 親戚・知人宅 |
| 11. その他(具体的に：) |
| 12. 現時点では判断できない |

【表4：町に求める支援等】

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 被ばく低減対策 | 7. 公共交通機関の充実 |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | 8. 雇用確保・就業支援 |
| 3. 商業施設の再開や新設 | 9. 高齢者世帯に対する生活支援 |
| 4. 医療機関の再開や新設 | 10. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 5. 介護福祉施設の再開や新設 | 11. その他 |
| 6. 学校や教育施設の再開や新設 | （具体的に： |

大熊町からの情報入手についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 22-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 広報おおくま | 7. テレビ |
| 2. 大熊町お知らせメール | 8. ラジオ |
| 3. 大熊町ホームページ | 9. 家族・友人・知人から |
| 4. 大熊町フェイスブック(おおくま広報室) | 10. その他 |
| 5. 新聞(福島県内の地方紙) | (具体的に: |
| 6. 新聞(全国紙、福島県以外の地方紙) |) |

【すべての方にうかがいます。】

問 22-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. やや満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらともいえない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 22-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 現在の熊町内の様子 | 7. 医療・福祉・介護に関すること |
| 2. 復興計画の進行状況 | 8. 子育て・教育に関すること |
| 3. 各種手続きに関すること | 9. 生涯学習・スポーツ・施設利用に関する情報 |
| 4. イベント情報 | 10. その他 |
| 5. 町長の動向 | (具体的に: |
| 6. 防火・防災・災害情報 |) |

大熊町の持続可能なまちづくりへの取り組みについてお聞かせください。

大熊町は令和3年2月、ゼロカーボンビジョンを策定しました。
 これは、二酸化炭素の排出を大幅に削減し、2040年には実質ゼロ、2050年にはマイナス達成とすることを目指すものです。
 大熊町は、原発事故を経験した町だからこそ、原発や化石エネルギーに頼らず、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりに取り組み、私たちの子ども、孫たちが誇りをもって語れるまちを目指します。
 同封の「大熊町ゼロカーボンビジョン概要版」を、参照ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 23-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。(○は1つ)

1. 知っていた
2. ゼロカーボンビジョンは知っていたが、内容は知らなかった
3. 知らなかった

【すべての方にうかがいます。】

問 23-2 「大熊町ゼロカーボンビジョン」で、目指している大熊町の持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

国や福島県、大熊町へのご意見などについてお聞かせください。

問 24 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

今回の調査では帰町や今後の生活環境に関する住民のみなさんのご意見をうかがうことを目的に実施するものです。

本調査でいただいたご回答については、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料として活用させていただきます。

なお、ご回答いただいた現在の状況や今後のご意向、大熊町への帰町をご希望される場合のご希望の状況などについて、改めてお聞きする場合がありますので、あなたの氏名と現在の住所、連絡先をご記入いただけますと幸いです。

F1 あなたの氏名

F2 現在あなたがお住まいの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
11月15日(月)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**大熊町 住民意向調査
報告書**

令和4年3月

復興庁 福島県 大熊町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

